

552, 061

(12)特許協力条約に基づいて公開された国際出願

(19) 世界知的所有権機関
国際事務局



(43) 国際公開日
2004 年 10 月 28 日 (28.10.2004)

PCT

(10) 国際公開番号
WO 2004/091663 A1

(51) 国際特許分類⁷: A61K 45/00, 31/404, 31/405, 31/407, 31/553, C07D 403/04, 403/14, 498/22, A61P 25/28, 25/08, 25/22, 25/18, 25/24, C07D 487/14

(21) 国際出願番号: PCT/JP2004/005503

(22) 国際出願日: 2004 年 4 月 16 日 (16.04.2004)

(25) 国際出願の言語: 日本語

(26) 国際公開の言語: 日本語

(30) 優先権データ:
特願2003-114579 2003 年 4 月 18 日 (18.04.2003) JP

(71) 出願人(米国を除く全ての指定国について): 協和醸酵工業株式会社 (KYOWA HAKKO KOGYO CO., LTD.) [JP/JP]; 〒1008185 東京都千代田区大手町一丁目 6 番 1 号 Tokyo (JP).

(72) 発明者; および

(75) 発明者/出願人(米国についてのみ): 森下 剛 (MORISHITA, Tsuyoshi). 桜田 一洋 (SAKURADA, Kazuhiro). 鈴木 恵子 (SUZUKI, Keiko). 池田 俊一 (IKEDA, Shun-ichi).

(81) 指定国(表示のない限り、全ての種類の国内保護が可能): AE, AG, AL, AM, AT, AU, AZ, BA, BB, BG, BR, BW, BY, BZ, CA, CH, CN, CO, CR, CU, CZ, DE, DK, DM, DZ, EC, EE, EG, ES, FI, GB, GD, GE, GH, GM, HR, HU, ID, IL, IN, IS, JP, KE, KG, KP, KR, KZ, LC, LK, LR, LS, LT, LU, LV, MA, MD, MG, MK, MN, MW, MX, MZ, NA, NI, NO, NZ, OM, PG, PH, PL, PT, RO, RU, SC, SD, SE, SG, SK, SL, SY, TI, TM, TN, TR, TT, TZ, UA, UG, US, UZ, VC, VN, YU, ZA, ZM, ZW.

(84) 指定国(表示のない限り、全ての種類の広域保護が可能): ARIPO (BW, GH, GM, KE, LS, MW, MZ, SD, SL, SZ, TZ, UG, ZM, ZW), ヨーラシア (AM, AZ, BY, KG, KZ, MD, RU, TI, TM), ヨーロッパ (AT, BE, BG, CH, CY, CZ, DE, DK, EE, ES, FI, FR, GB, GR, HU, IE, IT, LU, MC, NL, PL, PT, RO, SE, SI, SK, TR), OAPI (BF, BJ, CF, CG, CI, CM, GA, GN, GQ, GW, ML, MR, NE, SN, TD, TG).

添付公開書類:

— 國際調査報告書

2 文字コード及び他の略語については、定期発行される各 PCT ガゼットの巻頭に掲載されている「コードと略語のガイダンスノート」を参照。

(54) Title: DRUG FOR NERVE REGENERATION

(54) 発明の名称: 神経再生薬

WO 2004/091663 A1

(57) Abstract: It is intended to provide a drug for nerve degeneration, a nerve stem cell neurogenesis promoter, a neuron obtained by culturing a nerve stem cell in the presence of the neurogenesis promoter, and a method of producing the neuron. To achieve the above objects, a drug for nerve degeneration which contains as the active ingredient a substance inhibiting the activity of a glycogen synthase kinase-3, a nerve stem cell neurogenesis promoter containing this substance as the active ingredient, a neuron obtained by culturing a nerve stem cell in the presence of the neurogenesis promoter, and a method of producing the neuron are provided. The above-described drugs are useful as remedies for nerve diseases such as Parkinson's disease, Alzheimer's disease, Down's disease, cerebrovascular disorder, cerebral stroke, spinal injury, Huntington's chorea, multiple sclerosis, amyotrophic lateral sclerosis, epilepsy, anxiety disorder, integration dysfunction syndrome, depression and manic-depressive.

(57) 要約: 本発明の課題は、神経再生薬、神経幹細胞のニューロン新生促進剤、該ニューロン新生促進剤の存在下、神経幹細胞を培養して得られるニューロンおよび該ニューロンの製造方法を提供することにある。該課題を解決するため、本発明は、グリコーゲンシンターゼキナーゼ-3の活性を阻害する物質を有効成分として含有する神経再生薬、該物質を有効成分として含有する神経幹細胞のニューロン新生促進剤、該ニューロン新生促進剤の存在下、神経幹細胞を培養して得られるニューロンおよび該ニューロンの製造方法を提供する。本発明の医薬は、パーキンソン病、アルツハイマー病、ダウン症、脳血管障害、脳卒中、脊髄損傷、ハンチントン舞蹈病、多発性硬化症、筋萎縮性側索硬化症、てんかん、不安障害、統合失調症、うつ病、躁鬱病などの神経疾患治療薬として有用である。

明細書

神経再生薬

技術分野

本発明はグリコーゲンシンターゼキナーゼ-3（以下、GSK-3と略す）の活性を阻害する物質を有効成分として含有してなる神経再生薬、GSK-3の活性を阻害する物質を有効成分として含有してなるニューロン新生促進剤、該ニューロン新生促進剤の存在下、神経幹細胞を培養して得られるニューロン、および該ニューロンの製造方法に関する。

10 背景技術

神経疾患とは、脳や末梢のニューロンが遺伝的要因、環境要因、加齢要因などにより傷害を受ける疾患である神経変性疾患と、神経の変性を伴わないうつ病および躁鬱病等とを総称する。神経変性疾患として、具体的には、パーキンソン病、アルツハイマー病、ポリグルタミン酸病、筋萎縮性側索硬化症、多発ニューロパチー、15 脊髄損傷、脳血管障害などがあげられる。これら神経変性疾患の一般的治療法は、ニューロンの傷害により失われた神経伝達物質を補充する療法であるが、該療法で症状が改善するのはパーキンソン病、アルツハイマー病などに限定される。また神経伝達物質補充療法では神経細胞死の進行を止めることはできない。

中枢神経系を再生する再生医療は、パーキンソン病で失われたドーパミン作動性20 ニューロンの機能を積極的に回復させる治療法として検討が進められてきたが、中絶胎児脳を用いる方法であることから様々な問題があり一般的な利用としては応用されていない。

また、胎児脳から取得した神経幹細胞やヒト受精卵から取得したES細胞を生体外で大量培養した後、目的のニューロンへ変換して移植に用いるという治療法も検討されているが、目的とするニューロンへ正確に分化させる技術は確立されておらず、また胎児由来の神経幹細胞やヒトES細胞を用いる方法であることに起因する問題もあり、臨床応用は進んでいない。

一方、成体脳から神経幹細胞が分離され、ヒト成体脳でも生涯にわたりニューロンの新生が起こることが報告されたことから、患者の脳内に内在する神経幹細胞を

薬剤などで刺激して再生を誘導して神経変性疾患を治療する方法が検討されている。

インスリン様増殖因子-1 [J. Neuroscience, 20, 2896-2903(2000)]、線維芽細胞増殖因子-2 [Pro. Nat. Acad. Sci. USA, 98, 5874-5879(2001)]、システムセ

5 ルファクター [J. Clin. Invest., 110, 311-319(2002)]、エリスロポエチン [J. Neuroscience, 21, 9733-9743(2001)]、全脳虚血 [J. Neuroscience, 18, 7768-7778(1998)]、てんかん刺激 [J. Neuroscience, 22, 3174-3188(2002)] など

10 サイトカインの脳内投与や疾患モデルにより海馬や嗅球でのニューロン新生が促進されることが報告されている。また、腫瘍増殖因子- α の脳内投与により線条体でドーパミン作動性ニューロンが新生し、パーキンソン病の症状が改善することも

報告されている [Pro. Nat. Acad. Sci. USA, 97, 14686-14691(2000)]。さらに、

15 海馬への虚血傷害により失われたCA1錐体細胞が虚血後2日目から5日目にかけて脳内に線維芽細胞増殖因子-2と上皮細胞増殖因子を投与することにより、その40%が完全に回復することも報告されている [Cell, 110, 429-441(2002)]。

しかし、上記の方法は、いずれも蛋白性の因子を脳内に投与することが必要であり、一般的な医療へと応用することは困難である。

末梢投与可能な低分子化合物によりニューロン新生を惹起できるものとしては、モノアミンオキシダーゼ阻害剤、セロトニン特異的なトランスポーター阻害剤、フオスフォジエステラーゼIV阻害剤などの抗鬱薬が報告されている [Neuropsychopharmacology, 25, 836-844(2001)]。これらの薬剤が脳内で神経再生を誘導するメカニズムとしては、セロトニン作動性ニューロンのセロトニン受容体シグナルに直接的または間接的に作用して、神経栄養因子を生産し、セロトニン作動性ニューロン周囲のニューロン新生を促進していると考えられている。したがって、これらの薬剤はセロトニン作動性ニューロンの変性とは関係しない大部分の神経疾患においては、神経再生薬として利用することはできないと考えられる。

また、気分安定化薬のリチウムが細胞死抑制遺伝子bcl-2の発現を誘導することにより海馬で恒常に新生している新生ニューロンをニューロン死から保護し、海馬でのニューロン新生を見かけ上増加させることが報告されている [J. Neurochemistry, 75, 1729-1734(2000)]。またリチウムは神経栄養因子BDNFの発

現を誘導することも報告されている [Neuropharmacology, 43, 1173-1179 (2002)]。

しかしながら、リチウムが直接、神経幹細胞に働きかけ、ニューロン分化を促進することによりニューロン新生を促進させることについては報告されておらず、またリチウムの海馬以外でのニューロン新生促進活性についても報告されていない。

5 また、リチウムが何故、神経変性を伴わぬうつ病および躁鬱病に対し治療効果があるのかについても知られていない。

アルツハイマー病では、グリコーゲンシルターゼキナーゼ-3 (以下、GSK-3と略す) が、微小管関連蛋白質であるタウ蛋白質を過剰にリン酸化することで神

10 経原纖維変化を形成し、神経細胞死を誘導するという仮説が提唱されている [Trends in Molecular Medicine, 8, 126-132 (2002)]。またGSK-3の活性を

阻害する物質は、*in vitro* において成熟した神経細胞を保護する活性があると報告

されている [J. Neurochemistry, 77, 94-102 (2001)]。該報告に基づき、GSK-3の活性を阻害する物質は、アルツハイマー病をはじめ様々な神経変性疾患の治療

15 薬として用いることができると考えられている (国際公開第00/38675号パンフレット) が、成熟したニューロンを保護することで実際に神経変性疾患を治療

することができるか否か、およびGSK-3の活性を阻害する物質にニューロン新生促進作用があることは知られていない。

発明の開示

20 本発明の目的は、GSK-3の活性を阻害する物質を有効成分として含有してなる神経再生薬、該物質を有効成分として含有してなる神経幹細胞のニューロン新生促進剤、該ニューロン新生促進剤の存在下、神経幹細胞を培養して得られるニューロンおよび該ニューロンの製造方法を提供することにある。

25 本発明は以下の (1) ~ (4) に関する。

(1) グリコーゲンシルターゼキナーゼ-3 (以下、GSK-3と略す) の活性を阻害する物質を有効成分として含有してなる神経再生薬。

(2) 神経再生薬が、神経疾患の治療薬である上記 (1) の医薬。

(3) 神経疾患が、パーキンソン病、アルツハイマー病、ダウン症、脳血管障

害、脳卒中、脊髄損傷、ハンチントン舞蹈病、多発性硬化症、筋萎縮性側索硬化症、てんかん、不安障害、統合失調症、うつ病および躁鬱病からなる群より選ばれる神経疾患である上記（2）の医薬。

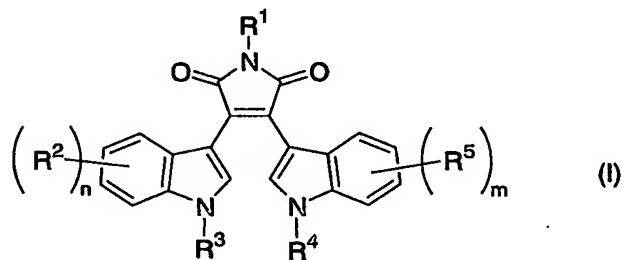
（4） GSK-3の活性を阻害する物質が、リチウムまたはその薬理学的に許

5 容される塩である上記（1）～（3）のいずれか1つの医薬。

（5） GSK-3の活性を阻害する物質が、ビスインドリルマレイミド誘導体、3-アリール-4-インドリルマレイミド誘導体、インドロカルバゾール誘導体、インドロ[3,2-d][1]ベンズアゼピン-6(5H)-オン誘導体もしくはインジルビン誘導体またはそれらの薬理学的に許容される塩である上記（1）～（3）のいずれか1つの医

10 薬。

（6） GSK-3の活性を阻害する物質が、式(I)



[式中、 n および m は同一または異なって、1～3の整数を表し、 R^1 、 R^3 および R^4 は

15 同一または異なって、水素原子、置換もしくは非置換の低級アルキル、置換もしくは非置換の低級アルケニル、 $-COR^6$ (式中、 R^6 は水素原子、置換もしくは非置換の低

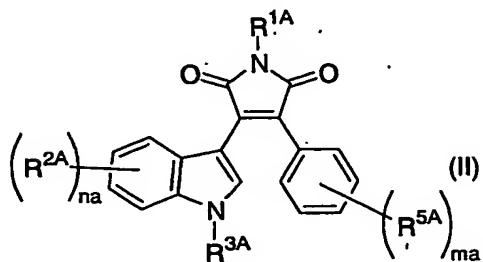
級アルキル、置換もしくは非置換の低級アルケニル、置換もしくは非置換のアリールまたは置換もしくは非置換のシクロアルキルを表す)、 $-COOR^7$ (式中、 R^7 は水素原子、置換もしくは非置換の低級アルキル、置換もしくは非置換のアリールまたは置

20 換もしくは非置換のシクロアルキルを表す) または $-OR^8$ (式中、 R^8 は水素原子、置換もしくは非置換の低級アルキル、置換もしくは非置換のアリールまたは置換もしくは非置換のシクロアルキルを表す) を表し、 R^2 および R^5 は同一または異なって、

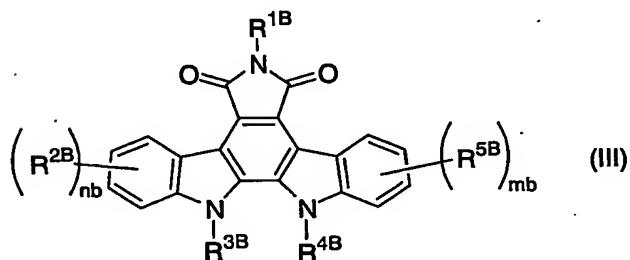
水素原子、置換もしくは非置換の低級アルキル、置換もしくは非置換の低級アルケニル、置換もしくは非置換の低級アルコキシ、置換もしくは非置換の低級アルコキシカルボニル、置換もしくは非置換のアリール、カルボキシ、ハロゲン、ヒドロキ

25 シ、ニトロ、アミノまたはモノもしくはジ低級アルキルアミノを表し、 n および m

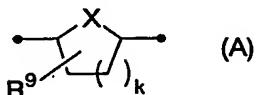
がそれぞれ 2 または 3 であるとき、それぞれの R^2 および R^5 は同一でも異なってい
てもよい] で表される化合物、式(II)



(式中、na、ma、 R^{1A} 、 R^{2A} 、 R^{3A} および R^{5A} は、それぞれ前記 n、m、 R^1 、 R^2 、 R^3 および
5 R^5 と同義である) で表される化合物もしくは式(III)

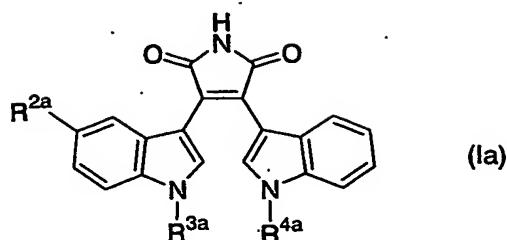


[式中、nb、mb、 R^{1B} 、 R^{2B} および R^{5B} は、それぞれ前記 n、m、 R^1 、 R^2 および R^5 と同義
であり、 R^{3B} および R^{4B} は同一または異なって、水素原子、置換もしくは非置換の低
級アルキル、置換もしくは非置換の低級アルケニル、-COR⁶ (式中、R⁶ は前記と同義
10 である)、-COOR⁷ (式中、R⁷ は前記と同義である) または-OR⁸ (式中、R⁸ は前記と同
義である) を表すか、または R^{3B} と R^{4B} が一緒になって、



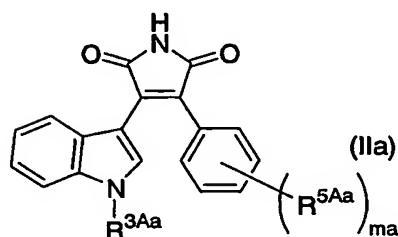
(式中、k は 1 または 2 を表し、X は CH_2 、NH、酸素原子または硫黄原子を表し、R⁹
はヒドロキシ、カルボキシ、カルバモイルまたは低級アルコキシカルボニルを表す)
15 を形成する] で表される化合物またはそれらの薬理学的に許容される塩である上記
(1) ~ (3) のいずれか 1 つの医薬。

(7) GSK-3 の活性を阻害する物質が、式(Ia)



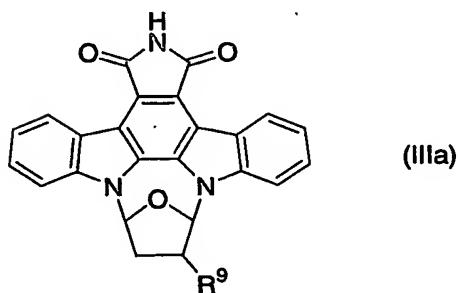
(式中、R^{2a} は水素原子、低級アルコキシ、低級アルコキシカルボニル、アリールまたはニトロを表し、R^{3a} および R^{4a} は同一または異なって、置換もしくは非置換の低級アルキルを表す) で表される化合物またはその薬理学的に許容される塩である上記 (1) ~ (3) のいずれか 1 つの医薬。

5 (8) GSK-3 の活性を阻害する物質が、式 (IIa)



(式中、ma は前記と同義であり、R^{3Aa} は置換もしくは非置換の低級アルキルを表し、R^{5Aa} はハロゲンを表す) で表される化合物またはその薬理学的に許容される塩である上記 (1) ~ (3) のいずれか 1 つの医薬。

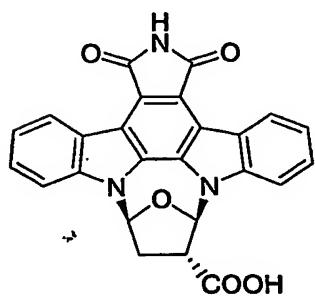
10 (9) GSK-3 の活性を阻害する物質が、式 (IIIa)



(式中、R⁹ は前記と同義である) で表される化合物またはその薬理学的に許容される塩である上記 (1) ~ (3) のいずれか 1 つの医薬。

15 (10) GSK-3 の活性を阻害する物質が、3, 4-ビス (1-メチルインドール-3-イル) - 1H-ピロール-2, 5-ジオン、3 - (1-メチルインドール-3-イル) - 4 - (1-プロピルインドール-3-イル) - 1H-ピロール-2, 5-ジオン、3 - [1 - (3-シアノプロピル) インドール-3-イル] - 4 - (1-メチルインドール-3-イル) - 1H-ピロール-2, 5-ジオン、3

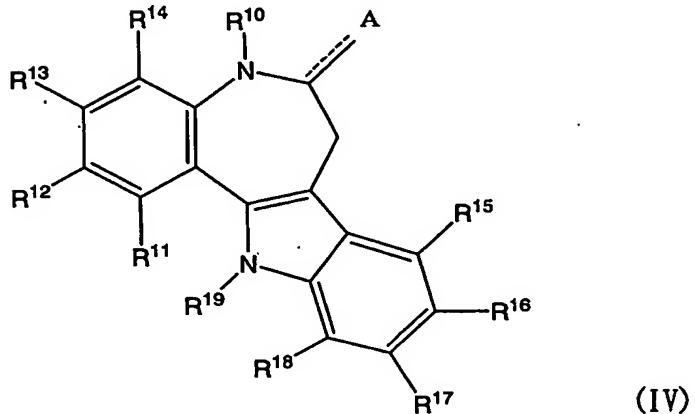
– [1 – (3 – アミノプロピル) インドール – 3 – イル] – 4 – (1 – メチルインドール – 3 – イル) – 1 H – ピロール – 2, 5 – ジオン、3 – [1 – (3 – カルボキシプロピル) インドール – 3 – イル] – 4 – (1 – メチルインドール – 3 – イル) – 1 H – ピロール – 2, 5 – ジオン、3 – [1 – (3 – カルバモイルプロピル) インドール – 3 – イル] – 4 – (1 – メチルインドール – 3 – イル) – 1 H – ピロール – 2, 5 – ジオン、3 – [1 – (3 – アミノプロピル) インドール – 3 – イル] – 4 – (1 – メチル – 5 – プロピルオキシインドール – 3 – イル) – 1 H – ピロール – 2, 5 – ジオン、3 – [1 – (3 – ヒドロキシプロピル) インドール – 3 – イル] – 4 – (1 – メチル – 5 – フェニルインドール – 3 – イル) – 1 H – ピロール – 2, 5 – ジオン、3 – [1 – (3 – アミノプロピル) インドール – 3 – イル] – 4 – (1 – メチル – 5 – フェニルインドール – 3 – イル) – 1 H – ピロール – 2, 5 – ジオン、3 – [1 – (3 – ヒドロキシプロピル) インドール – 3 – イル] – 4 – (1 – メチル – 5 – メトキシカルボニルインドール – 3 – イル) – 1 H – ピロール – 2, 5 – ジオン、3 – [1 – (3 – ヒドロキシプロピル) インドール – 3 – イル] – 4 – (1 – メチル – 5 – ニトロインドール – 3 – イル) – 1 H – ピロール – 2, 5 – ジオン、3 – (1 – メチルインドール – 3 – イル) – 4 – [1 – (3 – ヒドロキシプロピル) – 5 – ニトロインドール – 3 – イル] – 1 H – ピロール – 2, 5 – ジオン、3 – (2 – クロロフェニル) – 4 – (1 – メチルインドール – 3 – イル) – 1 H – ピロール – 2, 5 – ジオン、3 – (2, 4 – ジクロロフェニル) – 4 – (1 – メチルインドール – 3 – イル) – 1 H – ピロール – 2, 5 – ジオン、3 – (2 – クロロフェニル) – 4 – [1 – (3 – ヒドロキシプロピル) インドール – 3 – イル] – 1 H – ピロール – 2, 5 – ジオン、4 – [1 – (3 – アミノプロピル) インドール – 3 – イル] – 3 – (2 – クロロフェニル) – 1 H – ピロール – 2, 5 – ジオンおよび



からなる群より選ばれる化合物またはその薬理学的に許容される塩である上記

(1) ~ (3) のいずれか 1 つの医薬。

(1 1) GSK-3 を阻害する物質が、式 (IV)



5 [式中、A は単結合または二重結合によって右に結合されている酸素または硫黄で
あり、R¹⁰ は水素原子、アリール、低級脂肪族置換基、特にアルキルおよび低級アル
キルエステルからなる群より選択され、R¹¹~R¹⁴ はアルコキシ、アミノ、アシル、
脂肪族置換基、特にアルキル、アルケニルおよびアルキニル置換基、脂肪族アルコ
ール、特にアルキルアルコール、脂肪族ニトリル、特にアルキルニトリル、シアノ、
10 ニトロ、カルボキシル、ハロゲン、水素原子、ヒドロキシル、イミノならびに α 、
 β 不飽和ケトンからなる群より個別に選択され、R¹⁵~R¹⁸ は脂肪族置換基、特にアル
キル、アルケニルおよびアルキニル置換基、特に低級脂肪族置換基、脂肪族アル
コール、特にアルキルアルコール、アルコキシ、アシル、シアノ、ニトロ、エポキ
シ、ハロアルキル基、ハロゲン、水素原子ならびにヒドロキシルからなる群より個
15 別に選択され、R¹⁹ は脂肪族の基、特に低級アルキル基、脂肪族アルコール、特にアル
キルアルコール、カルボン酸、および水素からなる群より選択される] で表され
る化合物またはその薬理学的に許容される塩である上記 (1) ~ (3) のいずれか
1 つの医薬。

(1 2) GSK-3 を阻害する物質が、7,12-ジヒドロ-インドロ[3,2-d][1]ペ
20 ンズアゼピン-6(5H)-オン、2-プロモ-7,12-ジヒドロ-インドロ[3,2-d][1]ベンズア
ゼピン-6(5H)-オン、9-プロモ-7,12-ジヒドロ-インドロ[3,2-d][1]ベンズアゼピン
-6(5H)-オン、9-クロロ-7,12-ジヒドロ-インドロ[3,2-d][1]ベンズアゼピン
-6(5H)-オン、11-クロロ-7,12-ジヒドロ-インドロ[3,2-d][1]ベンズアゼピン

-6(5H)-オン、10-プロモ-7,12-ジヒドロ-インドロ[3,2-d][1]ベンズアゼピン
-6(5H)-オン、8-プロモ-6,11-ジヒドロ-チエノ[3',2':2,3]アゼビノ[4,5-b]インド
-ール-5(4H)-オン、9-プロモ-7,12-ジヒドロ-4-メトキシ-インドロ[3,2-d][1]ベン
ズアゼピン-6(5H)-オン、9-プロモ-7,12-ジヒドロ-4-ヒドロキシ-インドロ
5 [3,2-d][1]ベンズアゼピン-6(5H)-オン、7,12-ジヒドロ-4-メトキシ-インドロ
[3,2-d][1]ベンズアゼピン-6(5H)-オン、9-プロモ-7,12-ジヒドロ-2,3-ジメトキシ
-インドロ[3,2-d][1]ベンズアゼピン-6(5H)-オン、9-プロモ-7,12-ジヒドロ-2,3-
ジヒドロキシ-インドロ[3,2-d][1]ベンズアゼピン-6(5H)-オン、7,12-ジヒドロ
-2,3-ジメトキシ-インドロ[3,2-d][1]ベンズアゼピン-6(5H)-オン、7,12-ジヒドロ
10 -9-トリフルオロメチル-インドロ[3,2-d][1]ベンズアゼピン-6(5H)-オン、7,12-ジ
ヒドロ-2,3-ジメトキシ-9-トリフルオロメチル-インドロ[3,2-d][1]ベンズアゼビ
ン-6(5H)-オン、2-プロモ-7,12-ジヒドロ-9-トリフルオロメチル-インドロ
[3,2-d][1]ベンズアゼピン-6(5H)-オン、9-プロモ-7,12-ジヒドロ-インドロ
[3,2-d][1]ベンズアゼピン-6(5H)-チオン、9-プロモ-5,12-ビス-(t-ブチルオキシ
15 カルボニル)-7,12-ジヒドロ-インドロ[3,2-d][1]ベンズアゼピン-6(5H)-オン、9-
プロモ-12-(t-ブチルオキシカルボニル)-7,12-ジヒドロ-インドロ[3,2-d][1]ベン
ズアゼピン-6(5H)-オン、9-プロモ-5,7-ビス-(t-ブチルオキシカルボニル)-7,12-
ジヒドロ-インドロ[3,2-d][1]ベンズアゼピン-6(5H)-オン、9-プロモ-5,7,12-トリ
- (t-ブチルオキシカルボニル)-7,12-ジヒドロ-インドロ[3,2-d][1]ベンズアゼビ
ン-6(5H)-オン、9-プロモ-7,12-ジヒドロ-5-メチルオキシカルボニルメチル-イン
ドロ[3,2-d][1]ベンズアゼピン-6(5H)-オン、9-プロモ-7,12-ジヒドロ-12-メチル
オキシカルボニルメチル-インドロ[3,2-d][1]ベンズアゼピン-6(5H)-オン、9-プロ
モ-7,12-ジヒドロ-12-(2-ヒドロキシエチル)-インドロ[3,2-d][1]ベンズアゼピン
-6(5H)-オン、2,9-ジプロモ-7,12-ジヒドロ-インドロ[3,2-d][1]ベンズアゼピン
20 -6(5H)-オン、8,10-ジクロロ-7,12-ジヒドロ-インドロ[3,2-d][1]ベンズアゼピン
-6(5H)-オン、9-シアノ-7,12-ジヒドロ-インドロ[3,2-d][1]ベンズアゼピン
-6(5H)-オン、9-プロモ-7,12-ジヒドロ-5-メチル-インドロ[3,2-d][1]ベンズアゼ
ピン-6(5H)-オン、5-ベンジル-9-プロモ-7,12-ジヒドロ-5-メチル-インドロ
[3,2-d][1]ベンズアゼピン-6(5H)-オン、9-プロモ-7,12-ジヒドロ-12-メチル-イン
25 ドロ[3,2-d][1]ベンズアゼピン-6(5H)-オン、9-プロモ-7,12-ジヒドロ-12-メチル-イン

ドロ[3, 2-d] [1]ベンズアゼピン-6(5H)-オン、9-プロモ-12-エチル-7, 12-ジヒドロ-
インドロ[3, 2-d] [1]ベンズアゼピン-6(5H)-オン、9-プロモ-7, 12-ジヒドロ-12-(2-
プロペニル)-インドロ[3, 2-d] [1]ベンズアゼピン-6(5H)-オン、7, 12-ジヒドロ-9-
メチル-インドロ[3, 2-d] [1]ベンズアゼピン-6(5H)-オン、7, 12-ジヒドロ-9-メトキ
5 シ-インドロ[3, 2-d] [1]ベンズアゼピン-6(5H)-オン、9-フルオロ-7, 12-ジヒドロ-
-12-(2-プロペニル)-インドロ[3, 2-d] [1]ベンズアゼピン-6(5H)-オン、11-プロモ
-7, 12-ジヒドロ-インドロ[3, 2-d] [1]ベンズアゼピン-6(5H)-オン、9-プロモ-7, 12-
ジヒドロ-2-(メチルイミノアミン)-インドロ[3, 2-d] [1]ベンズアゼピン-6(5H)-オ
ン、9-プロモ-7, 12-ジヒドロ-2-(カルボン酸)-インドロ[3, 2-d] [1]ベンズアゼピン
10 -6(5H)-オン、9-プロモ-7, 12-ジヒドロ-10-ヒドロキシ-インドロ[3, 2-d] [1]ベンズ
アゼピン-6(5H)-オン、9-プロモ-7, 12-ジヒドロ-11-ヒドロキシメチル-インドロ
[3, 2-d] [1]ベンズアゼピン-6(5H)-オン、7, 12-ジヒドロ-4-ヒドロキシ-インドロ
[3, 2-d] [1]ベンズアゼピン-6(5H)-オン、7, 12-ジヒドロ-2, 3-ジヒドロキシ-インド
15 ロ[3, 2-d] [1]ベンズアゼピン-6(5H)-オン、2, 3-ジメトキシ-9-ニトロ-7, 12-ジヒド
ロ-インドロ[3, 2-d] [1]ベンズアゼピン-6(5H)-オン、9-シアノ-7, 12-ジヒドロ-イ
ンドロ[3, 2-d] [1]ベンズアゼピン-6(5H)-オン、2, 3-ジメトキシ-9-シアノ-7, 12-ジ
ヒドロ-インドロ[3, 2-d] [1]ベンズアゼピン-6(5H)-オン、9-ニトロ-7, 12-ジヒドロ
-インドロ[3, 2-d] [1]ベンズアゼピン-6(5H)-オン、3-(6-オキソ-9-トリフルオロメ
チル-5, 6, 7, 12-テトラヒドロ-インドロ[3, 2-d] [1]ベンズアゼピン-2-イル)プロピ
20 オニトリル、2-プロモ-9-ニトロ-7, 12-ジヒドロ-インドロ[3, 2-d] [1]ベンズアゼピ
ン-6(5H)-オン、3-(6-オキソ-9-トリフルオロメチル-5, 6, 7, 12-テトラヒドロ-イン
ドロ[3, 2-d] [1]ベンズアゼピン-2-イル)アクリロニトリル、2-(3-ヒドロキシ-1-ブ
ロピニル)-9-トリフルオロメチル-7, 12-ジヒドロ-インドロ[3, 2-d] [1]ベンズアゼ
25 ピン-6(5H)-オン、2-(3-オキソ-1-ブテニル)-9-トリフルオロメチル-7, 12-テ
トラヒドロ-インドロ[3, 2-d] [1]ベンズアゼピン-6(5H)-オン、8-クロロ-6, 11-ジヒ
ドロ-チエノ[3', 2' : 2, 3]アゼピノ[4, 5-b]インドール-5(4H)-オン、2-ヨード-9-ト
リフルオロメチル-7, 12-ジヒドロ-インドロ[3, 2-d] [1]ベンズアゼピン-6(5H)-オ
ン、7, 12-ジヒドロ-ピリド[3', 2' : 4, 5]ピロロ[3, 2-d] [1]ベンズアゼピン-6(5H)-オ

ン、11-メチル-7,12-ジヒドロ-インドロ[3,2-d][1]ベンズアゼピン-6(5H)-オン、2-[2-(1-ヒドロキシシクロヘキシル)エチニル]-9-トリフルオロメチル-7,12-ジヒドロ-インドロ[3,2-d][1]ベンズアゼピン-6(5H)-オン、2-シアノ-7,12-ジヒドロ-インドロ[3,2-d][1]ベンズアゼピン-6(5H)-オン、2-ヨード-7,12-ジヒドロ-インドロ[3,2-d][1]ベンズアゼピン-6(5H)-オン、11-エチル-7,12-ジヒドロ-インドロ[3,2-d][1]ベンズアゼピン-6(5H)-オン、8-メチル-6,11-ジヒドロ-チエノ[3',2':2,3]アゼピノ[4,5-b]インドール-5(4H)-オンおよび3-(6-オキソ-9-トリフルオロメチル-5,6,7,12-テトラヒドロ-インドロ[3,2-d][1]ベンズアゼピン-2-イル)アクリル酸メチルエステルからなる群より選ばれる化合物またはその薬理学的に許容される塩である上記(1)～(3)のいずれか1つの医薬。

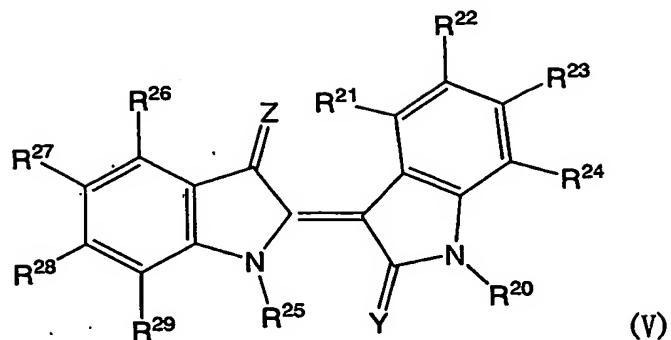
(13) GSK-3を阻害する物質が、9-シアノ-7,12-ジヒドロ-インドロ[3,2-d][1]ベンズアゼピン-6(5H)-オン、9-プロモ-7,12-ジヒドロ-2,3-ジメトキシ-インドロ[3,2-d][1]ベンズアゼピン-6(5H)-オン、2-プロモ-7,12-ジヒドロ-9-トリフルオロメチル-インドロ[3,2-d][1]ベンズアゼピン-6(5H)-オン、7,12-ジヒドロ-2,3-ジメトキシ-9-トリフルオロメチル-インドロ[3,2-d][1]ベンズアゼピン-6(5H)-オン、2,9-ジプロモ-7,12-ジヒドロ-インドロ[3,2-d][1]ベンズアゼピン-6(5H)-オン、7,12-ジヒドロ-9-トリフルオロメチル-インドロ[3,2-d][1]ベンズアゼピン-6(5H)-オン、9-クロロ-7,12-ジヒドロ-インドロ[3,2-d][1]ベンズアゼピン-6(5H)-オン、8-プロモ-6,11-ジヒドロ-チエノ[3',2':2,3]アゼピノ[4,5-b]インドール-5(4H)-オン、7,12-ジヒドロ-9-メトキシ-インドロ[3,2-d][1]ベンズアゼピン-6(5H)-オン、10-プロモ-7,12-ジヒドロ-インドロ[3,2-d][1]ベンズアゼピン-6(5H)-オン、11-プロモ-7,12-ジヒドロ-インドロ[3,2-d][1]ベンズアゼピン-6(5H)-オン、11-クロロ-7,12-ジヒドロ-インドロ[3,2-d][1]ベンズアゼピン-6(5H)-オン、9-フルオロ-7,12-ジヒドロ-インドロ[3,2-d][1]ベンズアゼピン-6(5H)-オン、9-メチル-7,12-ジヒドロ-インドロ[3,2-d][1]ベンズアゼピン-6(5H)-オン、9-プロモ-7,12-ジヒドロ-インドロ[3,2-d][1]ベンズアゼピン-6(5H)-チオン、8,10-ジクロロ-7,12-ジヒドロ-インドロ[3,2-d][1]ベンズアゼピン-6(5H)-オン、9-プロモ-7,12-ジヒドロ-12-(2-ヒドロキシエチル)-インドロ[3,2-d][1]ベンズアゼピン-6(5H)-オン、9-プロモ-7,12-ジヒドロ-2,3-ジヒドロキ

シ-インドロ[3, 2-d] [1]ベンズアゼピン-6(5H)-オン、2-プロモ-7, 12-ジヒドロ-インドロ[3, 2-d] [1]ベンズアゼピン-6(5H)-オン、7, 12-ジヒドロ-2, 3-ジメトキシ-インドロ[3, 2-d] [1]ベンズアゼピン-6(5H)-オン、9-プロモ-7, 12-ジヒドロ-12-メチル-インドロ[3, 2-d] [1]ベンズアゼピン-6(5H)-オン、9-プロモ-7, 12-ジヒドロ-5-メチルオキシカルボニルメチル-インドロ[3, 2-d] [1]ベンズアゼピン-6(5H)-オンおよび7, 12-ジヒドロ-インドロ[3, 2-d] [1]ベンズアゼピン-6(5H)-オンからなる群より選ばれる化合物またはその薬理学的に許容される塩である上記(1)～(3)のいずれか1つの医薬。

(14) GSK-3を阻害する物質が、9-シアノ-7, 12-ジヒドロ-インドロ[3, 2-d] [1]ベンズアゼピン-6(5H)-オン、9-プロモ-7, 12-ジヒドロ-2, 3-ジメトキシ-インドロ[3, 2-d] [1]ベンズアゼピン-6(5H)-オン、2-プロモ-7, 12-ジヒドロ-9-トリフルオロメチル-インドロ[3, 2-d] [1]ベンズアゼピン-6(5H)-オン、7, 12-ジヒドロ-2, 3-ジメトキシ-9-トリフルオロメチル-インドロ[3, 2-d] [1]ベンズアゼピン-6(5H)-オン、2, 9-ジプロモ-7, 12-ジヒドロ-インドロ[3, 2-d] [1]ベンズアゼピン-6(5H)-オン、7, 12-ジヒドロ-9-トリフルオロメチル-インドロ[3, 2-d] [1]ベンズアゼピン-6(5H)-オン、9-クロロ-7, 12-ジヒドロ-インドロ[3, 2-d] [1]ベンズアゼピン-6(5H)-オン、8-プロモ-6, 11-ジヒドロ-チエノ[3', 2':2, 3]アゼピノ[4, 5-b]インドール-5(4H)-オンおよび7, 12-ジヒドロ-9-メトキシ-インドロ[3, 2-d] [1]ベンズアゼピン-6(5H)-オンからなる群より選ばれる化合物またはその薬理学的に許容される塩である上記(1)～(3)のいずれか1つの医薬。

(15) GSK-3を阻害する物質が、9-プロモ-7, 12-ジヒドロ-インドロ[3, 2-d] [1]ベンズアゼピン-6(5H)-オンまたはその薬理学的に許容される塩である上記(1)～(3)のいずれか1つの医薬。

(16) GSK-3を阻害する物質が、式(V)



[式中、同じか異なってよいR²⁰およびR²⁵は水素原子；ハロゲン；ヒドロキシ基；メチレンヒドロキシ基；直鎖または分枝鎖のC₁～C₁₈—アルキルまたはアルコキシまたはメチレンアルコキシ基；必要に応じて1個または複数のヘテロ原子を含む、

5 3から7個一炭素原子を有するシクロアルキル基；必要に応じて1個または複数のヘテロ原子を有する置換または非置換のアリール、アラルキルまたはアリールオキシ基；それぞれ互いに独立に、直鎖または分枝鎖のアルキル基中に1から6個の炭素原子を有するモノー、ジーまたはトリアルキルシリル基；それぞれ互いに独立に置換または非置換アリール基を有するモノー、ジーまたはトリアリールシリル基；

10 トリフルオロメチル基；-COM；-COOM；あるいは-CH₂COOM基（ここでMは水素原子、必要ならばヒドロキシおよび／またはアミノ基1個または複数で置換された直鎖または分枝鎖のC₁～C₁₈—アルキル基、または必要ならば1個または複数のヘテロ原子を有し、1個または複数のハロゲン、アルキル基またはアルコキシ基で置換されていてよいアリール基を表す）；-NR³⁰R³¹基（ここで同じか異なってよいR³⁰およびR³¹は水素原子、必要ならば付加的に1個または複数のヒドロキシおよび／またはアミノ基で置換されているC₁～C₁₈直鎖または分枝鎖アルキル基、置換または非置換で、必要ならば1個または複数のヘテロ原子を含むアリール基を表す）；アシル基；-CH₂-NR³⁰R³¹メチレンアミノ基（ここでR³⁰およびR³¹は前記の意味を有する）；ベンゼン環が必要ならば1個または複数のヘテロ原子を有するベンジル基；必要ならば1個または複数のヘテロ原子を有する、炭素原子3から7個を有するメチレンシクロアルキル基；アミドとしての、窒素原子に結合した生理的アミノ酸基；グリコシドが単糖または二糖から選択されるO-グリコシドまたはN-グリコシド；あるいはメチレンスルホネート基を表し；同じか異なってよいR²¹、R²²、R²³、R²⁴、R²⁶、R²⁷、R²⁸およびR²⁹は水素原子；

ハロゲン；ヒドロキシ基；ニトロソ基；ニトロ基；アルコキシ基；必要ならば1個または複数のヒドロキシおよび／またはアミノ基で置換されている直鎖または分枝鎖のC₁～C₁₈アルキル基；必要ならば1個または複数のヘテロ原子を有する置換または非置換のアリール基；必要ならば1個または複数のヘテロ原子を有する置換または非置換アラルキル基；必要ならば1個または複数のヘテロ原子を有する置換または非置換アリールオキシ基；必要ならば1個または複数のヘテロ原子を有する置換または非置換メチレンアリールオキシ基；必要ならば1個または複数のヘテロ原子を含む、3から7個の炭素原子を有するシクロアルキル基；必要ならば1個または複数のヘテロ原子を含む、3から7個の炭素原子を有するメチレンシクロアルキル基；トリフルオロメチル基；-COM；-COOM；またはCH₂COOM基（ここでMは水素原子、必要ならばヒドロキシおよび／またはアミノ基1個または複数で付加的に置換された直鎖または分枝鎖のC₁～C₁₈アルキル基、または必要ならば1個または複数のヘテロ原子を有し、1個または複数のハロゲン原子、アルキル基またはアルコキシ基で置換されていてよいアリール基を表す）；-NR³⁰R³¹基（ここで同じか異なってよいR³⁰およびR³¹は水素原子、必要ならば付加的に1個または複数のヒドロキシおよび／またはアミノ基で置換されている直鎖または分枝鎖C₁～C₁₈アルキル基、置換または非置換で、必要ならば1個または複数のヘテロ原子を含むアリール基、アシル基を表すか、窒素原子が、必要ならば1個または複数のヘテロ原子を含む、炭素原子3から7個を有するシクロアルキルの一部を形成する）；-CONR³⁰R³¹基（ここでR³⁰およびR³¹は前記の意味を有する）；ヒドロキシリルアミノ基；ホスフェート基；ホスホネート基；スルフェート基；スルホネート基；スルホンアミド基；-SO₂NR³⁰R³¹基（ここでR³⁰およびR³¹は前記の意味を有する）；-N=N-R³²アゾ基（ここでR³²は必要ならば1個または複数のカルボキシリル、ホスホリルまたはスルホネート基で置換された芳香族基あるいはグリコシドが単糖または二糖から選択されているO-グリコシドまたはN-グリコシド基を表す）を表すか；R²⁰およびR²⁴ならびにR²⁵およびR²⁹はそれぞれ一緒になって、互いに独立に必要ならば置換された1から4個のCH₂基を有する環を形成し；同じか異なってよいYおよびZは酸素；イオウ；セレン；テルルの原子；NR³³基（ここでR³³は水素原子、必要ならば1個または複数のカルボ

キシリ、ホスホリルまたはスルホネート基で置換された直鎖または分枝鎖C₁～C₁₈アルキル基、必要ならば1個または複数のヘテロ原子を含む置換または非置換のアリール基、アラルキル基またはスルホネート基を表す)；あるいは-NOR³³(ここでR³³基は前記の意味を有する)を表す]で表される化合物またはそれらの薬理学的に許容される塩である上記(1)～(3)のいずれか1つの医薬。

(17) GSK-3を阻害する物質が、インジルピン、5-ヨード-インジルピン、5-プロモ-インジルピン、5-クロロ-インジルピン、5-フルオロー-インジルピン、5-メチル-インジルピン、5-ニトロ-インジルピン、5-SO₃H-インジルピン、5'-プロモ-インジルピン、5-5'-ジプロモ-インジルピンおよび5'-プロモ-インジルピン5-スルホン酸からなる群より選ばれる化合物またはその薬理学的に許容される塩である上記(1)～(3)のいずれか1つの医薬。

(18) GSK-3を阻害する物質が、インジルピン-3'-モノオキシム、5-ヨード-インジルピン-3'-モノオキシムおよび5-SO₃Na-インジルピン-3'-モノオキシムからなる群より選ばれる化合物またはその薬理学的に許容される塩である上記(1)～(3)のいずれか1つの医薬。

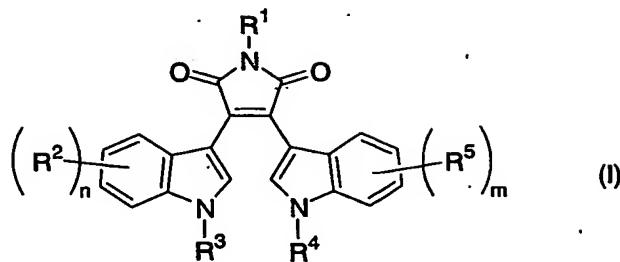
(19) GSK-3を阻害する物質が、インジルピン-3'-モノオキシムまたはその薬理学的に許容される塩である上記(1)～(3)のいずれか1つの医薬。

(20) GSK-3の活性を阻害する物質を有効成分として含有してなる神経幹細胞のニューロン新生促進剤。

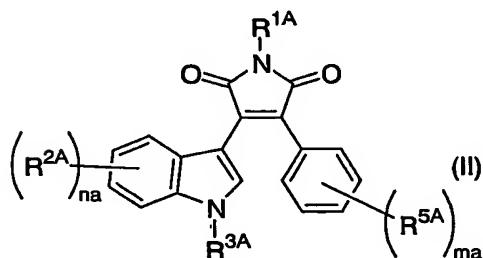
(21) GSK-3の活性を阻害する物質が、リチウムまたはその薬理学的に許容される塩である上記(20)のニューロン新生促進剤。

(22) GSK-3の活性を阻害する物質が、ビスインドリルマレイミド誘導体、3-アリール-4-インドリルマレイミド誘導体、インドロカルバゾール誘導体、インドロ[3,2-d][1]ベンズアゼピン-6(5H)-オン誘導体もしくはインジルピン誘導体またはそれらの薬理学的に許容される塩である上記(20)のニューロン新生促進剤。

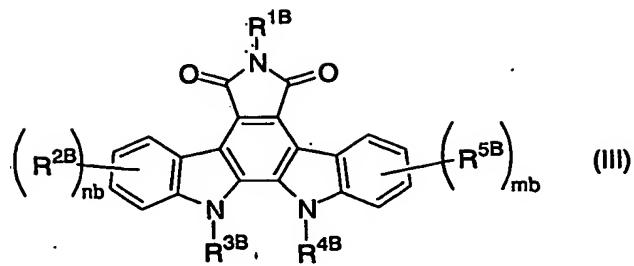
(23) GSK-3の活性を阻害する物質が、式(I)



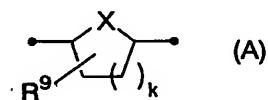
[式中、n および m は同一または異なって、1～3 の整数を表し、R¹、R³ および R⁴ は同一または異なって、水素原子、置換もしくは非置換の低級アルキル、置換もしくは非置換の低級アルケニル、-COR⁶ (式中、R⁶ は水素原子、置換もしくは非置換の低級アルキル、置換もしくは非置換の低級アルケニル、置換もしくは非置換のアリールまたは置換もしくは非置換のシクロアルキルを表す)、-COOR⁷ (式中、R⁷ は水素原子、置換もしくは非置換の低級アルキル、置換もしくは非置換のアリールまたは置換もしくは非置換のシクロアルキルを表す) または-OR⁸ (式中、R⁸ は水素原子、置換もしくは非置換の低級アルキル、置換もしくは非置換のアリールまたは置換もしくは非置換のシクロアルキルを表す) を表し、R² および R⁵ は同一または異なって、水素原子、置換もしくは非置換の低級アルキル、置換もしくは非置換の低級アルケニル、置換もしくは非置換の低級アルコキシ、置換もしくは非置換の低級アルコキシカルボニル、置換もしくは非置換のアリール、カルボキシ、ハロゲン、ヒドロキシ、ニトロ、アミノまたはモノもしくはジ低級アルキルアミノを表し、n および m がそれぞれ 2 または 3 であるとき、それぞれの R² および R⁵ は同一でも異なっていてよい] で表される化合物、式(II)



(式中、na、ma、R¹A、R²A、R³A および R⁵A は、それぞれ前記 n、m、R¹、R²、R³ および R⁵ と同義である) で表される化合物もしくは式(III)

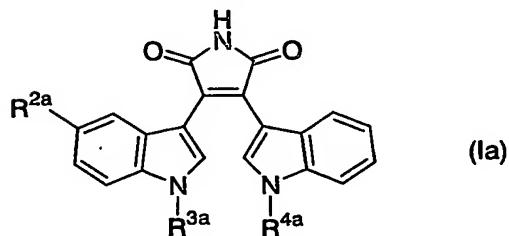


[式中、nb、mb、R^{1B}、R^{2B}およびR^{5B}は、それぞれ前記n、m、R¹、R²およびR⁵と同義であり、R^{3B}およびR^{4B}は同一または異なって、水素原子、置換もしくは非置換の低級アルキル、置換もしくは非置換の低級アルケニル、-COR⁶（式中、R⁶は前記と同義である）、-COOR⁷（式中、R⁷は前記と同義である）または-OR⁸（式中、R⁸は前記と同義である）を表すか、またはR^{3B}とR^{4B}が一緒になって、



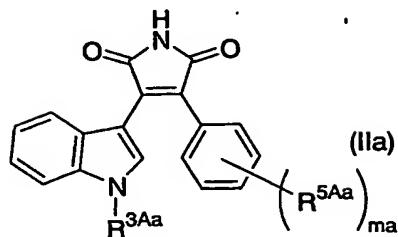
（式中、kは1または2を表し、XはCH₂、NH、酸素原子または硫黄原子を表し、R⁹はヒドロキシ、カルボキシ、カルバモイルまたは低級アルコキシカルボニルを表す）を形成する]で表される化合物またはそれらの薬理学的に許容される塩である上記（20）のニューロン新生促進剤。

（24） GSK-3の活性を阻害する物質が、式(Ia)



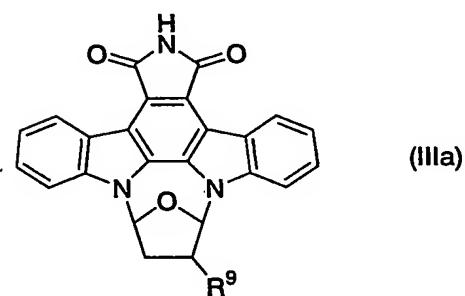
（式中、R^{2a}は水素原子、低級アルコキシ、低級アルコキシカルボニル、アリールまたはニトロを表し、R^{3a}およびR^{4a}は同一または異なって、置換もしくは非置換の低級アルキルを表す）で表される化合物またはその薬理学的に許容される塩である上記（20）のニューロン新生促進剤。

（25） GSK-3の活性を阻害する物質が、式(IIa)



(式中、 ma は前記と同義であり、 R^{3Aa} は置換もしくは非置換の低級アルキルを表し、 R^{5Aa} はハロゲンを表す) で表される化合物またはその薬理学的に許容される塩である上記 (20) のニューロン新生促進剤。

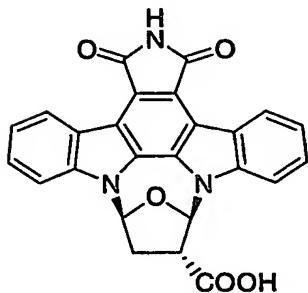
5 (26) GSK-3の活性を阻害する物質が、式(IIIa)



(式中、 R^9 は前記と同義である) で表される化合物またはその薬理学的に許容される塩である上記 (20) のニューロン新生促進剤。

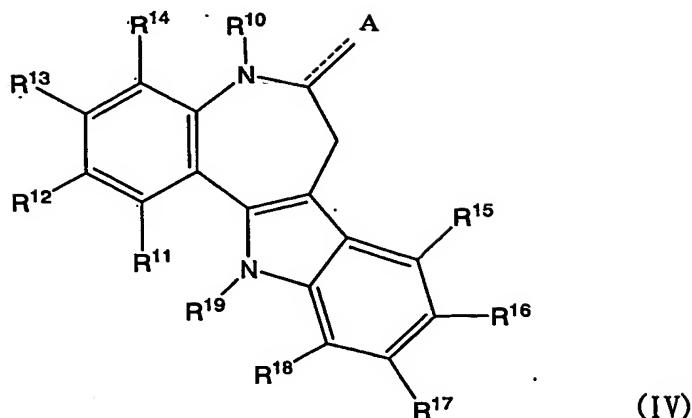
(27) GSK-3の活性を阻害する物質が、3, 4-ビス (1-メチルインドール-3-イル) -1H-ピロール-2, 5-ジオン、3-(1-メチルインドール-3-イル)-4-(1-プロピルインドール-3-イル)-1H-ピロール-2, 5-ジオン、3-[1-(3-シアノプロピル)インドール-3-イル]-4-(1-メチルインドール-3-イル)-1H-ピロール-2, 5-ジオン、3-[1-(3-アミノプロピル)インドール-3-イル]-4-(1-メチルインドール-3-イル)-1H-ピロール-2, 5-ジオン、3-[1-(3-カルボキシプロピル)インドール-3-イル]-4-(1-メチルインドール-3-イル)-1H-ピロール-2, 5-ジオン、3-[1-(3-カルバモイルプロピル)インドール-3-イル]-4-(1-メチルインドール-3-イル)-1H-ピロール-2, 5-ジオン、3-[1-(3-アミノプロピル)インドール-3-イル]-4-(1-メチル-5-プロピルオキシインドール-3-イル)-1H-ピロール-2, 5-ジオン、3-[1-(3-ヒドロキシプロピル)インドール-3-イル]-4-(1-メチル-5-フェニルインドール-3-イル)-1H-ピロール

-2, 5-ジオン、3-[1-(3-アミノプロピル)インドール-3-イル]-
 4-(1-メチル-5-フェニルインドール-3-イル)-1H-ピロール-2,
 5-ジオン、3-[1-(3-ヒドロキシプロピル)インドール-3-イル]-4
 -(1-メチル-5-メトキシカルボニルインドール-3-イル)-1H-ピロー
 5 ル-2, 5-ジオン、3-[1-(3-ヒドロキシプロピル)インドール-3-イル]-4-(1-メチル-5-ニトロインドール-3-イル)-1H-ピロール-
 2, 5-ジオン、3-(1-メチルインドール-3-イル)-4-[1-(3-ヒ
 ドロキシプロピル)-5-ニトロインドール-3-イル]-1H-ピロール-2,
 5-ジオン、3-(2-クロロフェニル)-4-(1-メチルインドール-3-イル)-1H-ピロール-2, 5-ジオン、3-(2, 4-ジクロロフェニル)-4
 10 -(1-メチルインドール-3-イル)-1H-ピロール-2, 5-ジオン、3-(2-クロロフェニル)-4-[1-(3-ヒドロキシプロピル)インドール-3
 -イル]-1H-ピロール-2, 5-ジオン、4-[1-(3-アミノプロピル)インドール-3-イル]-3-(2-クロロフェニル)-1H-ピロール-2, 5
 15 -ジオンおよび



からなる群より選ばれる化合物またはその薬理学的に許容される塩である上記(20)のニューロン新生促進剤。

(28) GSK-3を阻害する物質が、式(IV)



[式中、Aは単結合または二重結合によって右に結合されている酸素または硫黄であり、R¹⁰は水素原子、アリール、低級脂肪族置換基、特にアルキルおよび低級アルキルエステルからなる群より選択され、R¹¹～R¹⁴はアルコキシ、アミノ、アシル、

5 脂肪族置換基、特にアルキル、アルケニルおよびアルキニル置換基、脂肪族アルコール、特にアルキルアルコール、脂肪族ニトリル、特にアルキルニトリル、シアノ、ニトロ、カルボキシル、ハロゲン、水素原子、ヒドロキシル、イミノならびに α 、 β 不飽和ケトンからなる群より個別に選択され、R¹⁵～R¹⁸は脂肪族置換基、特にアルキル、アルケニルおよびアルキニル置換基、特に低級脂肪族置換基、脂肪族アルコール、特にアルキルアルコール、アルコキシ、アシル、シアノ、ニトロ、エポキシ、ハロアルキル基、ハロゲン、水素原子ならびにヒドロキシルからなる群より個別に選択され、R¹⁹は脂肪族の基、特に低級アルキル基、脂肪族アルコール、特にアルキルアルコール、カルボン酸、および水素からなる群より選択される]で表される化合物またはその薬理学的に許容される塩である上記(20)のニューロン新生促進剤。

(29) GSK-3を阻害する物質が、7,12-ジヒドロ-インドロ[3,2-d][1]ベンズアゼピン-6(5H)-オン、2-プロモ-7,12-ジヒドロ-インドロ[3,2-d][1]ベンズアゼピン-6(5H)-オン、9-プロモ-7,12-ジヒドロ-インドロ[3,2-d][1]ベンズアゼピン-6(5H)-オン、9-クロロ-7,12-ジヒドロ-インドロ[3,2-d][1]ベンズアゼピン-6(5H)-オン、11-クロロ-7,12-ジヒドロ-インドロ[3,2-d][1]ベンズアゼピン-6(5H)-オン、10-プロモ-7,12-ジヒドロ-インドロ[3,2-d][1]ベンズアゼピン-6(5H)-オン、8-プロモ-6,11-ジヒドロ-チエノ[3',2':2,3]アゼピノ[4,5-b]インドール-5(4H)-オン、9-プロモ-7,12-ジヒドロ-4-メトキシ-インドロ[3,2-d][1]ベン

ズアゼピン-6(5H)-オン、9-プロモ-7,12-ジヒドロ-4-ヒドロキシ-インドロ
 [3, 2-d] [1] ベンズアゼピン-6(5H)-オン、7,12-ジヒドロ-4-メトキシ-インドロ
 [3, 2-d] [1] ベンズアゼピン-6(5H)-オン、9-プロモ-7,12-ジヒドロ-2,3-ジメトキシ
 -インドロ [3, 2-d] [1] ベンズアゼピン-6(5H)-オン、9-プロモ-7,12-ジヒドロ-2,3-
 5 ジヒドロキシ-インドロ [3, 2-d] [1] ベンズアゼピン-6(5H)-オン、7,12-ジヒドロ
 -2,3-ジメトキシ-インドロ [3, 2-d] [1] ベンズアゼピン-6(5H)-オン、7,12-ジヒドロ
 -9-トリフルオロメチル-インドロ [3, 2-d] [1] ベンズアゼピン-6(5H)-オン、7,12-ジ
 ヒドロ-2,3-ジメトキシ-9-トリフルオロメチル-インドロ [3, 2-d] [1] ベンズアゼピ
 ン-6(5H)-オン、2-プロモ-7,12-ジヒドロ-9-トリフルオロメチル-インドロ
 10 [3, 2-d] [1] ベンズアゼピン-6(5H)-オン、9-プロモ-7,12-ジヒドロ-インドロ
 [3, 2-d] [1] ベンズアゼピン-6(5H)-チオン、9-プロモ-5,12-ビス-(t-ブチルオキシ
 カルボニル)-7,12-ジヒドロ-インドロ [3, 2-d] [1] ベンズアゼピン-6(5H)-オン、9-
 プロモ-12-(t-ブチルオキシカルボニル)-7,12-ジヒドロ-インドロ [3, 2-d] [1] ベン
 ズアゼピン-6(5H)-オン、9-プロモ-5,7-ビス-(t-ブチルオキシカルボニル)-7,12-
 15 ジヒドロ-インドロ [3, 2-d] [1] ベンズアゼピン-6(5H)-オン、9-プロモ-5,7,12-トリ
 -(t-ブチルオキシカルボニル)-7,12-ジヒドロ-インドロ [3, 2-d] [1] ベンズアゼピ
 ン-6(5H)-オン、9-プロモ-7,12-ジヒドロ-5-メチルオキシカルボニルメチル-イン
 ドロ [3, 2-d] [1] ベンズアゼピン-6(5H)-オン、9-プロモ-7,12-ジヒドロ-12-メチル
 20 オキシカルボニルメチル-インドロ [3, 2-d] [1] ベンズアゼピン-6(5H)-オン、9-プロ
 モ-7,12-ジヒドロ-12-(2-ヒドロキシエチル)-インドロ [3, 2-d] [1] ベンズアゼピン
 -6(5H)-オン、2,9-ジプロモ-7,12-ジヒドロ-インドロ [3, 2-d] [1] ベンズアゼピン
 -6(5H)-オン、8,10-ジクロロ-7,12-ジヒドロ-インドロ [3, 2-d] [1] ベンズアゼピン
 -6(5H)-オン、9-シアノ-7,12-ジヒドロ-インドロ [3, 2-d] [1] ベンズアゼピン
 -6(5H)-オン、9-プロモ-7,12-ジヒドロ-5-メチル-インドロ [3, 2-d] [1] ベンズアゼ
 25 ピン-6(5H)-オン、5-ベンジル-9-プロモ-7,12-ジヒドロ-5-メチル-インドロ
 [3, 2-d] [1] ベンズアゼピン-6(5H)-オン、9-プロモ-7,12-ジヒドロ-12-メチル-イン
 ドロ [3, 2-d] [1] ベンズアゼピン-6(5H)-オン、9-プロモ-12-エチル-7,12-ジヒドロ-
 インドロ [3, 2-d] [1] ベンズアゼピン-6(5H)-オン、9-プロモ-7,12-ジヒドロ-12-(2-
 プロペニル)-インドロ [3, 2-d] [1] ベンズアゼピン-6(5H)-オン、7,12-ジヒドロ-9-

メチル-インドロ[3, 2-d] [1]ベンズアゼピン-6(5H)-オン、7, 12-ジヒドロ-9-メトキシ-インドロ[3, 2-d] [1]ベンズアゼピン-6(5H)-オン、9-フルオロ-7, 12-ジヒドロ-12-(2-プロペニル)-インドロ[3, 2-d] [1]ベンズアゼピン-6(5H)-オン、11-プロモ-7, 12-ジヒドロ-インドロ[3, 2-d] [1]ベンズアゼピン-6(5H)-オン、9-プロモ-7, 12-ジヒドロ-2-(メチルイミノアミン)-インドロ[3, 2-d] [1]ベンズアゼピン-6(5H)-オン、9-プロモ-7, 12-ジヒドロ-2-(カルボン酸)-インドロ[3, 2-d] [1]ベンズアゼピン-6(5H)-オン、9-プロモ-7, 12-ジヒドロ-10-ヒドロキシ-インドロ[3, 2-d] [1]ベンズアゼピン-6(5H)-オン、9-プロモ-7, 12-ジヒドロ-11-ヒドロキシメチル-インドロ[3, 2-d] [1]ベンズアゼピン-6(5H)-オン、7, 12-ジヒドロ-4-ヒドロキシ-インドロ[3, 2-d] [1]ベンズアゼピン-6(5H)-オン、7, 12-ジヒドロ-2, 3-ジヒドロキシ-インドロ[3, 2-d] [1]ベンズアゼピン-6(5H)-オン、2, 3-ジメトキシ-9-ニトロ-7, 12-ジヒドロ-インドロ[3, 2-d] [1]ベンズアゼピン-6(5H)-オン、9-シアノ-7, 12-ジヒドロ-インドロ[3, 2-d] [1]ベンズアゼピン-6(5H)-オン、2, 3-ジメトキシ-9-シアノ-7, 12-ジヒドロ-インドロ[3, 2-d] [1]ベンズアゼピン-6(5H)-オン、9-ニトロ-7, 12-ジヒドロ-インドロ[3, 2-d] [1]ベンズアゼピン-6(5H)-オン、3-(6-オキソ-9-トリフルオロメチル-5, 6, 7, 12-テトラヒドロ-インドロ[3, 2-d] [1]ベンズアゼピン-2-イル)プロピオニトリル、2-プロモ-9-ニトロ-7, 12-ジヒドロ-インドロ[3, 2-d] [1]ベンズアゼピン-6(5H)-オン、3-(6-オキソ-9-トリフルオロメチル-5, 6, 7, 12-テトラヒドロ-インドロ[3, 2-d] [1]ベンズアゼピン-2-イル)アクリロニトリル、2-(3-ヒドロキシ-1-プロピニル)-9-トリフルオロメチル-7, 12-ジヒドロ-インドロ[3, 2-d] [1]ベンズアゼピン-6(5H)-オン、2-ヨード-9-プロモ-7, 12-ジヒドロ-インドロ[3, 2-d] [1]ベンズアゼピン-6(5H)-オン、2-(3-オキソ-1-ブチニル)-9-トリフルオロメチル-7, 12-テトラヒドロ-インドロ[3, 2-d] [1]ベンズアゼピン-6(5H)-オン、8-クロロ-6, 11-ジヒドロ-チエノ[3', 2' : 2, 3]アゼピノ[4, 5-b]インドール-5(4H)-オン、2-ヨード-9-トリフルオロメチル-7, 12-ジヒドロ-インドロ[3, 2-d] [1]ベンズアゼピン-6(5H)-オン、7, 12-ジヒドロ-ピリド[3', 2' : 4, 5]ピロロ[3, 2-d] [1]ベンズアゼピン-6(5H)-オン、11-メチル-7, 12-ジヒドロ-インドロ[3, 2-d] [1]ベンズアゼピン-6(5H)-オン、2-[2-(1-ヒドロキシシクロヘキシル)エチニル]-9-トリフルオロメチル-7, 12-ジヒドロ-インドロ[3, 2-d] [1]ベンズアゼピン-6(5H)-オン、2-シアノ-7, 12-ジヒドロ-

5 インドロ[3, 2-d] [1]ベンズアゼピン-6(5H)-オン、2-ヨード-7, 12-ジヒドロ-インドロ
 口[3, 2-d] [1]ベンズアゼピン-6(5H)-オン、11-エチル-7, 12-ジヒドロ-インドロ
 [3, 2-d] [1]ベンズアゼピン-6(5H)-オン、8-メチル-6, 11-ジヒドロ-チエノ
 [3', 2' : 2, 3]アゼピノ[4, 5-b]インドール-5(4H)-オンおよび3-(6-オキソ-9-トリフ
 ルオロメチル-5, 6, 7, 12-テトラヒドロ-インドロ[3, 2-d] [1]ベンズアゼピン-2-イ
 ル)アクリル酸メチルエステルからなる群より選ばれる化合物またはその薬理学的
 に許容される塩である上記(20)のニューロン新生促進剤。

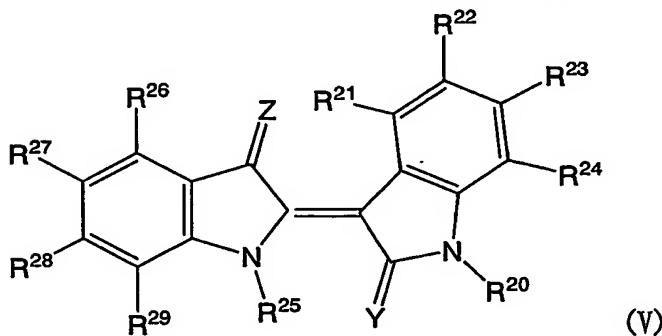
(30) GSK-3を阻害する物質が、9-シアノ-7, 12-ジヒドロ-インドロ
 [3, 2-d] [1]ベンズアゼピン-6(5H)-オン、9-プロモ-7, 12-ジヒドロ-2, 3-ジメトキシ
 10 -インドロ[3, 2-d] [1]ベンズアゼピン-6(5H)-オン、2-プロモ-7, 12-ジヒドロ-9-ト
 リフルオロメチル-インドロ[3, 2-d] [1]ベンズアゼピン-6(5H)-オン、7, 12-ジヒド
 ロ-2, 3-ジメトキシ-9-トリフルオロメチル-インドロ[3, 2-d] [1]ベンズアゼピン
 -6(5H)-オン、2, 9-ジプロモ-7, 12-ジヒドロ-インドロ[3, 2-d] [1]ベンズアゼピン
 -6(5H)-オン、7, 12-ジヒドロ-9-トリフルオロメチル-インドロ[3, 2-d] [1]ベンズア
 15 ゼピン-6(5H)-オン、9-クロロ-7, 12-ジヒドロ-インドロ[3, 2-d] [1]ベンズアゼピン
 -6(5H)-オン、8-プロモ-6, 11-ジヒドロ-チエノ[3', 2' : 2, 3]アゼピノ[4, 5-b]印
 19 ドール-5(4H)-オン、7, 12-ジヒドロ-9-メトキシ-インドロ[3, 2-d] [1]ベンズアゼピン
 -6(5H)-オン、10-プロモ-7, 12-ジヒドロ-インドロ[3, 2-d] [1]ベンズアゼピン
 -6(5H)-オン、11-プロモ-7, 12-ジヒドロ-インドロ[3, 2-d] [1]ベンズアゼピン
 20 -6(5H)-オン、11-クロロ-7, 12-ジヒドロ-インドロ[3, 2-d] [1]ベンズアゼピン
 -6(5H)-オン、9-フルオロ-7, 12-ジヒドロ-インドロ[3, 2-d] [1]ベンズアゼピン
 -6(5H)-オン、9-メチル-7, 12-ジヒドロ-インドロ[3, 2-d] [1]ベンズアゼピン
 -6(5H)-オン、9-プロモ-7, 12-ジヒドロ-インドロ[3, 2-d] [1]ベンズアゼピン
 -6(5H)-チオン、8, 10-ジクロロ-7, 12-ジヒドロ-インドロ[3, 2-d] [1]ベンズアゼピ
 25 ン-6(5H)-オン、9-プロモ-7, 12-ジヒドロ-12-(2-ヒドロキシエチル)-インドロ
 [3, 2-d] [1]ベンズアゼピン-6(5H)-オン、9-プロモ-7, 12-ジヒドロ-2, 3-ジヒドロキ
 シ-インドロ[3, 2-d] [1]ベンズアゼピン-6(5H)-オン、2-プロモ-7, 12-ジヒドロ-イ
 ンドロ[3, 2-d] [1]ベンズアゼピン-6(5H)-オン、7, 12-ジヒドロ-2, 3-ジメトキシ-イ
 ンドロ[3, 2-d] [1]ベンズアゼピン-6(5H)-オン、9-プロモ-7, 12-ジヒドロ-12-メチ

ル-インドロ[3, 2-d] [1]ベンズアゼピン-6(5H)-オン、9-プロモ-7, 12-ジヒドロ-5-メチルオキシカルボニルメチル-インドロ[3, 2-d] [1]ベンズアゼピン-6(5H)-オンおよび7, 12-ジヒドロ-インドロ[3, 2-d] [1]ベンズアゼピン-6(5H)-オンからなる群より選ばれる化合物またはその薬理学的に許容される塩である上記(20)のニューロン新生促進剤。

(31) GSK-3を阻害する物質が、9-シアノ-7,12-ジヒドロ-インドロ[3,2-d][1]ベンズアゼピン-6(5H)-オン、9-プロモ-7,12-ジヒドロ-2,3-ジメトキシ-インドロ[3,2-d][1]ベンズアゼピン-6(5H)-オン、2-プロモ-7,12-ジヒドロ-9-トリフルオロメチル-インドロ[3,2-d][1]ベンズアゼピン-6(5H)-オン、7,12-ジヒドロ-2,3-ジメトキシ-9-トリフルオロメチル-インドロ[3,2-d][1]ベンズアゼピン-6(5H)-オン、2,9-ジプロモ-7,12-ジヒドロ-インドロ[3,2-d][1]ベンズアゼピン-6(5H)-オン、7,12-ジヒドロ-9-トリフルオロメチル-インドロ[3,2-d][1]ベンズアゼピン-6(5H)-オン、9-クロロ-7,12-ジヒドロ-インドロ[3,2-d][1]ベンズアゼピン-6(5H)-オン、8-プロモ-6,11-ジヒドロ-チエノ[3',2':2,3]アゼピノ[4,5-b]インドール-5(4H)-オンおよび7,12-ジヒドロ-9-メトキシ-インドロ[3,2-d][1]ベンズアゼピン-6(5H)-オンからなる群より選ばれる化合物またはその薬理学的に許容される塩である上記(20)のニューロン新生促進剤。

(32) GSK-3を阻害する物質が、9-プロモ-7,12-ジヒドロ-インドロ[3,2-d][1]ベンズアゼピン-6(5H)-オンまたはその薬理学的に許容される塩である
20 上記(20)のニューロン新生促進剤。

(33) GSK-3を阻害する物質が、式(V)



[式中、同じか異なってよい R²⁰ および R²⁵ は水素原子；ハロゲン；ヒドロキシ基；メチレンヒドロキシ基；直鎖または分枝鎖の C₁～C₁₈—アルキルまたはアルコキシ]

またはメチレンアルコキシ基；必要に応じて1個または複数のヘテロ原子を含む、3から7個一炭素原子を有するシクロアルキル基；必要に応じて1個または複数のヘテロ原子を有する置換または非置換のアリール、アラルキルまたはアリールオキシ基；それぞれ互いに独立に、直鎖または分枝鎖のアルキル基中に1から6個の炭素原子を有するモノー、ジーまたはトリアルキルシリル基；それぞれ互いに独立に置換または非置換アリール基を有するモノー、ジーまたはトリアリールシリル基；トリフルオロメチル基；-COM；-COOM；あるいは-CH₂COOM基（ここでMは水素原子、必要ならばヒドロキシおよび／またはアミノ基1個または複数で置換された直鎖または分枝鎖のC₁～C₁₈アルキル基、または必要ならば1個または複数のヘテロ原子を有し、1個または複数のハロゲン、アルキル基またはアルコキシ基で置換されていてよいアリール基を表す）；-NR³⁰R³¹基（ここで同じか異なってよいR³⁰およびR³¹は水素原子、必要ならば付加的に1個または複数のヒドロキシおよび／またはアミノ基で置換されているC₁～C₁₈直鎖または分枝鎖アルキル基、置換または非置換で、必要ならば1個または複数のヘテロ原子を含むアリール基を表す）；アシリル基；-CH₂-NR³⁰R³¹メチレンアミノ基（ここでR³⁰およびR³¹は前記の意味を有する）；ベンゼン環が必要ならば1個または複数のヘテロ原子を有するベンジル基；必要ならば1個または複数のヘテロ原子を有する、炭素原子3から7個を有するメチレンシクロアルキル基；アミドとしての、窒素原子に結合した生理的アミノ酸基；グリコシドが単糖または二糖から選択されるO-グリコシドまたはN-グリコシド；あるいはメチレンスルホネート基を表し；同じか異なってよいR²¹、R²²、R²³、R²⁴、R²⁶、R²⁷、R²⁸およびR²⁹は水素原子；ハロゲン；ヒドロキシ基；ニトロソ基；ニトロ基；アルコキシ基；必要ならば1個または複数のヒドロキシおよび／またはアミノ基で置換されている直鎖または分枝鎖のC₁～C₁₈アルキル基；必要ならば1個または複数のヘテロ原子を有する置換または非置換のアリール基；必要ならば1個または複数のヘテロ原子を有する置換または非置換アラルキル基；必要ならば1個または複数のヘテロ原子を有する置換または非置換アリールオキシ基；必要ならば1個または複数のヘテロ原子を有する置換または非置換メチレンアリールオキシ基；必要ならば1個または複数のヘテロ原子を含む、3から7個の炭素原子を有するシクロアルキル基；必要ならば1個

または複数のヘテロ原子を含む、3から7個の炭素原子を有するメチレンシクロアルキル基；トリフルオロメチル基；-COM；-COOM；またはCH₂COOM基（ここでMは水素原子、必要ならばヒドロキシおよび/またはアミノ基1個または複数で付加的に置換された直鎖または分枝鎖のC₁～C₁₈アルキル基、または必要ならば1個または複数のヘテロ原子を有し、1個または複数のハロゲン原子、アルキル基またはアルコキシ基で置換されていてよいアリール基を表す）；-NR³⁰R³¹基（ここで同じか異なってよいR³⁰およびR³¹は水素原子、必要ならば付加的に1個または複数のヒドロキシおよび/またはアミノ基で置換されている直鎖または分枝鎖C₁～C₁₈アルキル基、置換または非置換で、必要ならば1個または複数のヘテロ原子を含むアリール基、アシル基を表すか、窒素原子が、必要ならば1個または複数のヘテロ原子を含む、炭素原子3から7個を有するシクロアルキルの一部を形成する）；-CONR³⁰R³¹基（ここでR³⁰およびR³¹は前記の意味を有する）；ヒドロキシリルアミノ基；ホスフェート基；ホスホネート基；スルフェート基；スルホネート基；スルホンアミド基；-SO₂NR³⁰R³¹基（ここでR³⁰およびR³¹は前記の意味を有する）；-N=N-R³²アゾ基（ここでR³²は必要ならば1個または複数のカルボキシル、ホスホリルまたはスルホネート基で置換された芳香族基あるいはグリコシドが単糖または二糖から選択されているO-グリコシドまたはN-グリコシド基を表す）を表すか；R²⁰およびR²⁴ならびにR²⁵およびR²⁹はそれぞれ一緒になって、互いに独立に必要ならば置換された1から4個のCH₂基を有する環を形成し；同じか異なってよいYおよびZは酸素；イオウ；セレン；テルルの原子；NR³³基（ここでR³³は水素原子、必要ならば1個または複数のカルボキシル、ホスホリルまたはスルホネート基で置換された直鎖または分枝鎖C₁～C₁₈アルキル基、必要ならば1個または複数のヘテロ原子を含む置換または非置換のアリール基、アラルキル基またはスルホネート基を表す）；あるいは-NOR³³（ここでR³³基は前記の意味を有する）を表す]で表される化合物またはそれらの薬理学的に許容される塩である上記（20）のニューロン新生促進剤。

（34）GSK-3を阻害する物質が、インジルビン、5-ヨード-インジルビン、5-プロモ-インジルビン、5-クロロー-インジルビン、5-フルオロー-インジルビン、5-メチル-インジルビン、5-ニトロ-インジルビン、5-SO₃

H-インジルビン、5'-プロモーインジルビン、5-5'-ジプロモーインジルビンおよび5'-プロモーインジルビン5-スルホン酸からなる群より選ばれる化合物またはその薬理学的に許容される塩である上記(20)のニューロン新生促進剤。

5 (35) GSK-3を阻害する物質が、インジルビン-3'-モノオキシム、5-ヨードーインジルビン-3'-モノオキシムおよび5-SO₃Na-インジルビン-3'-モノオキシムからなる群より選ばれる化合物またはその薬理学的に許容される塩である上記(20)のニューロン新生促進剤。

10 (36) GSK-3を阻害する物質が、インジルビン-3'-モノオキシムまたはその薬理学的に許容される塩である上記(20)のニューロン新生促進剤。

15 (37) 上記(20)～(36)のいずれか1つのニューロン新生促進剤の存在下、神経幹細胞を培養して得られるニューロン。

(38) 上記(20)～(36)のいずれか1つのニューロン新生促進剤の存在下、神経幹細胞を培養してニューロンを新生させ、培養物中よりニューロンを採取することを特徴とするニューロンの製造方法。

15 (39) GSK-3を阻害する物質を投与することを特徴とする神経再生方法。

(40) 神経再生薬の製造のためのGSK-3を阻害する物質の使用。

(41) 神経幹細胞のニューロン新生促進剤の製造のためのGSK-3を阻害する物質の使用。

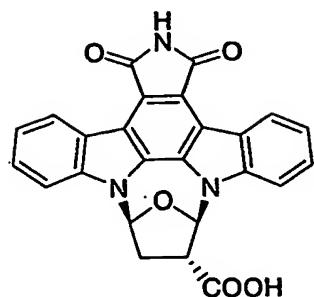
20 以下、本発明の詳細を説明する。

1. 本発明の神経再生薬および神経幹細胞のニューロン新生促進剤に含有されるGSK-3の活性を阻害する物質

25 GSK-3の活性を阻害する物質としては、GSK-3の活性を阻害する化合物であればいずれでもよいが、例えばリチウム、ビスインドリルマレイミド誘導体、3-アリール-4-インドリルマレイミド誘導体、インドロカルバゾール誘導体、インドロ[3,2-d][1]ベンズアゼピン-6(5H)-オン誘導体、インジルビン誘導体等があげられる。

ビスインドリルマレイミド誘導体、3-アリール-4-インドリルマレイミド誘導体、インドロカルバゾール誘導体としては、具体的には、例えば式(I)～(III)

で表される化合物があげられる。中でも 3, 4-ビス (1-メチルインドール-3-イル) -1H-ピロール-2, 5-ジオン、3- (1-メチルインドール-3-イル) -4- (1-プロピルインドール-3-イル) -1H-ピロール-2, 5-ジオン、3- [1- (3-シアノプロピル) インドール-3-イル] -4- (1-メチルインドール-3-イル) -1H-ピロール-2, 5-ジオン、3- [1- (3-アミノプロピル) インドール-3-イル] -4- (1-メチルインドール-3-イル) -1H-ピロール-2, 5-ジオン、3- [1- (3-カルボキシプロピル) インドール-3-イル] -4- (1-メチルインドール-3-イル) -1H-ピロール-2, 5-ジオン、3- [1- (3-カルバモイルプロピル) インドール-3-イル] -4- (1-メチルインドール-3-イル) -1H-ピロール-2, 5-ジオン、3- [1- (3-アミノプロピル) インドール-3-イル] -4- (1-メチル-5-プロピルオキシインドール-3-イル) -1H-ピロール-2, 5-ジオン、3- [1- (3-ヒドロキシプロピル) インドール-3-イル] -4- (1-メチル-5-フェニルインドール-3-イル) -1H-ピロール-2, 5-ジオン、3- [1- (3-アミノプロピル) インドール-3-イル] -4- (1-メチル-5-フェニルインドール-3-イル) -1H-ピロール-2, 5-ジオン、3- [1- (3-ヒドロキシプロピル) インドール-3-イル] -4- (1-メチル-5-メトキシカルボニルインドール-3-イル) -1H-ピロール-2, 5-ジオン、3- [1- (3-ヒドロキシプロピル) インドール-3-イル] -4- (1-メチル-5-ニトロインドール-3-イル) -1H-ピロール-2, 5-ジオン、3- (1-メチルインドール-3-イル) -4- [1- (3-ヒドロキシプロピル) -5-ニトロインドール-3-イル] -1H-ピロール-2, 5-ジオン、3- (2-クロロフェニル) -4- (1-メチルインドール-3-イル) -1H-ピロール-2, 5-ジオン、3- (2, 4-ジクロロフェニル) -4- (1-メチルインドール-3-イル) -1H-ピロール-2, 5-ジオン、3- (2-クロロフェニル) -4- [1- (3-ヒドロキシプロピル) インドール-3-イル] -1H-ピロール-2, 5-ジオン、3- [1- (3-アミノプロピル) インドール-3-イル] -4- (2-クロロフェニル) -1H-ピロール-2, 5-ジオンおよび



等が好ましい。

インドロ[3, 2-d] [1]ベンズアゼピン-6(5H)-オン誘導体としては、具体的には、例えば式 (IV) で表される化合物があげられる。中でも 7,12-ジヒドロ-インドロ

5 [3, 2-d] [1]ベンズアゼピン-6(5H)-オン、2-プロモ-7,12-ジヒドロ-インドロ
 [3, 2-d] [1]ベンズアゼピン-6(5H)-オン、9-プロモ-7,12-ジヒドロ-インドロ
 [3, 2-d] [1]ベンズアゼピン-6(5H)-オン、9-クロロ-7,12-ジヒドロ-インドロ
 [3, 2-d] [1]ベンズアゼピン-6(5H)-オン、11-クロロ-7,12-ジヒドロ-インドロ
 [3, 2-d] [1]ベンズアゼピン-6(5H)-オン、10-プロモ-7,12-ジヒドロ-インドロ
 10 [3, 2-d] [1]ベンズアゼピン-6(5H)-オン、8-プロモ-6,11-ジヒドロ-チエノ
 [3', 2':2, 3]アゼピノ[4, 5-b]インドール-5(4H)-オン、9-プロモ-7,12-ジヒドロ-4-
 メトキシ-インドロ [3, 2-d] [1]ベンズアゼピン-6(5H)-オン、9-プロモ-7,12-ジヒドロ-4-
 ヒドロキシ-インドロ [3, 2-d] [1]ベンズアゼピン-6(5H)-オン、7,12-ジヒドロ-
 -4-メトキシ-インドロ [3, 2-d] [1]ベンズアゼピン-6(5H)-オン、9-プロモ-7,12-ジ
 15 ヒドロ-2,3-ジメトキシ-インドロ [3, 2-d] [1]ベンズアゼピン-6(5H)-オン、9-プロ
 モ-7,12-ジヒドロ-2,3-ジヒドロキシ-インドロ [3, 2-d] [1]ベンズアゼピン-6(5H)-
 オン、7,12-ジヒドロ-2,3-ジメトキシ-インドロ [3, 2-d] [1]ベンズアゼピン-6(5H)-
 オン、7,12-ジヒドロ-9-トリフルオロメチル-インドロ [3, 2-d] [1]ベンズアゼピン
 -6(5H)-オン、7,12-ジヒドロ-2,3-ジメトキシ-9-トリフルオロメチル-インドロ
 20 [3, 2-d] [1]ベンズアゼピン-6(5H)-オン、2-プロモ-7,12-ジヒドロ-9-トリフルオロ
 メチル-インドロ [3, 2-d] [1]ベンズアゼピン-6(5H)-オン、9-プロモ-7,12-ジヒドロ
 -インドロ [3, 2-d] [1]ベンズアゼピン-6(5H)-チオン、9-プロモ-5,12-ビス-(t-ブチ
 ルオキシカルボニル)-7,12-ジヒドロ-インドロ [3, 2-d] [1]ベンズアゼピン-6(5H)-
 オン、9-プロモ-12-(t-ブチルオキシカルボニル)-7,12-ジヒドロ-インドロ
 25 [3, 2-d] [1]ベンズアゼピン-6(5H)-オン、9-プロモ-5,7-ビス-(t-ブチルオキシカル

ボニル)-7,12-ジヒドロ-インドロ[3,2-d] [1]ベンズアゼピン-6(5H)-オン、9-ブロモ-5,7,12-トリ-(t-ブチルオキシカルボニル)-7,12-ジヒドロ-インドロ[3,2-d] [1]ベンズアゼピン-6(5H)-オン、9-ブロモ-7,12-ジヒドロ-5-メチルオキシカルボニルメチル-インドロ[3,2-d] [1]ベンズアゼピン-6(5H)-オン、9-ブロモ-7,12-ジヒドロ-12-メチルオキシカルボニルメチル-インドロ[3,2-d] [1]ベンズアゼピン-6(5H)-オン、9-ブロモ-7,12-ジヒドロ-12-(2-ヒドロキシエチル)-インドロ[3,2-d] [1]ベンズアゼピン-6(5H)-オン、2,9-ジブロモ-7,12-ジヒドロ-インドロ[3,2-d] [1]ベンズアゼピン-6(5H)-オン、8,10-ジクロロ-7,12-ジヒドロ-インドロ[3,2-d] [1]ベンズアゼピン-6(5H)-オン、9-シアノ-7,12-ジヒドロ-インドロ[3,2-d] [1]ベンズアゼピン-6(5H)-オン、9-ブロモ-7,12-ジヒドロ-5-メチル-インドロ[3,2-d] [1]ベンズアゼピン-6(5H)-オン、5-ベンジル-9-ブロモ-7,12-ジヒドロ-5-メチル-インドロ[3,2-d] [1]ベンズアゼピン-6(5H)-オン、9-ブロモ-7,12-ジヒドロ-12-メチル-インドロ[3,2-d] [1]ベンズアゼピン-6(5H)-オン、9-ブロモ-12-エチル-7,12-ジヒドロ-インドロ[3,2-d] [1]ベンズアゼピン-6(5H)-オン、9-ブロモ-7,12-ジヒドロ-12-(2-ブロペニル)-インドロ[3,2-d] [1]ベンズアゼピン-6(5H)-オン、7,12-ジヒドロ-9-メチル-インドロ[3,2-d] [1]ベンズアゼピン-6(5H)-オン、9-フルオロ-7,12-ジヒドロ-12-(2-ブロペニル)-インドロ[3,2-d] [1]ベンズアゼピン-6(5H)-オン、11-ブロモ-7,12-ジヒドロ-インドロ[3,2-d] [1]ベンズアゼピン-6(5H)-オン、9-ブロモ-7,12-ジヒドロ-2-(メチルイミノアミン)-インドロ[3,2-d] [1]ベンズアゼピン-6(5H)-オン、9-ブロモ-7,12-ジヒドロ-2-(カルボン酸)-インドロ[3,2-d] [1]ベンズアゼピン-6(5H)-オン、9-ブロモ-7,12-ジヒドロ-10-ヒドロキシ-インドロ[3,2-d] [1]ベンズアゼピン-6(5H)-オン、9-ブロモ-7,12-ジヒドロ-11-ヒドロキシメチル-インドロ[3,2-d] [1]ベンズアゼピン-6(5H)-オン、7,12-ジヒドロ-4-ヒドロキシ-インドロ[3,2-d] [1]ベンズアゼピン-6(5H)-オン、7,12-ジヒドロ-2,3-ジヒドロキシ-インドロ[3,2-d] [1]ベンズアゼピン-6(5H)-オン、2,3-ジメトキシ-9-ニトロ-7,12-ジヒドロ-インドロ[3,2-d] [1]ベンズアゼピン-6(5H)-オン、9-シアノ-7,12-ジヒドロ-インドロ[3,2-d] [1]ベンズアゼピン-6(5H)-オン、2,3-ジメトキシ-9-シアノ-7,12-ジヒドロ-インドロ[3,2-d] [1]ベン

ズアゼピン-6(5H)-オン、9-ニトロ-7,12-ジヒドロ-インドロ[3,2-d][1]ベンズアゼピン-6(5H)-オン、3-(6-オキソ-9-トリフルオロメチル-5,6,7,12-テトラヒドロ-インドロ[3,2-d][1]ベンズアゼピン-2-イル)プロピオニトリル、2-プロモ-9-ニトロ-7,12-ジヒドロ-インドロ[3,2-d][1]ベンズアゼピン-6(5H)-オン、3-(6-オキソ-9-トリフルオロメチル-5,6,7,12-テトラヒドロ-インドロ[3,2-d][1]ベンズアゼピン-2-イル)アクリロニトリル、2-(3-ヒドロキシ-1-プロピニル)-9-トリフルオロメチル-7,12-ジヒドロ-インドロ[3,2-d][1]ベンズアゼピン-6(5H)-オン、2-ヨード-9-プロモ-7,12-ジヒドロ-インドロ[3,2-d][1]ベンズアゼピン-6(5H)-オン、2-(3-オキソ-1-ブテニル)-9-トリフルオロメチル-7,12-テトラヒドロ-インドロ[3,2-d][1]ベンズアゼピン-6(5H)-オン、8-クロロ-6,11-ジヒドロ-チエノ[3',2':2,3]アゼピノ[4,5-b]インドール-5(4H)-オン、2-ヨード-9-トリフルオロメチル-7,12-ジヒドロ-インドロ[3,2-d][1]ベンズアゼピン-6(5H)-オン、7,12-ジヒドロ-ピリド[3',2':4,5]ピロロ[3,2-d][1]ベンズアゼピン-6(5H)-オン、11-メチル-7,12-ジヒドロ-インドロ[3,2-d][1]ベンズアゼピン-6(5H)-オン、2-[2-(1-ヒドロキシシクロヘキシル)エチニル]-9-トリフルオロメチル-7,12-ジヒドロ-インドロ[3,2-d][1]ベンズアゼピン-6(5H)-オン、2-シアノ-7,12-ジヒドロ-インドロ[3,2-d][1]ベンズアゼピン-6(5H)-オン、2-ヨード-7,12-ジヒドロ-インドロ[3,2-d][1]ベンズアゼピン-6(5H)-オン、11-エチル-7,12-ジヒドロ-インドロ[3,2-d][1]ベンズアゼピン-6(5H)-オン、8-メチル-6,11-ジヒドロ-チエノ[3',2':2,3]アゼピノ[4,5-b]インドール-5(4H)-オンおよび3-(6-オキソ-9-トリフルオロメチル-5,6,7,12-テトラヒドロ-インドロ[3,2-d][1]ベンズアゼピン-2-イル)アクリル酸メチルエステル等が好ましい。

インジルビン誘導体としては、具体的には、例えば式(V)で表される化合物があげられる。中でもインジルビン、5-ヨード-インジルビン、5-プロモ-インジルビン、5-クロロ-インジルビン、5-フルオロ-インジルビン、5-メチル-インジルビン、5-ニトロ-インジルビン、5-SO₃H-インジルビン、5'-プロモ-インジルビン、5-5'-ジプロモ-インジルビン、5'-プロモ-インジルビン-5-スルホン酸、インジルビン-3'-モノオキシム、5-ヨード-インジルビン-3'-モノオキシムおよび5-SO₃Na-インジルビン-3'-モノオキシ

ム等が好ましい。

以下、式 (I) ~ (V) で表される化合物をそれぞれ化合物 (I) ~ (V) という。他の式番号の化合物についても同様である。

化合物 (I) ~ (III) および化合物 (Ia) ~ (IIIa) の各基の定義において、以下5の例示があげられる。

(i) 低級アルキル、低級アルコキシおよび低級アルコキシカルボニルの低級アルキル部分としては、例えば直鎖または分岐状の炭素数 1~10 のアルキルがあげられ、具体的にはメチル、エチル、プロピル、イソプロピル、ブチル、イソブチル、sec-10-ブチル、tert-ブチル、ペンチル、イソペンチル、ネオペンチル、ヘキシル、ヘプチル、オクチル、6-メチルヘプチル、イソオクチル、ノニル、デシル等があげられる。

(ii) シクロアルキルとしては、例えば炭素数 3~8 のシクロアルキルがあげられ、具体的にはシクロプロピル、シクロブチル、シクロペンチル、シクロヘキシル、シクロヘプチル、シクロオクチル等があげられる。

15 (iii) 低級アルケニルとしては、例えば直鎖、分岐または環状の炭素数 2~8 のアルケニルがあげられ、具体的にはビニル、アリル、1-プロペニル、ブテニル、ペンテニル、ヘキセニル、ヘプテニル、オクテニル、シクロヘキセニル、2, 6-オクタジエニル等があげられる。

20 (iv) モノもしくはジ低級アルキルアミノの低級アルキル部分は、前記低級アルキルと同義であり、ジ低級アルキルアミノの 2 つの低級アルキル部分は、同一でも異なっていてもよい。

(v) ハロゲンは、フッ素、塩素、臭素およびヨウ素の各原子を表す。

25 (vi) アリールとしては、例えば炭素数 6~14 の単環式、二環式または三環式のアリールがあげられ、具体的にはフェニル、ナフチル、インデニル、アントラニル等があげられる。

(vii) 置換低級アルキル、置換低級アルケニル、置換低級アルコキシおよび置換低級アルコキシカルボニルにおける置換基としては、同一または異なって、例えば置換数 1~3 の、ハロゲン、シアノ、ニトロ、ヒドロキシ、カルボキシ、カルバモイル、アミノ、モノまたはジ低級アルキルアミノ、シクロアルキル、低級アルカノイル、低級ア

ルコキシ、アリール、置換アリール、アリールオキシ、置換アリールオキシ、低級アルコキシカルボニル、低級アルカノイルオキシ等があげられる。

ここで示したハロゲン、モノもしくはジ低級アルキルアミノ、シクロアルキル、アリールおよびアリールオキシのアリール部分、ならびに低級アルコキシ、低級アルコキシカルボニル、低級アルカノイルおよび低級アルカノイルオキシの低級アルキル部分は、それぞれ前記ハロゲン(v)、モノまたはジ低級アルキルアミノ(iv)、シクロアルキル(ii)、アリール(vi)および低級アルキル(i)と同義である。

また、ここで示した置換アリールおよび置換アリールオキシにおける置換基としては、同一または異なって、例えば置換数1～3の、低級アルキル、低級アルコキシ、低級アルコキシカルボニル、ハロゲン、シアノ、ニトロ、ヒドロキシ、カルボキシ、アミノ等があげられる。

ここで示したハロゲンならびに低級アルキル、低級アルコキシおよび低級アルコキシカルボニルの低級アルキル部分は、それぞれ前記ハロゲン(v)および低級アルキル(i)と同義である。

(viii)置換アリールおよび置換シクロアルキルにおける置換基としては、前記置換低級アルキルにおける置換基(vii)の定義であげた基に加え、例えば低級アルキル、置換低級アルキル等があげられる。

ここで示した置換低級アルキルにおける置換基としては、同一または異なって、例えば置換数1～3の、低級アルコキシ、低級アルコキシカルボニル、ハロゲン、シアノ、ニトロ、ヒドロキシ、カルボキシ、アミノ等があげられる。

ここで示したハロゲンならびに低級アルコキシおよび低級アルコキシカルボニルの低級アルキル部分は、それぞれ前記ハロゲン(v)および低級アルキル(i)と同義である。

また、ここで示した低級アルキルは、前記低級アルキル(i)と同義である。

ビスインドリルマレイミド誘導体、3-アリール-4-インドリルマレイミド誘導体、インドロカルバゾール誘導体、インドロ[3,2-d][1]ベンズアゼピン-6(5H)-オノン誘導体、インジルビン誘導体、化合物(I)～(V)および化合物(Ia)～(IIIa)の薬理学的に許容される塩としては、毒性のない水溶性のものが好ましく、例えば塩酸塩、硫酸塩、硝酸塩、リン酸塩などの無機酸塩、酢酸塩、マレイン酸塩、フマ

カル酸塩、クエン酸塩などの有機酸塩があげられ、薬理学的に許容される金属塩としては、ナトリウム塩、カリウム塩などのアルカリ金属塩、マグネシウム塩、カルシウム塩などのアルカリ土類金属塩、アルミニウム塩、亜鉛塩などがあげられ、薬理学的に許容されるアンモニウム塩としては、アンモニウム、テトラメチルアンモニウムなどの塩があげられ、薬理学的に許容される有機アミン付加塩としては、モルホリン、ピペリジンなどの付加塩等があげられる。

ビスインドリルマレイミド誘導体、3-アリール-4-インドリルマレイミド誘導体、インドロカルバゾール誘導体、インドロ[3,2-d][1]ベンズアゼピン-6(5H)-オン誘導体、インジルピン誘導体、化合物(I)～(V)および化合物(Ia)～(IIIa)は、EP 470490、WO 93/18766、WO 93/18765、EP 397060、WO 98/11105、WO 98/11103、WO 98/11102、WO 98/04552、WO 98/04551、DE 4243321、DE 4005970、DE 4217964、DE 4005970、DE 3914764、WO 96/04906、WO 95/07910、DE 42179464、US 5856517、US 5891901、WO 99/42100、EP 328026、EP 384349、EP 540956、DE 4005969、EP 508792、WO 99/65910、WO 01/037819等に記載の方法またはそれらに準じた方法により製造することができる。

また、GSK-3の活性を阻害する物質として、short interference RNA (siRNA)を使用することもできる。GSK-3に対するsiRNAは、そのRNAi活性によりGSK-3の発現を抑制し、その結果、GSK-3の活性を阻害することができる。siRNAは、そのもの自身を細胞内に導入することによってGSK-3の活性を阻害することができるほか、siRNAを発現するベクターを細胞内に導入することによっても可能である。

ヒトGSK-3に対する効果的なsiRNAを作製するためには、効果の高いターゲット配列を選択することが重要である。その配列を決定するアルゴリズムは様々な方法が知られているが、例えば、ヒトGSK-3のメッセンジャーRNA配列中の任意の19配列の中で、グアニンまたはシトシンの含量が30～52%であること、3'末端の5塩基のうち3塩基以上がアデニンまたはウリジンであること、融解温度が20℃未満であること、3番目の塩基がアデニンであること、10番目の塩基がウリジンであること、13番目の塩基がグリシン以外であること、19番目の塩基がアデニンであること、19番目の塩基がグリシン及びシトシンでないことの各条件をより多

く満たす配列を選択することにより効果の高いターゲット配列を選択することができる。そのターゲット配列のオリゴRNAの3'末端に2塩基のヌクレオチドを付加したセンス鎖オリゴRNAおよびそのターゲット配列に相補的な配列のオリゴRNAの3'末端に2塩基のヌクレオチドを付加したアンチセンス鎖オリゴRNAの両者をハイブリダイズさせることにより、ヒトGSK-3に対する効果的なsiRNAを作製することができる。siRNAの合成、精製、ハイブリダイズは様々な方法により可能であるが、例えば、*Silencer siRNA Construction Kit* (Ambion社製)を用い、添付のプロトコールに従うことにより実施することができる。またsiRNAを発現するベクターは、各種プラスミドベクター、レトロウイルスベクター、レンチウイルスベクター、アデノウイルスベクターなどの各種ウイルスベクターによつて可能であるが、例えば、*piGENE hU6 Vector* (iGENE社製)に上記の方法により選択したターゲット配列のオリゴDNAを添付プロトコールに従って組み込むことにより作製することができる。siRNAやsiRNAを発現するベクターの細胞内への導入は様々な方法により可能であるが、例えば*Nucleofector Device* (Amaxa社製)を用い添付のプロトコールに従うことにより実施することができる。

2. GSK-3の活性を阻害する物質の探索法

GSK-3の活性を阻害する物質の探索法は、[i] 被験物質の存在下、GSK-3、GSK-3によりリン酸化されるペプチドおよびATPを共存させた場合と、[ii] 被験物質の非存在下、上記[i]のGSK-3、GSK-3によりリン酸化されるペプチドおよびATPを共存させた場合での、[iii] リン酸化されているペプチドの量を測定、比較し、[iv] 被験物質の非存在下に比べ、被験物質の存在下におけるリン酸化されているペプチドの量が少ない物質を選択する方法をあげることができる。

被験物質は、特に限定されないが、例えば、ペプチド、蛋白質、細胞抽出液や該抽出液由来の精製物、細胞培養上清や該上清由来の精製物、血清などの生体試料や該生体試料由来の精製物、微生物の菌体抽出液や該抽出液由来の精製物、微生物培養上清や該上清由来の精製物、化合物、コンビナトリアルケミストリーを用いて合成された化合物などをあげることができる。

GSK-3としては、GSK-3の活性を有するものであれば特に限定されない

が、好ましくはほ乳類、より好ましくはラット、マウス、サルまたはヒト由来のGSK-3 α または β をあげることができ、具体的には配列番号1で表されるアミノ酸配列を有する蛋白質をあげることができる。

GSK-3は、GSK-3をコードする遺伝子を有する発現ベクターを動物細胞

5 に導入し、該動物細胞を培養する方法などにより取得することができる。GSK-3をコードする遺伝子は、GSK-3をコードする遺伝子であれば特に限定されないが、好ましくはほ乳類、より好ましくはラット、マウス、サルまたはヒト由来のGSK-3 α または β をコードする遺伝子をあげることができ、具体的には配列番号2で表される塩基配列を有する遺伝子をあげることができる。

10 GSK-3によりリン酸化されるペプチドとしては、グリコーゲン合成酵素をあげることができ、グリコーゲン合成酵素としては、例えば配列番号3で表されるアミノ酸配列を有するペプチドをあげることができ。

15 グリコーゲン合成酵素は、グリコーゲン合成酵素をコードする遺伝子を有する発現ベクターを動物細胞に導入し、該動物細胞を培養する方法などにより取得することができる。グリコーゲン合成酵素をコードする遺伝子は、グリコーゲン合成酵素をコードする遺伝子であれば特に限定されないが、好ましくはほ乳類、より好ましくはラット、マウス、サルまたはヒト由来のグリコーゲン合成酵素をコードする遺伝子をあげることができ、具体的には配列番号4で表される塩基配列を有する遺伝子をあげることができ。

20 また、蛋白質の翻訳に関与する eukaryotic initiation factor 2B (eIF2B) 蛋白質のアミノ酸配列中で、GSK-3によりリン酸化される部位を含むアミノ酸配列を有するペプチドもGSK-3によりリン酸化されるペプチドとして用いることができ、具体的には配列番号5で表されるアミノ酸配列を有するペプチドをあげることができ。

25 GSK-3の活性を測定する方法としては、例えばリン酸の供与体であるATPとして [γ - 33 P] ATPを用い、被験物質存在下、または被験物質非存在下において、GSK-3によるグリコーゲン合成酵素または該酵素のリン酸化部位を含むペプチドのリン酸化反応を行い、該酵素またはペプチドに取り込まれた 33 Pの量を液体シンチレーションカウンターなどを用いて測定する方法をあげることができ

る。

3. 神経再生薬

神経再生薬とは、ヒトまたは動物の脳内の神経幹細胞に直接作用することでニューロン新生を促進し、脳内のニューロンを増加させる作用を有する薬剤をいう。

5 該神経再生薬は、神経の変性または損傷を伴う神経疾患の治療薬として用いることができる。

該神経疾患としては、パーキンソン病、アルツハイマー病、ダウン症、脳血管障害、脳卒中、脊髄損傷、ハンチントン舞蹈病、多発性硬化症、筋萎縮性側索硬化症、てんかん、不安障害、統合失調症、うつ病および躁鬱病などをあげることができる。

10 GSK-3の活性を阻害する物質またはその薬理学的に許容される塩は、神経再生薬として、そのまま単独で投与することも可能であるが、通常各種の医薬製剤として提供するのが望ましい。また、それら医薬製剤は、動物および人に使用されるものである。

15 本発明の神経再生薬は、活性成分としてGSK-3の活性を阻害する物質またはその薬理学的に許容される塩を単独で、または任意の他の治療のための有効成分との混合物として含有することができる。また、それら医薬製剤は、活性成分を薬理学的に許容される一種またはそれ以上の担体と一緒に混合し、製剤学の技術分野においてよく知られている任意の方法により製造される。

20 投与経路は、治療に際し最も効果的なものを使用するのが望ましく、経口または、例えば静脈内などの非経口をあげることができる。

投与形態としては、錠剤、散剤、顆粒剤、シロップ剤、注射剤などがある。

25 経口投与に適当な、例えばシロップ剤のような液体調製物は、水、蔗糖、ソルビット、果糖などの糖類、ポリエチレングリコール、プロピレングリコールなどのグリコール類、ごま油、オリーブ油、大豆油などの油類、p-ヒドロキシ安息香酸エステル類などの防腐剤、ストロベリーフレーバー、ペパーミントなどのフレーバー類などを使用して製造できる。また、錠剤、散剤および顆粒剤などは、乳糖、ブドウ糖、蔗糖、マンニットなどの賦形剤、澱粉、アルギン酸ソーダなどの崩壊剤、ステアリン酸マグネシウム、タルクなどの滑沢剤、ポリビニールアルコール、ヒドロキシプロピルセルロース、ゼラチンなどの結合剤、脂肪酸エステルなどの界面活性

剤、グリセリンなどの可塑剤などを用いて製造できる。

非経口投与に適当な製剤は、好ましくは受容者の血液と等張である活性化合物を含む滅菌水性剤からなる。例えば、注射剤の場合は、塩溶液、ブドウ糖溶液または塩水とブドウ糖溶液の混合物からなる担体などを用いて注射用の溶液を調製する。

5 また、これら非経口剤においても、経口剤で例示した希釈剤、防腐剤、フレーバー類、賦形剤、崩壊剤、滑沢剤、結合剤、界面活性剤、可塑剤などから選択される1種もしくはそれ以上の補助成分を添加することもできる。

10 GSK-3の活性を阻害する物質またはその薬理学的に許容される塩の投与量および投与回数は、投与形態、患者の年齢、体重、治療すべき症状の性質または重篤度により異なるが、通常経口の場合、成人一人当たり0.01mg～1g、好ましくは0.05～50mgを一日一回ないし数回投与する。静脈内投与などの非経口投与の場合、成人一人当たり0.001～100mg、好ましくは0.01～10mgを一日一回ないし数回投与する。

4. 神経幹細胞のニューロン新生促進剤

15 神経幹細胞のニューロン新生促進剤とは、*in vivo* または *in vitro* において、神経幹細胞と接触させたとき、該神経幹細胞のニューロン新生を促進する薬剤のことをいう。

神経幹細胞は、神経幹細胞であれば特に限定されないが、脳の成体神経幹細胞が好ましい。

20 脳は、いずれの動物の脳であってもよいが、好ましくは哺乳動物、より好ましくはラット、マウス、サル、ヒトなどの脳をあげることができる。

GSK-3の活性を阻害する物質またはその薬理学的に許容される塩は、神経幹細胞のニューロン新生促進剤として、そのまま単独で用いることも可能であるが、通常各種の医薬製剤として提供するのが望ましい。また、それら医薬製剤は、動物および人に使用されるものである。

25 本発明の神経幹細胞のニューロン新生促進剤は、活性成分としてGSK-3の活性を阻害する物質またはその薬理学的に許容される塩を単独で、または任意の他の治療のための有効成分との混合物として含有することができる。それら医薬製剤は、上記した神経再生薬の製剤と同様の方法により製造することができ、同様の投与方法により投与することができる。

本発明の神経幹細胞のニューロン新生促進剤は、*in vitro*において、神経幹細胞と接触させ、該神経細胞を培養することにより、ニューロンを新生させ、培養物から該ニューロンを採取することを特徴とするニューロンの製造法に用いることができる。*in vitro*で本発明の神経幹細胞のニューロン新生促進剤を用いる場合、GSK-3の活性を阻害する物質またはその薬理学的に許容される塩を、該物質または該塩を溶解することができる溶液に溶解して用いることが好ましい。該溶液としては、水、DMSOなどをあげることができる。

5. 本発明のニューロン新生促進剤の存在下、神経幹細胞を培養して得られるニューロン

10 本発明のニューロン新生促進剤の存在下、動物の神経幹細胞を培養することにより、該神経幹細胞のニューロン新生を積極的に促進させることができる。動物の神経幹細胞は、いずれの動物の神経幹細胞であってもよく、好ましくは哺乳動物、より好ましくはラット、マウス、サル、ヒト由来の神経幹細胞をあげることができ、神経幹細胞としては、脳由来の神経幹細胞をあげることができる。神経幹細胞は、15 いずれの週齢、または年齢の動物由来の細胞でもよいが、好ましくは成体神経幹細胞をあげることができる。

動物から成体神経幹細胞を取得する方法としては、*J. Neuroscinece*, 19, 8487 (1999) および *Genes & Develop.*, 10, 3129 (1996) 記載の方法に準じて、外科的手法によって成体動物から脳を摘出して、脳細胞粗抽出液を調製し、該粗抽出液から20 成体幹細胞を濃縮する方法をあげることができる。

また、ヒトから成体神経幹細胞を取得する方法としては、*Experimental Cell Research*, 289, 378 (2003) 記載の方法に準じて、バイオプシーによって神経疾患患者の側脳室壁から組織を採取して、脳細胞粗抽出液を調製し、該抽出液から成体幹細胞を濃縮する方法をあげることができる。

25 本発明のニューロン新生促進剤存在下、成体神経幹細胞を培養する場合、 1.8×10^5 個/ cm^2 程度の成体神経幹細胞に対して、該ニューロン新生促進剤を 100nmol/l ~ $100\mu\text{mol/l}$ の濃度で作用させることが好ましい。ただし、リチウムまたはその薬理学的に許容される塩は $100\mu\text{mol/l}$ ~ 10mmol/l の濃度で作用させることが好ましい。成体神経幹細胞と本発明のニューロン新生促進剤を接触させ、 37°C で $5\% \text{CO}_2$

2 雰囲気下、4~14 日間、2 日おきに全量または部分量培地交換しながら静置培養することでニューロン新生を促進させることができる。

成体神経幹細胞の培養に用いる培地は、ニューロン新生の促進を妨げない培地であればいずれの培地でもよいが、1%の N2 supplement (Invitrogen 社製) を含む 5 DMEM/F12 培地 (Invitrogen 社製) などを用いるのが好ましい。

上記の培養により取得されるニューロンは、培地から回収し、神経疾患患者の障害部位へ外科的手法で移植することにより該神経疾患の治療に用いることができる。該神経疾患としては、パーキンソン病、アルツハイマー病、ダウン症、脳血管障害、脳卒中、脊髄損傷、ハンチントン舞蹈病、多発性硬化症、筋萎縮性側索硬化症、てんかん、不安障害、統合失調症、うつ病および躁鬱病などをあげることができる。 10

6. 本発明の神経再生薬の評価法

本発明の神経再生薬が、*in vivo* においてニューロンを再生させ、神経疾患を治療することができることは、以下の方法により確認することができる。

15 上記した本発明の神経再生薬を、ラットまたはサルなどの実験動物に投与する。実験動物は、傷害を有していない健康な動物であってもよいが、海馬虚血傷害を与えることによりニューロン新生を効果的に観察することができるので [Cell, 110, 429 (2002)]、虚血、6-hydroxydopamine (6-OHDA) 投与またはカイニン酸投与等の方法により、脳に傷害を与えた動物が好ましい。投与経路としては、経口、口腔内、皮下、筋肉内、静脈内または脳室内などへの投与をあげることができる。投与量、投与方法としては、例えば体重 1kg 当り 100 μ g~10mg、好ましくは 500 μ g~500ng を一日一回ないし数回投与する。静脈内投与などの非経口投与の場合、体重 1kg 当り 10 μ g ~1mg、好ましくは 100 μ g~100ng を一日一回ないし数回投与する。 20

新生したニューロンは以下の方法により検出することができる。

25 増殖細胞を標識することができるプロモデオキシウリジン (BrdU)、または Green Fluorescent Protein (GFP) やペータガラクトシダーゼ等の細胞標識可能な遺伝子を発現できるレトロウイルスベクターを該物質の最初の投与と同時、投与前または投与後に該実験動物に投与した後、該物質を一日一回ないし数回投与して 10~20 日間飼育する。その後、該実験動物の脳を摘出し、脳の凍結切片を調製して蛍光顕微

鏡を用いて観察し、例えば増殖細胞を標識する薬剤として BrdU を用いた場合は、単位面積当たりの BrdU 陽性細胞数および BrdU 陽性細胞数に対するニューロンマークターである Tuj1 陽性細胞数の割合を、陰性コントロールと比較する。

以上の方針により、本発明の神経再生薬のニューロン新生促進作用および神経疾

5 患治療効果を評価することができる。

7. 本発明のニューロン新生促進剤の評価法

参考例 2 記載の方法で取得できる ANSC-7 細胞を、1ml の 1% の N2 supplement (Invitrogen 社製) と 20 ng/ml の FGF-2 (PeproTech 社製) を含む DMEM/F12 培地が入ったポリオルニチンおよびラミニンでコートした 12 穴培養ディッシュに 10 1 穴当たり 1.8×10^5 個まき、一晩インキュベートする。培養液を、FGF2 を含まず 0.5% の胎仔牛血清及び 1% の N2 supplement を含む DMEM/F12 培地 (Invitrogen 社製。以下、分化誘導培地と称する) に全量交換して分化を誘導する。その際、PBS (Invitrogen 社製) または DMSO で 0.01mmol/l ～ 5mol/l の範囲で段階的に希釈した GSK-3 の活性を阻害する物質をそれぞれ 1000 分の 1 容量添加する。陰性コ 15 ントロールとして同容量の PBS または DMSO を添加する。

培養液を、それぞれの GSK-3 の活性を阻害する物質が入った分化誘導培地で 2 日おきに交換し、計 6 日間分化誘導後、15% 中性緩衝ホルマリン液 (和光純薬工業) に置換し 20 分間固定する。その後、0.3% TritonX-100 (ナカライトスク社製) を含む PBS を用いた 5 分間の洗浄を 3 回繰り返す。次に、PBS で希釈した 10% ヤギ 20 胎児血清 (DAKO 社製) を用いて細胞を 2 時間ブロッキングした後、1 次抗体として PBS で 1000 倍希釈したマウス抗 Tuj1 (β チュープリンイソタイプ III) 抗体 (シグマ アルドリッヂ社製) を 4°C で 16 時間反応させる。その後、0.3% TritonX-100 を含む PBS を用いた 5 分間の洗浄を 3 回繰り返す。

次に、2 次抗体として 1000 倍希釈した Alexa Fluor 488 コンジュゲートヤギ抗マ 25 ウス IgG 抗体 (Molecular Probes 社製) を室温で 2 時間反応させる。同時に Bisbenzimide H 33342 Fluorochrome, Trihydrochloride (Calbiochem 社製、以下 H33342 と記す) を終濃度 $1 \mu\text{g/ml}$ になるように添加し、核を染色する。PBS に浸したのち倒立型蛍光顕微鏡 (ニコン社製) により観察し、2.44 平方ミリメートルあたりの Tuj1 陽性ニューロン数をカウントする。

以下、本発明のニューロン新生促進剤のニューロン新生促進作用に関する実験例を示す。

実験例 1：塩化リチウムによるニューロン新生促進（1）

上記 7 の方法により、ANSC-7 細胞の分化誘導時に PBS で 0.01, 0.1, 1, 3mol/l 5 になるよう溶解した塩化リチウムまたは塩化ナトリウム（いずれもナカライトスク社製）を培養液の 1000 分の 1 容量、ANSC-7 細胞を含有する培地に添加し、分化誘導後 6 日目のニューロン数を解析した。その結果、Tuj1 陽性のニューロン数は終濃度 0.01, 0.1, 1, 3mmol/l の塩化リチウムでそれぞれ 1.1, 1.3, 1.8, 2.1 倍となり（塩化リチウム 1mmol/l 以上で有意差あり）、塩化リチウム濃度に依存して増加した。また 3mmol/l の塩化リチウムによる H33342 陽性の総細胞数は塩化リチウムなしのコントロールと比較して 1.1 倍で有意差がなかった。以上のことから、塩化リチウムは ANSC-7 細胞のニューロン新生促進作用を有することが明らかとなつた。また、ネガティブコントロールである塩化ナトリウムでは Tuj1 陽性のニューロン数は終濃度 0.01, 0.1, 1, 3mmol/l でそれぞれ 1.0, 1.1, 1.2, 1.2 倍で全て 15 有意差は無く、ニューロン新生数の増加は塩濃度や塩化物イオンによる効果ではなくリチウムの効果であると考えられる。

実験例 2：塩化リチウムによるニューロン新生促進（2）

ANSC-7 細胞に対するニューロン新生促進作用が BDNF および Bcl-2 の発現誘導によるものであるかどうかを明らかにするため、リチウムにより BDNF および Bcl-2 20 の発現が促進されるか否かを半定量的 RT-PCR により解析した。

ANSC-7 細胞を、2ml の 1% の N2 supplement と 20 ng/ml の FGF-2 を含む DMEM/F12 培地が入ったポリオルニチンとラミニンでコートした 6 穴培養ディッシュに、1 穴あたり 4.5×10^5 個になるように計 7 穴まき、一晩インキュベートした。1 穴の細胞から RNeasy mini kit (キアゲン社製) を用いて添付プロトコールに従って全 RNA を 25 取得した。残り 6 穴の培地を分化誘導培地に全量交換して分化を誘導した。そのうち 2 穴には 3mol/l の塩化リチウムを培地の 1000 分の 1 容量、別の 2 穴には 1mol/l の塩化リチウムを培地の 1000 分の 1 容量添加した。残り 2 穴には同容量の PBS を添加しコントロールとした。

分化誘導開始から 24 時間後、各濃度の塩化リチウムを添加した 1 穴ずつから細

胞を採取し、該細胞から上記と同様の方法により全 RNA を取得し、残りの細胞からは分化誘導開始から 6 日後に全 RNA を取得した。上記で取得した各 $5\mu\text{g}$ の全 RNA に、 $10\mu\text{l}$ の $5\times$ DNase buffer、 $0.5\mu\text{l}$ の RNase inhibitor($40\text{U}/\mu\text{l}$)、 $2.5\mu\text{l}$ の RNase-free DNaseI($1\text{U}/\mu\text{l}$) (以上プロメガ社製) をそれぞれ加え、滅菌水で総容量を $50\mu\text{l}$ とした。37°Cで 30 分間反応させた後、フェノール／クロロホルム処理したのちエタノール沈殿した。

DNase 処理した各 $1\mu\text{g}$ の全 RNA に $0.5\mu\text{g}/\mu\text{l}$ オリゴ(dT)12-18 プライマーを $1\mu\text{l}$ 加え、滅菌水で総容量を $12\mu\text{l}$ とした。65°Cで 10 分間加熱した後氷上で急冷し、 $4\mu\text{l}$ の $5\times$ synthesis buffer (インビトロジエン社製)、 $1\mu\text{l}$ の 10mmol/l dNTP mix、 $10\mu\text{l}$ の 0.1mol/l DTT、 $1\mu\text{l}$ の $200\text{U}/\mu\text{l}$ Superscript II RT (インビトロジエン社製) を加え、42°Cで 50 分間反応した。90°Cで 5 分間加熱した後氷上に 10 分間置いた。

次に RNaseH($2\text{U}/\mu\text{l}$) (インビトロジエン社製) を $1\mu\text{l}$ 加え、37°Cで 20 分間反応し、滅菌水を加えて総容量を $200\mu\text{l}$ とすることにより cDNA を作製した。

同様に陽性コントロール用としてラット脳の全 RNA から cDNA を作成した。 $1\mu\text{l}$ の該 cDNA に、 $2\mu\text{l}$ の $10\mu\text{mol/l}$ プライマーセット、 $1\mu\text{l}$ の DMSO (ナカライトスク社製)、 $2\mu\text{l}$ の $10\times$ ExTaq buffer、 $1.6\mu\text{l}$ の dNTPmix、 $0.1\mu\text{l}$ の ExTaq (以上、タカラバイオ社製) を加え、サーマルサイクラーを用いて 94°Cで 1 分間処理後、94°Cで 1 分間、60°Cで 1 分間、74°Cで 1 分間のサイクルを、Bcl-2 増幅用 PCR で 27 サイクル、BDNF 増幅用 PCR で 35 サイクル繰り返し、それぞれの cDNA 断片を増幅させた。Bcl-2 の増幅には配列番号 6 および 7 で表される塩基配列からなる合成 DNA を、BDNF の増幅には配列番号 8 および 9 で表される塩基配列からなる合成 DNA をプライマーセットに用いた。

増幅 DNA は、1.8% アガロース (ナカライトスク社製) ゲルで電気泳動し、エチジウムプロマイド (ナカライトスク社製) で染色後、トランスイルミネーター (東洋紡社製) で検出した。Bcl-2 のバンド強度は分化開始後 24 時間目および 6 日目とともに塩化リチウムの濃度差により変化しなかった。BDNF は塩化リチウムの濃度差に関わらず発現は認められなかった。

以上の結果から、塩化リチウムによるニューロン新生促進活性は、Bcl-2 および BDNF を介した細胞死抑制の結果ではなく、塩化リチウムは積極的にニューロン新生

を促進することが示唆された。

実験例 3：塩化リチウムによるニューロン新生促進（3）

リチウムによるニューロン新生促進作用がアポトーシス抑制による新生細胞数の増加によるものであるのか、または積極的にニューロン分化を誘導していることによるものであるのかを明らかにするため、リチウムによる ANSC-7 細胞に対するアポトーシス抑制効果を解析した。

上記 7 の方法により、塩化リチウムを終濃度 3mmol/l になるように ANSC-7 細胞を含有する培地に添加して 6 日間培養し、塩化リチウムを添加して培養した ANSC-7 細胞とコントロールとして PBS を添加して培養した ANSC-7 細胞とを、*in situ* 細胞死検出キット、フルオレセイン（ロシュ・ダイアグノスティックス社製）を用いて添付プロトコールどおり該細胞と反応させた。倒立型蛍光顕微鏡（ニコン社製）を用いて該細胞を観察し、2.44 平方ミリメートルあたりのアポトーシス細胞数をカウントした。

その結果、アポトーシス陽性細胞数は塩化リチウム添加により 1.0 倍となり変化せず、塩化リチウムは ANSC-7 細胞のアポトーシスを抑制しないことが明らかとなった。従って、リチウムによるニューロン新生促進作用は、積極的なニューロン新生の促進によるものであることが明らかとなった。

実験例 4：インスリンおよびフォルスコリンとリチウムとのニューロン新生促進作用に関する拮抗作用

ニューロン新生促進作用が知られるインスリンおよびフォルスコリンとリチウムとのニューロン新生促進作用に関する拮抗作用を解析した。

上記 7 の方法により、ANSC-7 細胞の分化誘導時に、培地中の濃度が 5 μ g/ml または 25 μ g/ml になるようにインスリンを培地に添加するとともに、各濃度のインスリンを含む培地に、終濃度が 0、1 および 3mmol/l になるように塩化リチウムを添加し、6 日間分化誘導を行った。

その結果、3mmol/l の塩化リチウムによるニューロン増加率は、5 μ g/ml のインスリン共存時に比べ、25 μ g/ml のインスリン共存時で 0.70 倍となり有意に低下していた。よって、インスリンとリチウムの作用が拮抗することが明らかとなった。

また、上記と同様の方法にて、インスリンの代わりに終濃度が 0、1 および 5 μ

mmol/l になるようにフォルスコリンを培地に添加し、終濃度が 0 または 3mmol/l の塩化リチウム共存時におけるニューロン増加率を算出した。

その結果、塩化リチウムなしの条件ではフォルスコリンによるニューロン増加率が 1, 5 μ mol/l のフォルスコリンでそれぞれ 1.9, 2.2 倍であるのに対し、3mmol/l の塩化リチウム共存時にはそれぞれ 1.2, 1.1 倍と加算しなかった。従って、塩化リチウムとフォルスコリンは、ニューロン新生促進作用において拮抗することが明らかとなった。

リチウムの標的分子としては、GSK-3 やイノシトール-1-リン酸 fosfアターゼやイノシトール-ポリfosfアターゼが知られており [Nature, 417, 292-295 (2002)]、また、インスリンとフォルスコリンは間接的に GSK-3 の活性を阻害することが知られている [Mol. Cell. Biol., 19, 4989-5000 (1999)]。リチウム、インスリンおよびフォルスコリンのニューロン新生促進作用に関する標的分子は共通であると考えられることから、リチウムは GSK-3 の活性を阻害することにより神経幹細胞のニューロン新生を促進していることが示された。

実験例 5 : GSK-3 の選択的阻害剤である SB-216763 によるニューロン新生促進参考例 1 記載の方法により合成した GSK-3 の選択的阻害剤として知られる SB-216763 [Chem. Biol., 7, 793-803 (2000)] を、0.1 および 0.33mmol/l になるよう DMSO に溶解し、上記 7 の方法により、その 1000 分の 3 容量を ANSC-7 を含有する培地に、ANSC-7 細胞分化誘導時に添加し、分化誘導後 6 日目のニューロン数を測定した。

その結果、Tuj1 陽性のニューロン数は終濃度 0.3, 1.0 μ mol/l の SB-216763 によってそれぞれ 1.2 倍、1.8 倍となり濃度依存的に有意に増加した。よって、GSK-3 を選択的に阻害する活性を持つ化合物によりニューロン新生を促進できることが明らかとなった。

以上より、GSK-3 を選択的に阻害する活性を持つ物質は、神経幹細胞のニューロン新生促進剤になるとともに、神経の再生治療薬になることが示された。

実験例 6 : GSK-3 の阻害剤である 9-プロモ-7,12-ジヒドロ-インドロ[3,2-d][1]ベンズアゼピン-6(5H)-オン (Kenpaullone) によるニューロン新生促進実験例 1 に示した方法と同様の方法により、GSK-3 およびサイクリン依存性

キナーゼ(以下、CDKと称す)の阻害剤として知られる Kenpauallone [Biochem. J., 371, 199-204(2003)、CALBIOCHEM 社製] を、0.5、2 および 5mmol/l になるように DMSO に溶解し、培養液の 1000 分の 1 容量の該 DMSO 溶液を、ANSC-7 細胞を含有する培地に添加し、分化誘導後 6 日目の Tuj1 陽性ニューロン数を解析した。陰性コントロールとして同容量の DMSO を添加した。また同様に、CDK阻害剤として知られ、GSK-3 はほとんど阻害しない Roscovitine [Biochem. J., 371, 199-204(2003)、シグマアルドリッヂ社製]を、2、5 および 10mmol/l になるように DMSO に溶解し、培養液の 1000 分の 1 容量の該 DMSO 溶液を、ANSC-7 細胞を含有する培地に添加し、分化誘導後 6 日目の Tuj1 陽性ニューロン数を解析した。

その結果、Tuj1 陽性ニューロン数は終濃度 0.5 μ mol/l の Kenpauallone で陰性コントロールと比較して 1.3 倍、2 μ mol/l で 2.7 倍、5 μ mol/l で 3.7 倍となり、Kenpauallone の濃度依存的に有意に増加した。一方、終濃度 2 μ mol/l の Roscovitine で陰性コントロールと比較して 1.0 倍、5 μ mol/l で 1.2 倍、10 μ mol/l で 1.1 倍でありそれぞれ有意差は無く、Roscovitine による Tuj1 ニューロン数の増加は認められなかった。従って、Kenpauallone はニューロン新生促進作用を持ち、その作用は Kenpauallone の CDK阻害活性ではなく GSK-3 阻害活性によるものであることが明らかとなった。

以上より、リチウム、SB-216763 に限らず、GSK-3 を阻害する活性を持つ化合物は、神経幹細胞のニューロン新生促進剤になるとともに、神経疾患の再生治療用医薬になることが示された。

実験例 7：GSK-3 β 遺伝子高発現によるニューロン新生の抑制

アルツハイマー病患者の脳内で GSK-3 β の高発現が認められることから [J. Neuropathol. Exp. Neurol., 56, 70-78(1997)]、アルツハイマー病発症の原因と GSK-3 β の関係を明らかにするため、成体神経幹細胞のニューロン分化に対する GSK-3 β 高発現の影響を、レトロウイルスベクターを用いて検討した。

まず、実験例 2 に記載したラット脳由来 cDNA を鑄型として、野生型ラット GSK-3 β 遺伝子をコードする cDNA を以下のように調製した。2.5 μ l の鑄型 cDNA に、3 μ l の配列番号 1.0 および 1.1 からなる 10 μ mol/l のプライマーセット (プロリゴ社製)、5 μ l の 10 \times PCR buffer for KOD-plus-、5 μ l の 2mmol/l dNTPs、

2 μ l の 25 mmol/l MgSO₄、1 μ l の KOD -plus- DNA polymerase(以上、東洋紡績社製)および31.5 μ l の滅菌水を加え、サーマルサイクラーを用いて94°Cで2分間保温後、94°Cで15秒間、60°Cで30秒間、68°Cで1分20秒間のサイクルを25サイクル繰り返し、cDNA断片を増幅させた。

5 一方、GSK-3 β のキナーゼ活性を失う変異である85番目のリジン残基がアルギニン残基に変異した変異型ラットGSK-3 β 遺伝子[Proc. Nat. Acad. Sci. USA, 92, 8498-8502(1995)]をコードするcDNAを同様に以下のように調製した。2.5 μ l の野生型ラットGSK-3 β 遺伝子をコードするcDNAを鋳型として、配列番号10および12からなるプライマーセットを用いて変異型ラットGSK-3 β の5'末端側部分長cDNAを増幅させ、配列番号11および13からなるプライマーセットを用いて変異型ラットGSK-3 β の3'末端側部分長cDNAを増幅させた。それぞれの部分長cDNAの混合物を鋳型として、配列番号10および11からなるプライマーセットを用いて変異型ラットGSK-3 β の完全長cDNAを増幅させた。

15 野生型および変異型それぞれの増幅反応液をフェノール／クロロホルム処理したのちエタノールを加えて沈殿させ、QIAquick PCR purification kit(キヤゲン社製)で添付プロトコールに従って精製した。

続いて10 μ gのpCLNCXプラスミドベクター(IMGENEX社製)に10 μ lの10×Mバッファー、5 μ lのHindIII(タカラバイオ社製)を加え、滅菌水を加えて100 μ lとし、37°Cで12時間反応させた。反応液をフェノール／クロロホルム処理した後エタノールを加えてDNAを沈殿させ、32 μ lの滅菌水に溶解した。該DNA溶液に4 μ lの10×Blunting buffer、4 μ lのKOD DNA polymeraseを加え、72°Cで2分間反応させ平滑末端化した。反応液をフェノール／クロロホルム処理した後エタノールを加えてDNAを沈殿させ、43 μ lの滅菌水に溶解した後、5 μ lの10×Alkaline Phosphatase bufferおよび2 μ lのAlkaline Phosphatase(以上、タカラバイオ社製)を加え65°Cで30分間反応させた。反応液をフェノール／クロロホルム処理したのちエタノールを加えてDNAを沈殿させ滅菌水に溶解した。

この切断したpCLNCXプラスミドベクター3 μ gに上記で調製した3 μ gの野生型または変異型のラットGSK-3 β 遺伝子をコードするcDNAを混合し滅菌水を

加えて $4\mu\text{l}$ とし、 $4\mu\text{l}$ の ligation high (東洋紡績社製) を加え 16°C で 12 時間反応させた。これを E. coli DH5 α コンピテントセル (ダカラバイオ社製) にトランスフォーメーションした。定法によりアンピシリン耐性コロニーを液体 L B 培地で培養し、Endofree Plasmid Maxi Kit (キアゲン社製) を用いて添付プロトコールに従って pCLNC-GSK3 β プラスミド DNA および pCLNC-GSK3 β (K85R) プラスミド DNA を調製した。

次に、以下のとおりウイルスベクターを作製し、ANSC-7 細胞のニューロン分化に関わる機能を解析した。まず、pCLNC-GSK3 β 、pCLNC-GSK3 β (K85R)、または陰性コントロールである pCLNCX プラスミドベクター-DNA $15\mu\text{g}$ と、それぞれ pMD.G プラスミドベクター-DNA (米国ソーク研究所より分与) $5\mu\text{g}$ を 2ml の D-MEM high glucose 培地 (インビトロジェン社製) に溶解し、Transfast transfection reagent (プロメガ社製) を用いて添付プロトコールに従って、前日に用意した 293gp 細胞 (米国ソーカ研究所より分与) にトランスフェクションを行った。

トランスフェクションの 3 日後に、培養上清を $0.45\mu\text{m}$ のフィルター (Millipore 社製) でろ過し、ウイルスベクターを含む溶液を回収した。該ウイルスベクター溶液をポリアロマチューブ (日立工機製) に移し、超遠心機 (日立工機製) を用いて $50,000\times\text{g}$ 、 18°C で 90 分間遠心分離した。上清を除去し、沈殿しているウイルスを 1% の N2 supplement と $20\text{ ng}/\text{ml}$ の FGF-2 と $8\mu\text{g}/\text{ml}$ の臭化ヘキサジメトリン (シグマアルドリッヂ社製) を含む DMEM/F12 培地に懸濁した。実験例 1 に示した方法と同様の方法により、ポリオルニチンおよびラミニンでコートした 12 穴培養ディッシュに 1 穴当たり 1.8×10^5 個まで一晩静置した ANSC-7 細胞から培養上清を除いて該ウイルス懸濁液を添加し、 37°C 、 $5\%\text{CO}_2$ 濃度のインキュベーター中で 2 時間培養して感染させた。続いて培養液を分化誘導培地に全量交換して分化誘導を開始し、実験例 1 と同様に分化誘導 6 日後の Tuj1 陽性ニューロン数を解析した。

その結果、陰性コントロールである pCLNCX より作製したレトロウイルスを感染させ分化させた ANSC-7 細胞と比べ、pCLNC-GSK3 β より作製したレトロウイルスを感染させ GSK-3 β を高発現させ分化させた細胞では新生ニューロン数が 33% 有意に減少した。一方、pCLNC-GSK3 β (K85R) より作製したレトロウイルスを感染させキナーゼ活性を持たない GSK-3 β (K85R) を高発現させ分化させた細胞

では新生ニューロン数が野生型 GSK-3 β を高発現させた細胞より有意に 34 % 多く、陰性コントロールである pCLNCX より作製したレトロウイルスを感染させ分化させた場合と同程度であった。よって GSK-3 β のキナーゼ活性によりニューロン新生が抑制されることが明らかとなった。

5 従って、アルツハイマー病は、GSK-3 β の高発現による標的分子のリン酸化の促進によってニューロン新生が抑制されることにより脳の自己再生能が抑制され、発症する可能性が示され、GSK-3 阻害剤が神経疾患、例えばアルツハイマー病の治療薬となり得ることが示された。

実験例 8：会合型ベータアミロイドペプチドによるニューロン新生の抑制と GSK-3 阻害剤による抑制の解除（1）

ベータアミロイドペプチド（以下、A β と称す）は老人斑の主要構成成分であり、アルツハイマー病の原因であると考えられている物質である [Proc. Nat. Acad. Sci., USA, 98, 11039-11041 (2001)]。A β [1-40] (BIOSOURCE 社製) を 0.1% (v/v) トリフルオロ酢酸（ナカライトスク社製）で 10mg/ml になるように溶解し、15 25°C で 1 時間保温した後、PBS で 0.5mg/ml に希釈した。25°C で 24 時間保温して会合体を形成させ [J. Biol. Chem., 276, 42027-42034 (2001)]、実験例 1 に示した方法と同様の方法により ANSC-7 細胞の分化誘導時に終濃度 0.1mg/ml になるように培地に添加し、陰性コントロールには同容量の PBS を添加した。分化誘導 2 日後、4 日後にはそれぞれ分化誘導培地のみで全量培地交換し、分化誘導 6 日後のニューロン数を測定した。

その結果、Tuj1 陽性ニューロン数は会合型 A β の添加により 78 % 有意に減少した。従って、神経疾患の 1 つであるアルツハイマー病は、会合型 A β によりニューロン新生が抑制されることにより、脳の自己再生能が抑制され、発症する可能性が示された。

25 実験例 9：会合型ベータアミロイドペプチドによるニューロン新生の抑制と GSK-3 阻害剤による抑制の解除（2）

会合型 A β によるニューロン新生の抑制がアポトーシス促進による新生細胞数の減少によるものであるのか、またはニューロン分化の抑制によるものであるのかを明らかにするため、会合型 A β の ANSC-7 細胞に対するアポトーシス促進効果を

解析した。

実験例 8 と同様の方法により、終濃度 0.1mg/ml の会合型 A β を含有する分化誘導培地により 6 日間分化誘導した ANSC-7 細胞とコントロールとして PBS を含有する分化誘導培地により分化誘導した ANSC-7 細胞とを、*in situ* 細胞死検出キット、

5 フルオレセイン（ロシュ・ダイアグノスティックス社製）を用いて添付プロトコールどおり該細胞と反応させた。倒立型蛍光顕微鏡（ニコン社製）を用いて該細胞を観察し、2.44 平方ミリメートルあたりのアポトーシス細胞数をカウントした。

その結果、アポトーシス陽性細胞数は会合型 A β 添加により 14% 増加したが有意差は無かったことから、会合型 A β による新生ニューロン数の減少は、アポト 10 ーシス促進よりもニューロン分化の抑制により主に引き起こされることが明らかとなつた。

実験例 10：会合型ベータアミロイドペプチドによるニューロン新生の抑制と GSK-3 阻害剤による抑制の解除（3）

実験例 8 と同様の方法により、終濃度 0.1mg/ml の会合型 A β を含有する分化誘導培地で ANSC-7 細胞を分化誘導する際に、塩化リチウムを終濃度 3mmol/l、または Kenpau lone を終濃度 2 μ mol/l になるように加え、分化誘導 6 日後の Tuj1 陽性ニューロン数を解析した。

その結果、塩化リチウムまたは Kenpau lone を加えることにより、Tuj1 陽性ニューロン数が、会合型 A β のみと比較してそれぞれ 73%、400% 有意に増加した。

20 従つて、GSK-3 阻害剤は会合型 A β によるニューロン新生の抑制を解除する作用を持つことが明らかとなつた。

以上より、GSK-3 を選択的に阻害する活性を持つ化合物は、アルツハイマー病等の神経疾患の神経再生薬になること、および該化合物は神経幹細胞のニューロン新生促進剤になることが示された。

25 実験例 11：GSK-3 の阻害剤である Indirubin-3'-monoxime によるニューロン新生促進

実験例 1 に示した方法と同様の方法により、GSK-3 の阻害剤として報告されている Indirubin-3'-monoxime [J. Biol. Chem., 276, 251-260 (2001)、シグマアルドリッヂ社製] を、1mmol/l になるように DMSO に溶解し、培養液の 1000 分

の 1 容量の該 DMSO 溶液を、 ANSC-7 細胞を含有する培地に添加し、分化誘導後 6 日目の Tuj1 陽性ニューロン数を解析した。陰性コントロールとして同容量の DMSO を添加した。その結果、終濃度 $1 \mu\text{mol/l}$ の Indirubin-3'-monoxime の添加条件において、 Tuj1 陽性ニューロン数は陰性コントロールと比較して 1.4 倍に有意に増加した。従って、 Indirubin-3'-monoxime はニューロン新生促進作用を持つことが明らかとなった。

以上より、リチウム、SB-216763、Kenpauullone に限らず、GSK-3 を阻害する活性を持つ化合物は、神経幹細胞のニューロン新生促進剤になるとともに、神経疾患の再生治療用医薬になることが示された。

10 実験例 1 2 : GSK-3 に対する特異的な siRNA によるニューロン新生促進

short interference RNA (siRNA) は遺伝子を特異的にノックダウンする [Nature, 411, 494-498 (2001)]。成体神経幹細胞に発現する GSK-3 を特異的に阻害することによりニューロン新生が促進できることをさらに明らかにするため、GSK-3 β に対する特異的な化学合成 siRNA を ANSC-7 細胞に導入し、ニューロン新生に対する効果を検討した。

まず、以下のとおり GSK-3 β に対する 2 種の化学合成 siRNA の ANSC-7 細胞でのノックダウン効果を検討した。ANSC-7 細胞に対する siRNA の導入は Rat NSC NucleofectorTM Kit (Amaxa 社製) を用いて行なった。 1×10^6 個の ANSC-7 細胞に対して 150pmol の配列番号 1 4 および 1 5 からなる 2 重鎖 siRNA-B1 または配列番号 1 6 および 1 7 からなる 2 重鎖 siRNA-B2 (Dharmacon 社製) を添付プロトコールに従って導入した。陰性コントロールとして Non-specific Control Duplex IX (47% GC Content) siRNA (Dharmacon 社製) を導入した。導入後直ちに 5ml の分化誘導培地に懸濁し、ポリオルニチンおよびラミニンでコートした 6 センチ培養ディッシュに播種した。播種 48 時間後に細胞を 1% の Nonidet P-40、50mM の Tris-HCl (pH7.4)、25 50mM の NaCl (以上、ナカライトスク社製)、10ml あたり一錠の Complete mini, EDTA free (ロシュ・ダイアグノスティックス社製) を含む水溶液に溶解して回収し、定法により SDS-PAGE 法で分離したのちウエスタンブロッティング法で GSK-3 β 量を検出した。検出には GSK-3 α および β を認識する抗 GSK-3 抗体 (シグマ社製) を用いた。その結果、2 種の GSK-3 β に対する siRNA を導入した

細胞は両者とも陰性コントロールと比較してGSK-3 β 量が9割以上減少し、GSK-3 α 量は変化しなかったため、それぞれのsiRNAはGSK-3 β 特異的にノックダウンできることが明らかになった。

5 続いてそれら2種のsiRNAをANSC-7に導入後、直ちに1mlの分化誘導培地が入ったポリオルニチンおよびラミニンでコートした12穴培養ディッシュに1穴当たり 1.8×10^5 個まき、分化を誘導した。実験例1に示した方法と同様の方法により、分化誘導後6日目のTuj1陽性ニューロン数を解析した。その結果、Tuj1陽性ニューロン数はsiRNA-B1を導入した細胞では陰性コントロールと比較して2.5倍に増加し、siRNA-B2を導入した細胞では1.9倍に増加した。従って、GSK-3 β に対するsiRNAはニューロン新生促進作用を持つことが明らかとなった。

10 以上より、GSK-3を阻害する活性を持つ化合物およびsiRNAを含む核酸は、神経幹細胞のニューロン新生促進剤になるとともに、神経疾患の再生治療用医薬になることが示された。

参考例1：3-(2,4-ジクロロフェニル)-4-(1-メチルインドール-3-イル)-1H-ピロール-2,5-ジオン(SB-216763)の合成工程1：3-インドールグリオキシル酸メチルエステルの合成

15 市販の3-インドールグリオキシル酸(9.55 g)を塩化メチレン(300 mL)に懸濁し、氷冷下、オキサリルクロリド(8.8 mL)を加え、20°Cで20時間攪拌した。反応液を氷冷し、メタノール(190 mL)を加えた後、反応液を25°Cで1時間攪拌20した。反応液に水および塩化メチレンを加え、析出した結晶を濾取し、結晶を塩化メチレンで洗浄した。結晶を減圧乾燥し、3-インドールグリオキシル酸メチルエステル(7.07 g, 69%)を得た。

工程2：2-(1-メチルインドール-3-イル)-2-オキソ酢酸メチルエステルの合成

25 工程1で得られた3-インドールグリオキシル酸メチルエステル(5.88 g)をN,N-ジメチルホルムアミド(180 mL)に溶解し、0°Cで攪拌しながら、水素化ナトリウム(60%オイル分散、1.4 g)を少量ずつ加えた。反応混合物を1時間攪拌した後、ヨウ化メチル(1.2 mL)を加え、20°Cで20時間攪拌した。氷冷水を反応液に添加した後、1 mol/L 塩酸でpH値を5に調整した。析出した結晶を濾取し、水で

洗浄した。結晶を減圧乾燥し、2-(1-メチルインドール-3-イル)-2-オキソ酢酸メチルエステル (1.96 g, 33%) を得た。

工程 3 : 2, 4-ジクロロフェニル酢酸アミド

市販の 2, 4-ジクロロフェニル酢酸 (12.4 g) を塩化メチレン (350 mL) に溶解し、氷冷下、オキサリルクロリド (10.6 mL) を加え、20°Cで 20 時間攪拌した。反応液を減圧濃縮し、得られた残渣を塩化メチレン (100 mL) に溶解した。この溶液を氷冷した 28% アンモニア水溶液 (250 mL) に滴下し、塩化メチレンを減圧留去した。析出した結晶を濾取し、水で洗浄した。結晶を減圧乾燥し、2, 4-ジクロロフェニル酢酸アミド (11.14 g, 90%) を得た。

10 工程 4 : SB-216763 の合成

tert-ブトキシカリウム (0.5 g) をテトラヒドロフラン (35 mL) に溶解し、氷冷下、工程 2 で得られた 2-(1-メチルインドール-3-イル)-2-オキソ酢酸メチルエステル (0.4 g)、次いで工程 3 で得られた 2, 4-ジクロロフェニル酢酸アミド (0.3 g) を加え、同温度で 3 時間攪拌した。水を反応液に添加した後、酢酸エチルで抽出した。有機層を飽和炭酸水素ナトリウム水溶液、飽和食塩水で順次洗浄し、無水硫酸マグネシウムで乾燥した後、結晶をエタノールで洗浄した。結晶を減圧乾燥し、SB-216763 (390 mg, 70%) を得た。

¹H-NMR (CDCl₃) δ (ppm) : 3.89 (s, 3H), 6.41 (d, J = 8.1 Hz, 1H), 6.80 (t, J = 7.1 Hz, 1H), 7.15 (t, J = 7.1 Hz, 1H), 7.32-7.38 (m, 3H), 7.49 (s, 1H), 8.01 (s, 1H), 10.94 (s, 1H) 元素分析: 理論値 (C: 61.5, H: 3.3, N: 7.6)、測定値 (C: 61.3, H: 3.5, N: 7.4)

参考例 2 : ラット脳からの成体神経幹細胞の単離と培養

7 週齢の Sprague Dawley rat をエテール麻酔によって眠らせた後に断頭し、頭頂部より頭蓋骨を切開して脳を摘出した。摘出した脳から脳室周囲部位を含む組織を顕微鏡下で眼科用のはさみとピンセットを用いて分離した。脳室周囲部位を含む組織は眼科用はさみとメスを用いて 1mm³程度の断片にした後、2.5U/ml のパパイン、250U/ml の DNase (いずれも Worthington, Freehold, NJ 社製)、1u/ml の中性プロテアーゼ (Dispase : Boehringer Manheim 社製) を含む 5ml の HBSS 緩衝液 (Invitrogen 社製) 中で 37°C、30 分間消化反応を行なった。該反応により得られ

た細胞と組織の混合物を 10%の胎仔牛血清 (Hyclone 社製) を含む DMEM (Invitrogen 社製) で 3 回洗浄後、10%の胎仔牛血清を含む DMEM に溶解し、10⁷ μm のナイロンメッシュを用いて未消化物を除去した。

得られた細胞粗抽出液を、10cm の培養皿上で 10%の胎仔牛血清を含む DMEM/F12 培地 (Invitrogen 社製) を用いて 37°C のインキュベーター中で 1 晚培養した。翌日、培地を 1%の N2 supplement (Invitrogen 社製) と 20ng/ml の FGF-2 (PeproTech 社製) を含む DMEM/F12 に置換して培養を開始した。3 日に一度、培地の半分を新しい 1%の N2 supplement と 20 ng/ml の FGF-2 を含む DMEM/F12 に置換し、培養を継続した。小型細胞の小さなコロニーが形成されたら 1%のトリプシンで 30 秒から 1 分間程度処理し、剥がれた細胞を回収した。該細胞は、10 μg/ml のポリオルニチン (シグマ社製) を用いて室温で一晩、および 5 μg/ml のマウス E H S 腫瘍由来ラミニン (Becton Dickinson 社製) を用いて 37°C で一晩コートしたマルチ・ウェルの培養皿 (Fisher Scientific 社製) 上に撒き、培養を継続した。上記培養を続けることで、小型の突起を有し、厚みのある小型細胞が濃縮された。本細胞を成体神経幹細胞株 ANSC-7 として上記の実験に使用した。

発明を実施するための最良の形態

実施例 1：錠剤

常法により、次の組成からなる錠剤を調製する。

20	(1) 処方	SB-216763	5mg
		乳糖	62mg
		馬鈴薯デンプン	30mg
		ポリビニルアルコール	2mg
		<u>ステアリン酸マグネシウム</u>	<u>1mg</u>
25			100mg

(2)	Kenpaulone	5mg
	乳糖	62mg
	馬鈴薯デンプン	30mg

ポリビニルアルコール	2mg
<u>ステアリン酸マグネシウム</u>	<u>1mg</u>
	100mg

5 (3)	Indirubin-3'-monoxime	5mg
	乳糖	62mg
	馬鈴薯デンプン	30mg
	ポリビニルアルコール	2mg
	<u>ステアリン酸マグネシウム</u>	<u>1mg</u>
10		100mg

実施例 2：神経幹細胞のニューロン新生促進剤（1）

常法により、塩化リチウムを 3mol/l になるように PBS に溶解し、塩化リチウムを含む神経幹細胞のニューロン新生促進剤を調製した。

15

実施例 3：神経幹細胞のニューロン新生促進剤（2）

常法により、SB-216763、Kenpau lone または Indirubin-3'-monoxime を 0.1mmol/l になるように DMSO に溶解し、SB-216763、Kenpau lone または Indirubin-3'-monoxime を含む神経幹細胞のニューロン新生促進剤を調製した。

20

産業上の利用可能性

本発明によれば、グリコーゲンシンターゼキナーゼ-3 の活性を阻害する物質を有効成分として含有してなる神経再生薬、該物質を有効成分として含有してなる神経幹細胞のニューロン新生促進剤、該ニューロン新生促進剤の存在下、神経幹細胞を培養して得られるニューロンおよび該ニューロンの製造方法を提供することができる。

配列表フリーテキスト

配列番号 5 - 人工配列の説明：合成蛋白質

配列番号 6 - 人工配列の説明：合成DNA

配列番号 7－人工配列の説明：合成DNA

配列番号 8－人工配列の説明：合成DNA

配列番号 9－人工配列の説明：合成DNA

配列番号 10－人工配列の説明：合成DNA

5 配列番号 11－人工配列の説明：合成DNA

配列番号 12－人工配列の説明：合成DNA

配列番号 13－人工配列の説明：合成DNA

配列番号 14－人工配列の説明：合成RNA

配列番号 15－人工配列の説明：合成RNA

10 配列番号 16－人工配列の説明：合成RNA

配列番号 17－人工配列の説明：合成RNA

請求の範囲

1. グリコーゲンシンターゼキナーゼ-3（以下、GSK-3と略す）の活性を阻害する物質を有効成分として含有してなる神経再生薬。

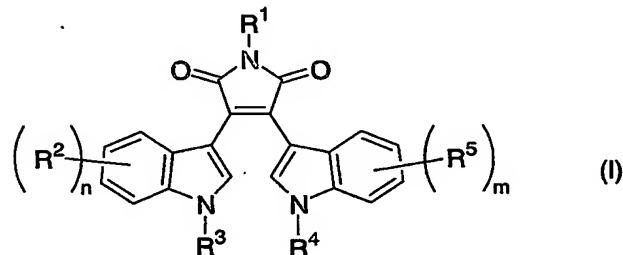
2. 神経再生薬が、神経疾患の治療薬である請求項1記載の医薬。

5 3. 神経疾患が、パーキンソン病、アルツハイマー病、ダウン症、脳血管障害、脳卒中、脊髄損傷、ハンチントン舞蹈病、多発性硬化症、筋萎縮性側索硬化症、てんかん、不安障害、統合失調症、うつ病および躁鬱病からなる群より選ばれる神経疾患である請求項2記載の医薬。

10 4. GSK-3の活性を阻害する物質が、リチウムまたはその薬理学的に許容される塩である請求項1～3のいずれか1項に記載の医薬。

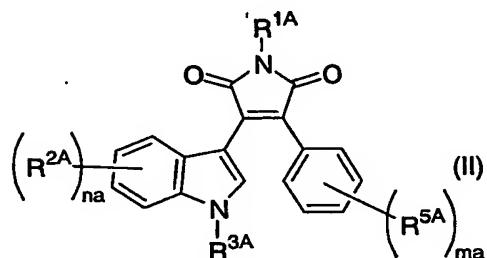
15 5. GSK-3の活性を阻害する物質が、ビスインドリルマレイミド誘導体、3-アリール-4-インドリルマレイミド誘導体、インドロカルバゾール誘導体、インドロ[3,2-d][1]ベンズアゼピン-6(5H)-オン誘導体もしくはインジルビン誘導体またはそれらの薬理学的に許容される塩である請求項1～3のいずれか1項に記載の医薬。

6. GSK-3の活性を阻害する物質が、式(I)

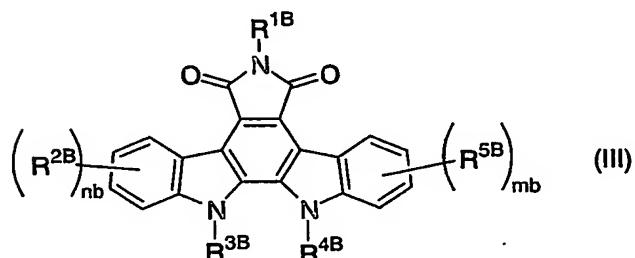


[式中、nおよびmは同一または異なって、1～3の整数を表し、R¹、R³およびR⁴は同一または異なって、水素原子、置換もしくは非置換の低級アルキル、置換もしくは非置換の低級アルケニル、-COR⁶（式中、R⁶は水素原子、置換もしくは非置換の低級アルキル、置換もしくは非置換の低級アルケニル、置換もしくは非置換のアリールまたは置換もしくは非置換のシクロアルキルを表す）、-COOR⁷（式中、R⁷は水素原子、置換もしくは非置換の低級アルキル、置換もしくは非置換のアリールまたは置換もしくは非置換のシクロアルキルを表す）または-OR⁸（式中、R⁸は水素原子、置換もしくは非置換の低級アルキル、置換もしくは非置換のアリールまたは置換もしくは非置換の低級アルケニル、置換もしくは非置換のアリールまたは置換もしくは非置換のシクロアルキルを表す）]

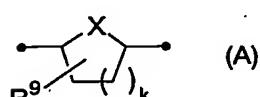
くは非置換のシクロアルキルを表す) を表し、R²およびR⁵は同一または異なって、水素原子、置換もしくは非置換の低級アルキル、置換もしくは非置換の低級アルケニル、置換もしくは非置換の低級アルコキシ、置換もしくは非置換の低級アルコキシカルボニル、置換もしくは非置換のアリール、カルボキシ、ハロゲン、ヒドロキシ、ニトロ、アミノまたはモノもしくはジ低級アルキルアミノを表し、ⅡおよびⅢがそれぞれ2または3であるとき、それぞれのR²およびR⁵は同一でも異なっていてもよい] で表される化合物、式(II)



(式中、na、ma、R^{1A}、R^{2A}、R^{3A}およびR^{5A}は、それぞれ前記n、m、R¹、R²、R³および10 R⁵と同義である) で表される化合物もしくは式(III)



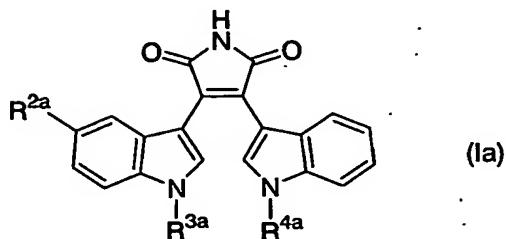
[式中、nb、mb、R^{1B}、R^{2B}およびR^{5B}は、それぞれ前記n、m、R¹、R²およびR⁵と同義であり、R^{3B}およびR^{4B}は同一または異なって、水素原子、置換もしくは非置換の低級アルキル、置換もしくは非置換の低級アルケニル、-COR⁶ (式中、R⁶は前記と同義である)、-COOR⁷ (式中、R⁷は前記と同義である)または-OR⁸ (式中、R⁸は前記と同義である)を表すか、またはR^{3B}とR^{4B}が一緒になって、15



(式中、kは1または2を表し、XはCH₂、NH、酸素原子または硫黄原子を表し、R⁹はヒドロキシ、カルボキシ、カルバモイルまたは低級アルコキシカルボニルを表す) 20 を形成する] で表される化合物またはそれらの薬理学的に許容される塩である請求

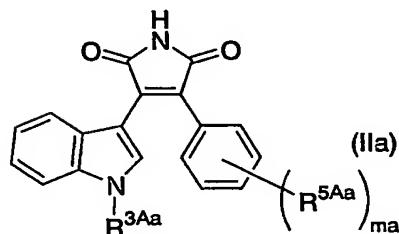
項1～3のいずれか1項に記載の医薬。

7. GSK-3の活性を阻害する物質が、式(Ia)



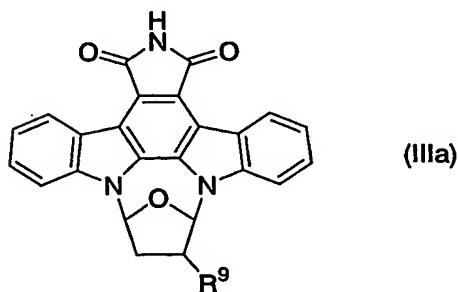
(式中、 R^{2a} は水素原子、低級アルコキシ、低級アルコキシカルボニル、アリールまたはニトロを表し、 R^{3a} および R^{4a} は同一または異なって、置換もしくは非置換の低級アルキルを表す) で表される化合物またはその薬理学的に許容される塩である請求項 1～3 のいずれか 1 項に記載の医薬。

8. GSK-3の活性を阻害する物質が、式(IIa)



10 (式中、ma は前記と同義であり、R³Aa は置換もしくは非置換の低級アルキルを表し、R⁵Aa はハロゲンを表す) で表される化合物またはその薬理学的に許容される塩である請求項 1～3 のいずれか 1 項に記載の医薬。

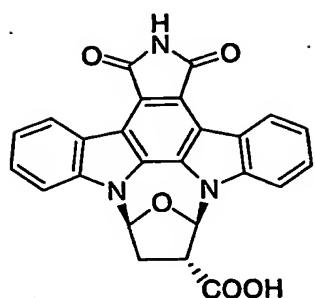
9. GSK-3の活性を阻害する物質が、式(IIIa)



15 (式中、R⁹は前記と同義である)で表される化合物またはその薬理学的に許容される塩である請求項1～3のいずれか1項に記載の医薬。

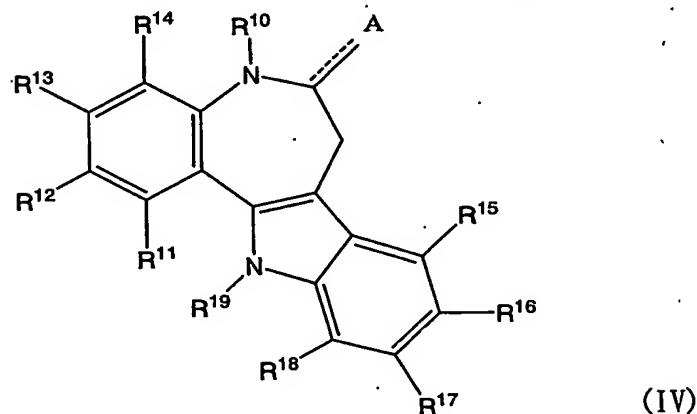
10. GSK-3の活性を阻害する物質が、3,4-ビス(1-メチルインドール-3-イル)-1H-ピロール-2,5-ジオン、3-(1-メチルインドール-3-イル)-4-(1-プロピルインドール-3-イル)-1H-ピロール-2,

5-ジオン、3-[1-(3-シアノプロピル)インドール-3-イル]-4-(1-メチルインドール-3-イル)-1H-ピロール-2, 5-ジオン、3-[1-(3-アミノプロピル)インドール-3-イル]-4-(1-メチルインドール-3-イル)-1H-ピロール-2, 5-ジオン、3-[1-(3-カルボキシプロピル)インドール-3-イル]-4-(1-メチルインドール-3-イル)-1H-ピロール-2, 5-ジオン、3-[1-(3-カルバモイルプロピル)インドール-3-イル]-4-(1-メチルインドール-3-イル)-1H-ピロール-2, 5-ジオン、3-[1-(3-アミノプロピル)インドール-3-イル]-4-(1-メチル-5-プロピルオキシインドール-3-イル)-1H-ピロール-2, 5-ジオン、3-[1-(3-ヒドロキシプロピル)インドール-3-イル]-4-(1-メチル-5-フェニルインドール-3-イル)-1H-ピロール-2, 5-ジオン、3-[1-(3-アミノプロピル)インドール-3-イル]-4-(1-メチル-5-フェニルインドール-3-イル)-1H-ピロール-2, 5-ジオン、3-[1-(3-ヒドロキシプロピル)インドール-3-イル]-4-(1-メチル-5-メトキカルボニルインドール-3-イル)-1H-ピロール-2, 5-ジオン、3-[1-(3-ヒドロキシプロピル)インドール-3-イル]-4-(1-メチル-5-ニトロインドール-3-イル)-1H-ピロール-2, 5-ジオン、3-(1-メチルインドール-3-イル)-4-[1-(3-ヒドロキシプロピル)-5-ニトロインドール-3-イル]-1H-ピロール-2, 5-ジオン、3-(2-クロロフェニル)-4-(1-メチルインドール-3-イル)-1H-ピロール-2, 5-ジオン、3-(2,4-ジクロロフェニル)-4-(1-メチルインドール-3-イル)-1H-ピロール-2, 5-ジオン、3-(2-クロロフェニル)-4-[1-(3-ヒドロキシプロピル)インドール-3-イル]-1H-ピロール-2, 5-ジオン、4-[1-(3-アミノプロピル)インドール-3-イル]-3-(2-クロロフェニル)-1H-ピロール-2, 5-ジオンおよび



からなる群より選ばれる化合物またはその薬理学的に許容される塩である請求項 1～3 のいずれか 1 項に記載の医薬。

11. GSK-3 を阻害する物質が、式 (IV)



5

[式中、A は単結合または二重結合によって右に結合されている酸素または硫黄であり、R¹⁰ は水素原子、アリール、低級脂肪族置換基、特にアルキルおよび低級アルキルエステルからなる群より選択され、R¹¹～R¹⁴ はアルコキシ、アミノ、アシル、脂肪族置換基、特にアルキル、アルケニルおよびアルキニル置換基、脂肪族アルコール、特にアルキルアルコール、脂肪族ニトリル、特にアルキルニトリル、シアノ、ニトロ、カルボキシル、ハロゲン、水素原子、ヒドロキシル、イミノならびに α 、 β 不飽和ケトンからなる群より個別に選択され、R¹⁵～R¹⁸ は脂肪族置換基、特にアルキル、アルケニルおよびアルキニル置換基、特に低級脂肪族置換基、脂肪族アルコール、特にアルキルアルコール、アルコキシ、アシル、シアノ、ニトロ、エポキシ、ハロアルキル基、ハロゲン、水素原子ならびにヒドロキシルからなる群より個別に選択され、R¹⁹ は脂肪族の基、特に低級アルキル基、脂肪族アルコール、特にアルキルアルコール、カルボン酸、および水素からなる群より選択される] で表される化合物またはその薬理学的に許容される塩である請求項 1～3 のいずれか 1 項に記載の医薬。

12. GSK-3を阻害する物質が、7,12-ジヒドロ-インドロ[3,2-d][1]ベンズアゼピン-6(5H)-オン、2-プロモ-7,12-ジヒドロ-インドロ[3,2-d][1]ベンズアゼピン-6(5H)-オン、9-プロモ-7,12-ジヒドロ-インドロ[3,2-d][1]ベンズアゼピン-6(5H)-オン、9-クロロ-7,12-ジヒドロ-インドロ[3,2-d][1]ベンズアゼピン-6(5H)-オン、11-クロロ-7,12-ジヒドロ-インドロ[3,2-d][1]ベンズアゼピン-6(5H)-オン、10-プロモ-7,12-ジヒドロ-インドロ[3,2-d][1]ベンズアゼピン-6(5H)-オン、8-プロモ-6,11-ジヒドロ-チエノ[3',2':2,3]アゼピノ[4,5-b]インドール-5(4H)-オン、9-プロモ-7,12-ジヒドロ-4-メトキシ-インドロ[3,2-d][1]ベンズアゼピン-6(5H)-オン、9-プロモ-7,12-ジヒドロ-4-ヒドロキシ-インドロ[3,2-d][1]ベンズアゼピン-6(5H)-オン、7,12-ジヒドロ-4-メトキシ-インドロ[3,2-d][1]ベンズアゼピン-6(5H)-オン、9-プロモ-7,12-ジヒドロ-2,3-ジメトキシ-インドロ[3,2-d][1]ベンズアゼピン-6(5H)-オン、9-プロモ-7,12-ジヒドロ-2,3-ジヒドロキシ-インドロ[3,2-d][1]ベンズアゼピン-6(5H)-オン、7,12-ジヒドロ-2,3-ジメトキシ-インドロ[3,2-d][1]ベンズアゼピン-6(5H)-オン、7,12-ジヒドロ-9-トリフルオロメチル-インドロ[3,2-d][1]ベンズアゼピン-6(5H)-オン、7,12-ジヒドロ-2,3-ジメトキシ-9-トリフルオロメチル-インドロ[3,2-d][1]ベンズアゼピン-6(5H)-オン、9-プロモ-7,12-ジヒドロ-インドロ[3,2-d][1]ベンズアゼピン-6(5H)-チオン、9-プロモ-5,12-ビス-(t-ブチルオキシカルボニル)-7,12-ジヒドロ-インドロ[3,2-d][1]ベンズアゼピン-6(5H)-オン、9-プロモ-12-(t-ブチルオキシカルボニル)-7,12-ジヒドロ-インドロ[3,2-d][1]ベンズアゼピン-6(5H)-オン、9-プロモ-5,7-ビス-(t-ブチルオキシカルボニル)-7,12-ジヒドロ-インドロ[3,2-d][1]ベンズアゼピン-6(5H)-オン、9-プロモ-5,7,12-トリ-(t-ブチルオキシカルボニル)-7,12-ジヒドロ-インドロ[3,2-d][1]ベンズアゼピン-6(5H)-オン、9-プロモ-7,12-ジヒドロ-5-メチルオキシカルボニルメチル-インドロ[3,2-d][1]ベンズアゼピン-6(5H)-オン、9-プロモ-7,12-ジヒドロ-12-メチルオキシカルボニルメチル-インドロ[3,2-d][1]ベンズアゼピン-6(5H)-オン、9-プロモ-7,12-ジヒドロ-12-(2-ヒドロキシエチル)-インドロ[3,2-d][1]ベンズアゼピン-6(5H)-オン、2,9-ジプロモ-7,12-ジヒドロ-インドロ[3,2-d][1]ベンズアゼピン

-6(5H)-オン、8,10-ジクロロ-7,12-ジヒドロ-インドロ[3,2-d][1]ベンズアゼピン
 -6(5H)-オン、9-シアノ-7,12-ジヒドロ-インドロ[3,2-d][1]ベンズアゼピン
 -6(5H)-オン、9-プロモ-7,12-ジヒドロ-5-メチル-インドロ[3,2-d][1]ベンズアゼ
 ピン-6(5H)-オン、5-ベンジル-9-プロモ-7,12-ジヒドロ-5-メチル-インドロ
 5 [3,2-d][1]ベンズアゼピン-6(5H)-オン、9-プロモ-7,12-ジヒドロ-12-メチル-イン
 ドロ[3,2-d][1]ベンズアゼピン-6(5H)-オン、9-プロモ-12-エチル-7,12-ジヒドロ-
 インドロ[3,2-d][1]ベンズアゼピン-6(5H)-オン、9-プロモ-7,12-ジヒドロ-12-(2-
 プロペニル)-インドロ[3,2-d][1]ベンズアゼピン-6(5H)-オン、7,12-ジヒドロ-9-
 メチル-インドロ[3,2-d][1]ベンズアゼピン-6(5H)-オン、7,12-ジヒドロ-9-メトキ
 10 シ-インドロ[3,2-d][1]ベンズアゼピン-6(5H)-オン、9-フルオロ-7,12-ジヒドロ
 -12-(2-プロペニル)-インドロ[3,2-d][1]ベンズアゼピン-6(5H)-オン、11-プロモ
 -7,12-ジヒドロ-インドロ[3,2-d][1]ベンズアゼピン-6(5H)-オン、9-プロモ-7,12-
 ジヒドロ-2-(メチルイミノアミン)-インドロ[3,2-d][1]ベンズアゼピン-6(5H)-オ
 ン、9-プロモ-7,12-ジヒドロ-2-(カルボン酸)-インドロ[3,2-d][1]ベンズアゼピン
 15 -6(5H)-オン、9-プロモ-7,12-ジヒドロ-10-ヒドロキシ-インドロ[3,2-d][1]ベンズ
 アゼピン-6(5H)-オン、9-プロモ-7,12-ジヒドロ-11-ヒドロキシメチル-インドロ
 [3,2-d][1]ベンズアゼピン-6(5H)-オン、7,12-ジヒドロ-4-ヒドロキシ-インドロ
 [3,2-d][1]ベンズアゼピン-6(5H)-オン、7,12-ジヒドロ-2,3-ジヒドロキシ-インド
 ロ[3,2-d][1]ベンズアゼピン-6(5H)-オン、2,3-ジメトキシ-9-ニトロ-7,12-ジヒド
 20 ロ-インドロ[3,2-d][1]ベンズアゼピン-6(5H)-オン、9-シアノ-7,12-ジヒドロ-イ
 ンドロ[3,2-d][1]ベンズアゼピン-6(5H)-オン、2,3-ジメトキシ-9-シアノ-7,12-ジ
 ヒドロ-インドロ[3,2-d][1]ベンズアゼピン-6(5H)-オン、9-ニトロ-7,12-ジヒドロ
 -インドロ[3,2-d][1]ベンズアゼピン-6(5H)-オン、3-(6-オキソ-9-トリフルオロメ
 チル-5,6,7,12-テトラヒドロ-インドロ[3,2-d][1]ベンズアゼピン-2-イル)プロピ
 25 オニトリル、2-プロモ-9-ニトロ-7,12-ジヒドロ-インドロ[3,2-d][1]ベンズアゼ
 ピン-6(5H)-オン、3-(6-オキソ-9-トリフルオロメチル-5,6,7,12-テトラヒドロ-イ
 ンドロ[3,2-d][1]ベンズアゼピン-2-イル)アクリロニトリル、2-(3-ヒドロキシ-1-ブ
 ロピニル)-9-トリフルオロメチル-7,12-ジヒドロ-インドロ[3,2-d][1]ベンズアゼ
 ピン-6(5H)-オン、2-ヨード-9-プロモ-7,12-ジヒドロ-インドロ[3,2-d][1]ベンズ

アゼピン-6(5H)-オン、2-(3-オキソ-1-ブテニル)-9-トリフルオロメチル-7,12-テトラヒドロ-インドロ[3, 2-d] [1]ベンズアゼピン-6(5H)-オン、8-クロロ-6,11-ジヒドロ-チエノ[3', 2' : 2, 3]アゼピノ[4, 5-b]インドール-5(4H)-オン、2-ヨード-9-トリフルオロメチル-7,12-ジヒドロ-インドロ[3, 2-d] [1]ベンズアゼピン-6(5H)-オン、7,12-ジヒドロ-ピリド[3', 2' : 4, 5]ピロロ[3, 2-d] [1]ベンズアゼピン-6(5H)-オン、11-メチル-7,12-ジヒドロ-インドロ[3, 2-d] [1]ベンズアゼピン-6(5H)-オン、2-[2-(1-ヒドロキシシクロヘキシル)エチニル]-9-トリフルオロメチル-7,12-ジヒドロ-インドロ[3, 2-d] [1]ベンズアゼピン-6(5H)-オン、2-シアノ-7,12-ジヒドロ-インドロ[3, 2-d] [1]ベンズアゼピン-6(5H)-オン、2-ヨード-7,12-ジヒドロ-インドロ[3, 2-d] [1]ベンズアゼピン-6(5H)-オン、11-エチル-7,12-ジヒドロ-インドロ[3, 2-d] [1]ベンズアゼピン-6(5H)-オン、8-メチル-6,11-ジヒドロ-チエノ[3', 2' : 2, 3]アゼピノ[4, 5-b]インドール-5(4H)-オンおよび3-(6-オキソ-9-トリフルオロメチル-5, 6, 7, 12-テトラヒドロ-インドロ[3, 2-d] [1]ベンズアゼピン-2-イル)アクリル酸メチルエステルからなる群より選ばれる化合物またはその薬理学的に許容される塩である請求項1～3のいずれか1項に記載の医薬。

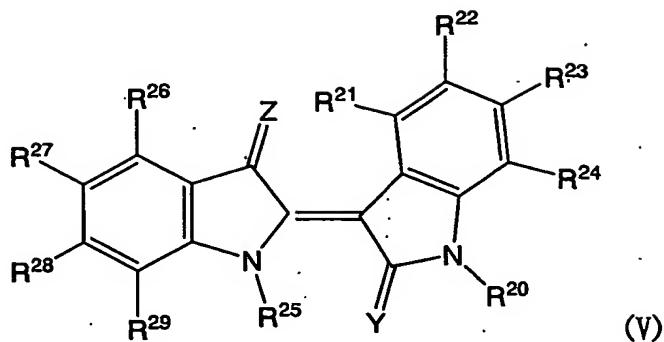
13. GSK-3を阻害する物質が、9-シアノ-7,12-ジヒドロ-インドロ[3, 2-d] [1]ベンズアゼピン-6(5H)-オン、9-プロモ-7,12-ジヒドロ-2,3-ジメトキシ-インドロ[3, 2-d] [1]ベンズアゼピン-6(5H)-オン、2-プロモ-7,12-ジヒドロ-9-トリフルオロメチル-インドロ[3, 2-d] [1]ベンズアゼピン-6(5H)-オン、7,12-ジヒドロ-2,3-ジメトキシ-9-トリフルオロメチル-インドロ[3, 2-d] [1]ベンズアゼピン-6(5H)-オン、2,9-ジプロモ-7,12-ジヒドロ-インドロ[3, 2-d] [1]ベンズアゼピン-6(5H)-オン、7,12-ジヒドロ-9-トリフルオロメチル-インドロ[3, 2-d] [1]ベンズアゼピン-6(5H)-オン、9-クロロ-7,12-ジヒドロ-インドロ[3, 2-d] [1]ベンズアゼピン-6(5H)-オン、8-プロモ-6,11-ジヒドロ-チエノ[3', 2' : 2, 3]アゼピノ[4, 5-b]インドール-5(4H)-オン、7,12-ジヒドロ-9-メトキシ-インドロ[3, 2-d] [1]ベンズアゼピン-6(5H)-オン、10-プロモ-7,12-ジヒドロ-インドロ[3, 2-d] [1]ベンズアゼピン-6(5H)-オン、11-プロモ-7,12-ジヒドロ-インドロ[3, 2-d] [1]ベンズアゼピン-6(5H)-オン、11-クロロ-7,12-ジヒドロ-インドロ[3, 2-d] [1]ベンズアゼピン-6(5H)-オン、9-フルオロ-7,12-ジヒドロ-インドロ[3, 2-d] [1]ベンズアゼピン

-6(5H)-オン、9-メチル-7,12-ジヒドロ-インドロ[3,2-d][1]ベンズアゼピン
-6(5H)-オン、9-プロモ-7,12-ジヒドロ-インドロ[3,2-d][1]ベンズアゼピン
-6(5H)-チオン、8,10-ジクロロ-7,12-ジヒドロ-インドロ[3,2-d][1]ベンズアゼピン
-6(5H)-オン、9-プロモ-7,12-ジヒドロ-12-(2-ヒドロキシエチル)-インドロ
5 [3,2-d][1]ベンズアゼピン-6(5H)-オン、9-プロモ-7,12-ジヒドロ-2,3-ジヒドロキ
シ-インドロ[3,2-d][1]ベンズアゼピン-6(5H)-オン、2-プロモ-7,12-ジヒドロ-イ
ンドロ[3,2-d][1]ベンズアゼピン-6(5H)-オン、7,12-ジヒドロ-2,3-ジメトキシ-イ
ンドロ[3,2-d][1]ベンズアゼピン-6(5H)-オン、9-プロモ-7,12-ジヒドロ-12-メチ
ル-インドロ[3,2-d][1]ベンズアゼピン-6(5H)-オン、9-プロモ-7,12-ジヒドロ-5-
10 メチルオキシカルボニルメチル-インドロ[3,2-d][1]ベンズアゼピン-6(5H)-オン
および7,12-ジヒドロ-インドロ[3,2-d][1]ベンズアゼピン-6(5H)-オンからなる群
より選択される、請求項1～3のいずれか1項に記載の医薬。

14. 9-シアノ-7,12-ジヒドロ-インドロ[3,2-d][1]ベンズアゼピン-6(5H)-オン、
9-プロモ-7,12-ジヒドロ-2,3-ジメトキシ-インドロ[3,2-d][1]ベンズアゼピン
15 -6(5H)-オン、2-プロモ-7,12-ジヒドロ-9-トリフルオロメチル-インドロ
[3,2-d][1]ベンズアゼピン-6(5H)-オン、7,12-ジヒドロ-2,3-ジメトキシ-9-トリフ
ルオロメチル-インドロ[3,2-d][1]ベンズアゼピン-6(5H)-オン、2,9-ジプロモ
-7,12-ジヒドロ-インドロ[3,2-d][1]ベンズアゼピン-6(5H)-オン、7,12-ジヒドロ
-9-トリフルオロメチル-インドロ[3,2-d][1]ベンズアゼピン-6(5H)-オン、9-クロ
20 ロ-7,12-ジヒドロ-インドロ[3,2-d][1]ベンズアゼピン-6(5H)-オン、8-プロモ
-6,11-ジヒドロ-チエノ[3',2':2,3]アゼピノ[4,5-b]インドール-5(4H)-オン、
7,12-ジヒドロ-9-メトキシ-インドロ[3,2-d][1]ベンズアゼピン-6(5H)-オンから
なる群より選択される、請求項1～3のいずれか1項に記載の医薬。

15. 9-プロモ-7,12-ジヒドロ-インドロ[3,2-d][1]ベンズアゼピン-6(5H)-オン
25 からなる群より選択される、請求項1～3のいずれか1項に記載の医薬。

16. GSK-3を阻害する物質が、式(V)



[式中、同じか異なってよいR²⁰およびR²⁵は水素原子；ハロゲン；ヒドロキシ基；メチレンヒドロキシ基；直鎖または分枝鎖のC₁～C₁₈—アルキルまたはアルコキシまたはメチレンアルコキシ基；必要に応じて1個または複数のヘテロ原子を含む、5 3から7個—炭素原子を有するシクロアルキル基；必要に応じて1個または複数のヘテロ原子を有する置換または非置換のアリール、アラルキルまたはアリールオキシ基；それぞれ互いに独立に、直鎖または分枝鎖のアルキル基中に1から6個の炭素原子を有するモノー、ジーまたはトリアルキルシリル基；それぞれ互いに独立に置換または非置換アリール基を有するモノー、ジーまたはトリアリールシリル基；10 トリフルオロメチル基；-COM；-COOM；あるいは-CH₂COOM基（ここでMは水素原子、必要ならばヒドロキシおよび/またはアミノ基1個または複数で置換された直鎖または分枝鎖のC₁～C₁₈—アルキル基、または必要ならば1個または複数のヘテロ原子を有し、1個または複数のハロゲン、アルキル基またはアルコキシ基で置換されていてよいアリール基を表す）；-NR³⁰R³¹基（ここで同じか異なってよいR³⁰およびR³¹は水素原子、必要ならば付加的に1個または複数のヒドロキシおよび/またはアミノ基で置換されているC₁～C₁₈直鎖または分枝鎖アルキル基、置換または非置換で、必要ならば1個または複数のヘテロ原子を含むアリール基を表す）；アシル基；-CH₂-NR³⁰R³¹メチレンアミノ基（ここでR³⁰およびR³¹は前記の意味を有する）；ベンゼン環が必要ならば1個または複数のヘ15 テロ原子を有するベンジル基；必要ならば1個または複数のヘテロ原子を有する、炭素原子3から7個を有するメチレンシクロアルキル基；アミドとしての、窒素原子に結合した生理的アミノ酸基；グリコシドが単糖または二糖から選択されるO-グリコシドまたはN-グリコシド；あるいはメチレンスルホネート基を表し；同じか異なってよいR²¹、R²²、R²³、R²⁴、R²⁶、R²⁷、R²⁸およびR²⁹は水素原子；20

ハロゲン；ヒドロキシ基；ニトロソ基；ニトロ基；アルコキシ基；必要ならば1個または複数のヒドロキシおよび／またはアミノ基で置換されている直鎖または分枝鎖のC₁～C₁₈アルキル基；必要ならば1個または複数のヘテロ原子を有する置換または非置換のアリール基；必要ならば1個または複数のヘテロ原子を有する置換または非置換アラルキル基；必要ならば1個または複数のヘテロ原子を有する置換または非置換アリールオキシ基；必要ならば1個または複数のヘテロ原子を有する置換または非置換メチレンアリールオキシ基；必要ならば1個または複数のヘテロ原子を含む、3から7個の炭素原子を有するシクロアルキル基；必要ならば1個または複数のヘテロ原子を含む、3から7個の炭素原子を有するメチレンシクロアルキル基；トリフルオロメチル基；-COM；-COOM；またはCH₂COOM基（ここでMは水素原子、必要ならばヒドロキシおよび／またはアミノ基1個または複数で付加的に置換された直鎖または分枝鎖のC₁～C₁₈アルキル基、または必要ならば1個または複数のヘテロ原子を有し、1個または複数のハロゲン原子、アルキル基またはアルコキシ基で置換されていてよいアリール基を表す）；-NR³⁰基（ここで同じか異なってよいR³⁰およびR³¹は水素原子、必要ならば付加的に1個または複数のヒドロキシおよび／またはアミノ基で置換されている直鎖または分枝鎖C₁～C₁₈アルキル基、置換または非置換で、必要ならば1個または複数のヘテロ原子を含むアリール基、アシル基を表すか、窒素原子が、必要ならば1個または複数のヘテロ原子を含む、炭素原子3から7個を有するシクロアルキルの一部を形成する）；-CONR³⁰R³¹基（ここでR³⁰およびR³¹は前記の意味を有する）；ヒドロキシリルアミノ基；ホスフェート基；ホスホネート基；スルフェート基；スルホネート基；スルホンアミド基；-SO₂NR³⁰R³¹基（ここでR³⁰およびR³¹は前記の意味を有する）；-N=N-R³²アゾ基（ここでR³²は必要ならば1個または複数のカルボキシリル、ホスホリルまたはスルホネート基で置換された芳香族基あるいはグリコシドが単糖または二糖から選択されているO-グリコシドまたはN-グリコシド基を表す）を表すか；R²⁰およびR²⁴ならびにR²⁵およびR²⁹はそれぞれ一緒になって、互いに独立に必要ならば置換された1から4個のCH₂基を有する環を形成し；同じか異なってよいYおよびZは酸素；イオウ；セレン；テルルの原子；NR³³基（ここでR³³は水素原子、必要ならば1個または複数のカルボ

キシル、ホスホリルまたはスルホネート基で置換された直鎖または分枝鎖C₁～C₁₈アルキル基、必要ならば1個または複数のヘテロ原子を含む置換または非置換のアリール基、アラルキル基またはスルホネート基を表す)；あるいは-NOR³³(ここでR³³基は前記の意味を有する)を表す]で表される化合物またはそれらの薬理学的5的に許容される塩である請求項1～3のいずれか1項に記載の医薬。

17. GSK-3を阻害する物質が、インジルビン、5-ヨード-インジルビン、5-プロモ-インジルビン、5-クロロー-インジルビン、5-フルオロー-インジルビン、5-メチル-インジルビン、5-ニトロ-インジルビン、5-SO₃H-インジルビン、5'-プロモ-インジルビン、5-5'-ジプロモ-インジルビンおよび5'-プロモ-インジルビン5-スルホン酸からなる群より選ばれる化合物またはその薬理学的10的に許容される塩である請求項1～3のいずれか1項に記載の医薬。

18. GSK-3を阻害する物質が、インジルビン-3'-モノオキシム、5-ヨード-インジルビン-3'-モノオキシムおよび5-SO₃Na-インジルビン-3'-モノオキシムからなる群より選ばれる化合物またはその薬理学的15的に許容される塩である請求項1～3のいずれか1項に記載の医薬。

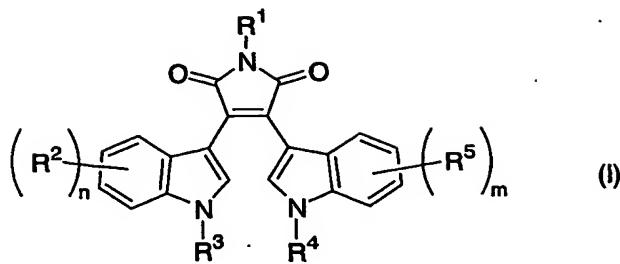
19. GSK-3を阻害する物質が、インジルビン-3'-モノオキシムまたはその薬理学的に許容される塩である請求項1～3のいずれか1項に記載の医薬。

20. GSK-3の活性を阻害する物質を有効成分として含有してなる神経幹細胞のニューロン新生促進剤。

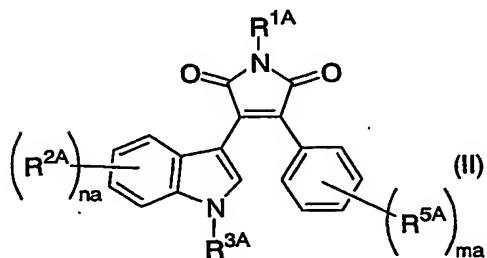
21. GSK-3の活性を阻害する物質が、リチウムまたはその薬理学的に許容される塩である請求項20記載のニューロン新生促進剤。

22. GSK-3の活性を阻害する物質が、ビスインドリルマレイミド誘導体、3-アリール-4-インドリルマレイミド誘導体、インドロカルバゾール誘導体もしくはインドロ[3,2d-d][1]ベンズアゼピン-6(5H)-オン誘導体またはそれらの薬理学的に許容される塩である請求項20記載のニューロン新生促進剤。

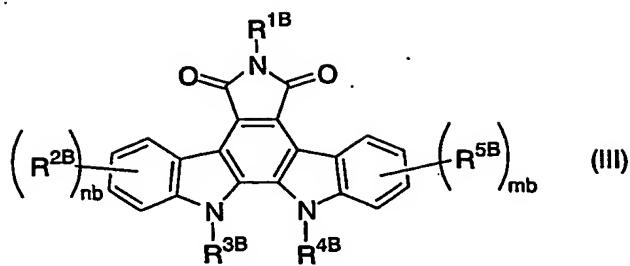
23. GSK-3の活性を阻害する物質が、式(I)



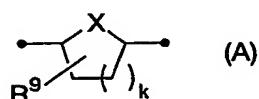
[式中、n および m は同一または異なって、1～3 の整数を表し、R¹、R³ および R⁴ は同一または異なって、水素原子、置換もしくは非置換の低級アルキル、置換もしくは非置換の低級アルケニル、-COR⁶ (式中、R⁶ は水素原子、置換もしくは非置換の低級アルキル、置換もしくは非置換の低級アルケニル、置換もしくは非置換のアリールまたは置換もしくは非置換のシクロアルキルを表す)、-COOR⁷ (式中、R⁷ は水素原子、置換もしくは非置換の低級アルキル、置換もしくは非置換のアリールまたは置換もしくは非置換のシクロアルキルを表す) または-0R⁸ (式中、R⁸ は水素原子、置換もしくは非置換の低級アルキル、置換もしくは非置換のアリールまたは置換もしくは非置換のシクロアルキルを表す) を表し、R² および R⁵ は同一または異なって、水素原子、置換もしくは非置換の低級アルキル、置換もしくは非置換の低級アルケニル、置換もしくは非置換の低級アルコキシ、置換もしくは非置換の低級アルコキシカルボニル、置換もしくは非置換のアリール、カルボキシ、ハロゲン、ヒドロキシ、ニトロ、アミノまたはモノもしくはジ低級アルキルアミノを表し、n および m がそれぞれ 2 または 3 であるとき、それぞれの R² および R⁵ は同一でも異なっていてよい] で表される化合物、式(II)



(式中、na、ma、R^{1A}、R^{2A}、R^{3A} および R^{5A} は、それぞれ前記 n、m、R¹、R²、R³ および R⁵ と同義である) で表される化合物もしくは式(III)

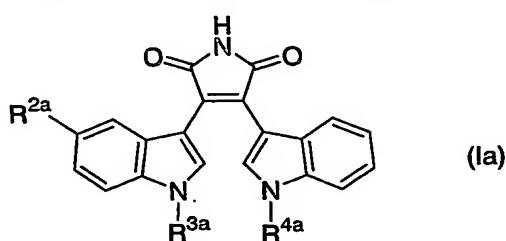


[式中、nb、mb、R^{1B}、R^{2B}およびR^{5B}は、それぞれ前記n、m、R¹、R²およびR⁵と同義であり、R^{3B}およびR^{4B}は同一または異なって、水素原子、置換もしくは非置換の低級アルキル、置換もしくは非置換の低級アルケニル、-COR⁶（式中、R⁶は前記と同義である）、-COOR⁷（式中、R⁷は前記と同義である）または-OR⁸（式中、R⁸は前記と同義である）を表すか、またはR^{3B}とR^{4B}が一緒になって、



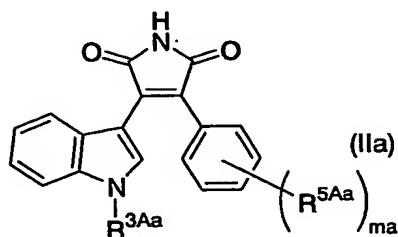
5 (式中、kは1または2を表し、XはCH₂、NH、酸素原子または硫黄原子を表し、R⁹はヒドロキシ、カルボキシ、カルバモイルまたは低級アルコキシカルボニルを表す) 10 を形成する]で表される化合物またはそれらの薬理学的に許容される塩である請求項20記載のニューロン新生促進剤。

24. GSK-3の活性を阻害する物質が、式(Ia)



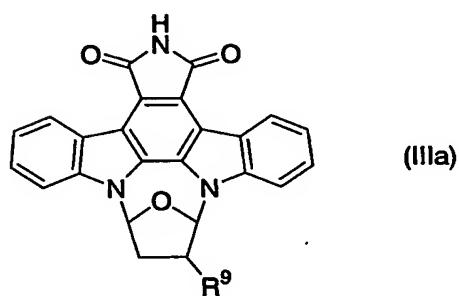
15 (式中、R^{2a}は水素原子、低級アルコキシ、低級アルコキシカルボニル、アリールまたはニトロを表し、R^{3a}およびR^{4a}は同一または異なって、置換もしくは非置換の低級アルキルを表す)で表される化合物またはその薬理学的に許容される塩である請求項20記載のニューロン新生促進剤。

25. GSK-3の活性を阻害する物質が、式(IIa)



(式中、maは前記と同義であり、R^{3Aa}は置換もしくは非置換の低級アルキルを表し、R^{5Aa}はハロゲンを表す)で表される化合物またはその薬理学的に許容される塩である請求項20記載のニューロン新生促進剤。

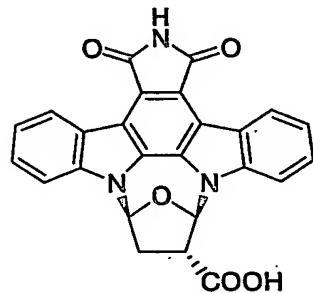
5 26. GSK-3の活性を阻害する物質が、式(IIIa)



(式中、R⁹は前記と同義である)で表される化合物またはその薬理学的に許容される塩である請求項20記載のニューロン新生促進剤。

27. GSK-3の活性を阻害する物質が、3, 4-ビス(1-メチルインドール-3-イル)-1H-ピロール-2, 5-ジオン、3-(1-メチルインドール-3-イル)-4-(1-プロピルインドール-3-イル)-1H-ピロール-2, 5-ジオン、3-[1-(3-シアノプロピル)インドール-3-イル]-4-(1-メチルインドール-3-イル)-1H-ピロール-2, 5-ジオン、3-[1-(3-アミノプロピル)インドール-3-イル]-4-(1-メチルインドール-3-イル)-1H-ピロール-2, 5-ジオン、3-[1-(3-カルボキシプロピル)インドール-3-イル]-4-(1-メチルインドール-3-イル)-1H-ピロール-2, 5-ジオン、3-[1-(3-カルバモイルプロピル)インドール-3-イル]-4-(1-メチルインドール-3-イル)-1H-ピロール-2, 5-ジオン、3-[1-(3-アミノプロピル)インドール-3-イル]-4-(1-メチル-5-プロピルオキシインドール-3-イル)-1H-ピロール-2, 5-ジオン、3-[1-(3-ヒドロキシプロピル)インドール-3-イル]-4-(1-メチル-5-フェニルインドール-3-イル)-1H-ピロール-2, 5-

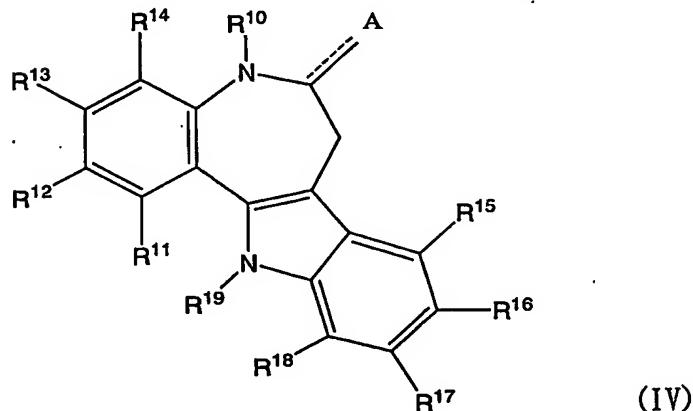
ジオン、3-[1-(3-アミノプロピル)インドール-3-イル]-4-(1-メチル-5-フェニルインドール-3-イル)-1H-ピロール-2,5-ジオン、3-[1-(3-ヒドロキシプロピル)インドール-3-イル]-4-(1-メチル-5-メトキシカルボニルインドール-3-イル)-1H-ピロール-2,5-ジオン、3-[1-(3-ヒドロキシプロピル)インドール-3-イル]-4-(1-メチル-5-ニトロインドール-3-イル)-1H-ピロール-2,5-ジオン、3-(1-メチルインドール-3-イル)-4-[1-(3-ヒドロキシプロピル)-5-ニトロインドール-3-イル]-1H-ピロール-2,5-ジオン、3-(2-クロロフェニル)-4-(1-メチルインドール-3-イル)-1H-ピロール-2,5-ジオン、3-(2,4-ジクロロフェニル)-4-(1-メチルインドール-3-イル)-1H-ピロール-2,5-ジオン、3-(2-クロロフェニル)-4-[1-(3-ヒドロキシプロピル)インドール-3-イル]-1H-ピロール-2,5-ジオン、3-[1-(3-アミノプロピル)インドール-3-イル]-3-(2-クロロフェニル)-1H-ピロール-2,5-ジオンおよび



15

からなる群より選ばれる化合物またはその薬理学的に許容される塩である請求項20記載のニューロン新生促進剤。

28. GSK-3を阻害する物質が、式(IV)



[式中、Aは単結合または二重結合によって右に結合されている酸素または硫黄であり、R¹⁰は水素原子、アリール、低級脂肪族置換基、特にアルキルおよび低級アルキルエステルからなる群より選択され、R¹¹～R¹⁴はアルコキシ、アミノ、アシル、脂肪族置換基、特にアルキル、アルケニルおよびアルキニル置換基、脂肪族アルコール、特にアルキルアルコール、脂肪族ニトリル、特にアルキルニトリル、シアノ、ニトロ、カルボキシル、ハロゲン、水素原子、ヒドロキシル、イミノならびに α 、 β 不飽和ケトンからなる群より個別に選択され、R¹⁵～R¹⁸は脂肪族置換基、特にアルキル、アルケニルおよびアルキニル置換基、特に低級脂肪族置換基、脂肪族アルコール、特にアルキルアルコール、アルコキシ、アシル、シアノ、ニトロ、エポキシ、ハロアルキル基、ハロゲン、水素原子ならびにヒドロキシルからなる群より個別に選択され、R₁₉は脂肪族の基、特に低級アルキル基、脂肪族アルコール、特にアルキルアルコール、カルボン酸、および水素からなる群より選択される]で表される化合物またはその薬理学的に許容される塩である請求項20記載のニューロン新生促進剤。

15 29. 7,12-ジヒドロ-インドロ[3,2-d][1]ベンズアゼピン-6(5H)-オン、2-プロモ-7,12-ジヒドロ-インドロ[3,2-d][1]ベンズアゼピン-6(5H)-オン、9-プロモ-7,12-ジヒドロ-インドロ[3,2-d][1]ベンズアゼピン-6(5H)-オン、9-クロロ-7,12-ジヒドロ-インドロ[3,2-d][1]ベンズアゼピン-6(5H)-オン、11-クロロ-7,12-ジヒドロ-インドロ[3,2-d][1]ベンズアゼピン-6(5H)-オン、10-プロモ-7,12-ジヒドロ-インドロ[3,2-d][1]ベンズアゼピン-6(5H)-オン、8-プロモ-6,11-ジヒドロ-チエノ[3',2':2,3]アゼピノ[4,5-b]インドール-5(4H)-オン、9-プロモ-7,12-ジヒドロ-4-メトキシ-インドロ[3,2-d][1]ベンズアゼピン-6(5H)-オン、9-プロモ-7,12-ジヒドロ-4-ヒドロキシ-インドロ[3,2-d][1]ベンズアゼピン-6(5H)-オン、7,12-ジヒドロ-4-メトキシ-インドロ[3,2-d][1]ベンズアゼピン-6(5H)-オン、9-プロモ-7,12-ジヒドロ-2,3-ジメトキシ-インドロ[3,2-d][1]ベンズアゼピン-6(5H)-オン、9-プロモ-7,12-ジヒドロ-2,3-ジヒドロキシ-インドロ[3,2-d][1]ベンズアゼピン-6(5H)-オン、7,12-ジヒドロ-2,3-ジメトキシ-インドロ[3,2-d][1]ベンズアゼピン-6(5H)-オン、7,12-ジヒドロ-9-トリフルオロメチル-インドロ[3,2-d][1]ベンズアゼピン-6(5H)-オン、7,12-ジヒドロ-2,3-ジメトキシ-9-トリフルオロメチル-インドロ

[3, 2-d] [1] ベンズアゼピン-6(5H)-オン、2-プロモ-7, 12-ジヒドロ-9-トリフルオロメチル-インドロ [3, 2-d] [1] ベンズアゼピン-6(5H)-オン、9-プロモ-7, 12-ジヒドロ-インドロ [3, 2-d] [1] ベンズアゼピン-6(5H)-チオン、9-プロモ-5, 12-ビス-(t-ブチルオキシカルボニル)-7, 12-ジヒドロ-インドロ [3, 2-d] [1] ベンズアゼピン-6(5H)-オン、9-プロモ-12-(t-ブチルオキシカルボニル)-7, 12-ジヒドロ-インドロ [3, 2-d] [1] ベンズアゼピン-6(5H)-オン、9-プロモ-5, 7-ビス-(t-ブチルオキシカルボニル)-7, 12-ジヒドロ-インドロ [3, 2-d] [1] ベンズアゼピン-6(5H)-オン、9-プロモ-5, 7, 12-トリ-(t-ブチルオキシカルボニル)-7, 12-ジヒドロ-インドロ [3, 2-d] [1] ベンズアゼピン-6(5H)-オン、9-プロモ-7, 12-ジヒドロ-5-メチルオキシカルボニルメチル-インドロ [3, 2-d] [1] ベンズアゼピン-6(5H)-オン、9-プロモ-7, 12-ジヒドロ-12-メチルオキシカルボニルメチル-インドロ [3, 2-d] [1] ベンズアゼピン-6(5H)-オン、9-ジプロモ-7, 12-ジヒドロ-インドロ [3, 2-d] [1] ベンズアゼピン-6(5H)-オン、2, 9-ジプロモ-7, 12-ジヒドロ-インドロ [3, 2-d] [1] ベンズアゼピン-6(5H)-オン、8, 10-ジクロロ-7, 12-ジヒドロ-インドロ [3, 2-d] [1] ベンズアゼピン-6(5H)-オン、9-シアノ-7, 12-ジヒドロ-インドロ [3, 2-d] [1] ベンズアゼピン-6(5H)-オン、9-プロモ-7, 12-ジヒドロ-5-メチル-インドロ [3, 2-d] [1] ベンズアゼピン-6(5H)-オン、5-ベンジル-9-プロモ-7, 12-ジヒドロ-5-メチル-インドロ [3, 2-d] [1] ベンズアゼピン-6(5H)-オン、9-プロモ-7, 12-ジヒドロ-12-メチル-インドロ [3, 2-d] [1] ベンズアゼピン-6(5H)-オン、9-プロモ-12-エチル-7, 12-ジヒドロ-インドロ [3, 2-d] [1] ベンズアゼピン-6(5H)-オン、9-プロモ-7, 12-ジヒドロ-12-(2-プロペニル)-インドロ [3, 2-d] [1] ベンズアゼピン-6(5H)-オン、7, 12-ジヒドロ-9-メチル-インドロ [3, 2-d] [1] ベンズアゼピン-6(5H)-オン、9-フルオロ-7, 12-ジヒドロ-12-(2-プロペニル)-インドロ [3, 2-d] [1] ベンズアゼピン-6(5H)-オン、11-プロモ-7, 12-ジヒドロ-インドロ [3, 2-d] [1] ベンズアゼピン-6(5H)-オン、9-プロモ-7, 12-ジヒドロ-2-(メチルイミノアミン)-インドロ [3, 2-d] [1] ベンズアゼピン-6(5H)-オン、9-プロモ-7, 12-ジヒドロ-2-(カルボン酸)-インドロ [3, 2-d] [1] ベンズアゼピン-6(5H)-オン、9-プロモ-7, 12-ジヒドロ-10-ヒドロキシ-インドロ [3, 2-d] [1] ベンズアゼピン-6(5H)-オン、9-プロモ-7, 12-

ジヒドロ-11-ヒドロキシメチル-インドロ[3, 2-d] [1]ベンズアゼピン-6(5H)-オン、
 7, 12-ジヒドロ-4-ヒドロキシ-インドロ[3, 2-d] [1]ベンズアゼピン-6(5H)-オン、
 7, 12-ジヒドロ-2, 3-ジヒドロキシ-インドロ[3, 2-d] [1]ベンズアゼピン-6(5H)-オ
 ン、2, 3-ジメトキシ-9-ニトロ-7, 12-ジヒドロ-インドロ[3, 2-d] [1]ベンズアゼピン
 5 -6(5H)-オン、9-シアノ-7, 12-ジヒドロ-インドロ[3, 2-d] [1]ベンズアゼピン
 -6(5H)-オン、2, 3-ジメトキシ-9-シアノ-7, 12-ジヒドロ-インドロ[3, 2-d] [1]ベン
 ズアゼピン-6(5H)-オン、9-ニトロ-7, 12-ジヒドロ-インドロ[3, 2-d] [1]ベンズアゼ
 ピン-6(5H)-オン、3-(6-オキソ-9-トリフルオロメチル-5, 6, 7, 12-テトラヒドロ-イ
 ンドロ[3, 2-d] [1]ベンズアゼピン-2-イル)プロピオニトリル、2-プロモ-9-ニトロ
 10 -7, 12-ジヒドロ-インドロ[3, 2-d] [1]ベンズアゼピン-6(5H)-オン、3-(6-オキソ-9-
 トリフルオロメチル-5, 6, 7, 12-テトラヒドロ-インドロ[3, 2-d] [1]ベンズアゼピン
 -2-イル)アクリロニトリル、2-(3-ヒドロキシ-1-プロピニル)-9-トリフルオロメ
 チル-7, 12-ジヒドロ-インドロ[3, 2-d] [1]ベンズアゼピン-6(5H)-オン、2-ヨード
 -9-プロモ-7, 12-ジヒドロ-インドロ[3, 2-d] [1]ベンズアゼピン-6(5H)-オン、2-(3-
 15 オキソ-1-ブチニル)-9-トリフルオロメチル-7, 12-テトラヒドロ-インドロ
 [3, 2-d] [1]ベンズアゼピン-6(5H)-オン、8-クロロ-6, 11-ジヒドロ-チエノ
 [3', 2':2, 3]アゼピノ[4, 5-b]インドール-5(4H)-オン、2-ヨード-9-トリフルオロメ
 チル-7, 12-ジヒドロ-インドロ[3, 2-d] [1]ベンズアゼピン-6(5H)-オン、7, 12-ジヒ
 ドロ-ピリド[3', 2':4, 5]ピロロ[3, 2-d] [1]ベンズアゼピン-6(5H)-オン、11-メチル
 20 -7, 12-ジヒドロ-インドロ[3, 2-d] [1]ベンズアゼピン-6(5H)-オン、2-[2-(1-ヒドロ
 キシシクロヘキシル)エチニル]-9-トリフルオロメチル-7, 12-ジヒドロ-インドロ
 [3, 2-d] [1]ベンズアゼピン-6(5H)-オン、2-シアノ-7, 12-ジヒドロ-インドロ
 [3, 2-d] [1]ベンズアゼピン-6(5H)-オン、2-ヨード-7, 12-ジヒドロ-インドロ
 [3, 2-d] [1]ベンズアゼピン-6(5H)-オン、11-エチル-7, 12-ジヒドロ-インドロ
 25 [3, 2-d] [1]ベンズアゼピン-6(5H)-オン、8-メチル-6, 11-ジヒドロ-チエノ
 [3', 2':2, 3]アゼピノ[4, 5-b]インドール-5(4H)-オンおよび3-(6-オキソ-9-トリフ
 ルオロメチル-5, 6, 7, 12-テトラヒドロ-インドロ[3, 2-d] [1]ベンズアゼピン-2-イ
 ル)アクリル酸メチルエステルからなる群より選択される、請求項20記載のニュ
 ーロン新生促進剤。

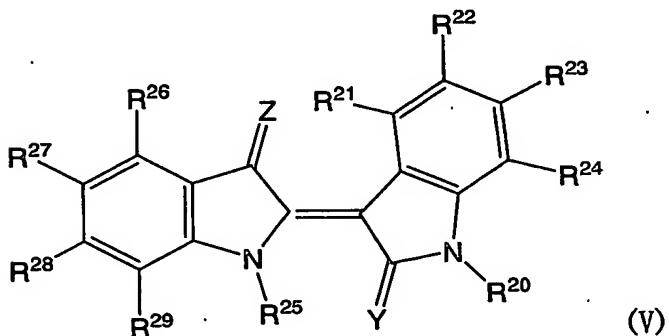
30. 9-シアノ-7,12-ジヒドロ-インドロ[3, 2-d] [1]ベンズアゼピン-6(5H)-オン、9-プロモ-7,12-ジヒドロ-2,3-ジメトキシ-インドロ[3, 2-d] [1]ベンズアゼピン-6(5H)-オン、2-プロモ-7,12-ジヒドロ-9-トリフルオロメチル-インドロ[3, 2-d] [1]ベンズアゼピン-6(5H)-オン、7,12-ジヒドロ-2,3-ジメトキシ-9-トリフルオロメチル-インドロ[3, 2-d] [1]ベンズアゼピン-6(5H)-オン、2,9-ジプロモ-7,12-ジヒドロ-インドロ[3, 2-d] [1]ベンズアゼピン-6(5H)-オン、7,12-ジヒドロ-9-トリフルオロメチル-インドロ[3, 2-d] [1]ベンズアゼピン-6(5H)-オン、9-クロロ-7,12-ジヒドロ-インドロ[3, 2-d] [1]ベンズアゼピン-6(5H)-オン、8-プロモ-6,11-ジヒドロ-チエノ[3', 2':2, 3]アゼピノ[4, 5-b]インドール-5(4H)-オン、
 10 7,12-ジヒドロ-9-メトキシ-インドロ[3, 2-d] [1]ベンズアゼピン-6(5H)-オン、10-プロモ-7,12-ジヒドロ-インドロ[3, 2-d] [1]ベンズアゼピン-6(5H)-オン、11-プロモ-7,12-ジヒドロ-インドロ[3, 2-d] [1]ベンズアゼピン-6(5H)-オン、11-クロロ-7,12-ジヒドロ-インドロ[3, 2-d] [1]ベンズアゼピン-6(5H)-オン、9-フルオロ-7,12-ジヒドロ-インドロ[3, 2-d] [1]ベンズアゼピン-6(5H)-オン、9-メチル-7,12-ジヒドロ-インドロ[3, 2-d] [1]ベンズアゼピン-6(5H)-オン、9-プロモ-7,12-ジヒドロ-インドロ[3, 2-d] [1]ベンズアゼピン-6(5H)-チオン、8,10-ジクロロ-7,12-ジヒドロ-インドロ[3, 2-d] [1]ベンズアゼピン-6(5H)-オン、9-プロモ-7,12-ジヒドロ-12-(2-ヒドロキシエチル)-インドロ[3, 2-d] [1]ベンズアゼピン-6(5H)-オン、9-プロモ-7,12-ジヒドロ-2,3-ジヒドロキシ-インドロ[3, 2-d] [1]ベンズアゼピン-6(5H)-オン、2-プロモ-7,12-ジヒドロ-インドロ[3, 2-d] [1]ベンズアゼピン-6(5H)-オン、7,12-ジヒドロ-2,3-ジメトキシ-インドロ[3, 2-d] [1]ベンズアゼピン-6(5H)-オン、9-プロモ-7,12-ジヒドロ-12-メチル-インドロ[3, 2-d] [1]ベンズアゼピン-6(5H)-オン、9-プロモ-7,12-ジヒドロ-5-メチルオキシカルボニルメチル-インドロ[3, 2-d] [1]ベンズアゼピン-6(5H)-オンおよび7,12-ジヒドロ-インドロ[3, 2-d] [1]ベンズアゼピン-6(5H)-オンからなる群より選択される、請求項20記載のニューロン新生促進剤。

31. 9-シアノ-7,12-ジヒドロ-インドロ[3, 2-d] [1]ベンズアゼピン-6(5H)-オン、9-プロモ-7,12-ジヒドロ-2,3-ジメトキシ-インドロ[3, 2-d] [1]ベンズアゼピン-6(5H)-オン、2-プロモ-7,12-ジヒドロ-9-トリフルオロメチル-インドロ

[3, 2-d] [1] ベンズアゼピン-6(5H)-オン、7, 12-ジヒドロ-2, 3-ジメトキシ-9-トリフルオロメチル-インドロ [3, 2-d] [1] ベンズアゼピン-6(5H)-オン、2, 9-ジプロモ-7, 12-ジヒドロ-インドロ [3, 2-d] [1] ベンズアゼピン-6(5H)-オン、7, 12-ジヒドロ-9-トリフルオロメチル-インドロ [3, 2-d] [1] ベンズアゼピン-6(5H)-オン、9-クロロ-7, 12-ジヒドロ-インドロ [3, 2-d] [1] ベンズアゼピン-6(5H)-オン、8-プロモ-6, 11-ジヒドロ-チエノ[3', 2': 2, 3]アゼピノ[4, 5-b]インドール-5(4H)-オン、7, 12-ジヒドロ-9-メトキシ-インドロ [3, 2-d] [1] ベンズアゼピン-6(5H)-オンからなる群より選択される、請求項 20 記載のニューロン新生促進剤。

32. 9-プロモ-7, 12-ジヒドロ-インドロ [3, 2-d] [1] ベンズアゼピン-6(5H)-オンからなる群より選択される、請求項 20 記載のニューロン新生促進剤。

33. GSK-3 を阻害する物質が、式 (V)



[式中、同じか異なってよい R²⁰ および R²⁵ は水素原子；ハロゲン；ヒドロキシ基；メチレンヒドロキシ基；直鎖または分枝鎖の C₁～C₁₈－アルキルまたはアルコキシまたはメチレンアルコキシ基；必要に応じて 1 個または複数のヘテロ原子を含む、3 から 7 個一炭素原子を有するシクロアルキル基；必要に応じて 1 個または複数のヘテロ原子を有する置換または非置換のアリール、アラルキルまたはアリールオキシ基；それぞれ互いに独立に、直鎖または分枝鎖のアルキル基中に 1 から 6 個の炭素原子を有するモノー、ジーまたはトリアルキルシリル基；それぞれ互いに独立に置換または非置換アリール基を有するモノー、ジーまたはトリアリールシリル基；トリフルオロメチル基；-COM；-COOM；あるいは-CH₂COOM 基（ここで M は水素原子、必要ならばヒドロキシおよび/またはアミノ基 1 個または複数で置換された直鎖または分枝鎖の C₁～C₁₈－アルキル基、または必要ならば 1 個または複数のヘテロ原子を有し、1 個または複数のハロゲン、アルキル基またはアル

コキシ基で置換されていてよいアリール基を表す) ; $-NR^{30}R^{31}$ 基 (ここで同じか異なるってよい R^{30} および R^{31} は水素原子、必要ならば付加的に 1 個または複数のヒドロキシおよび/またはアミノ基で置換されている $C_1 \sim C_{18}$ 直鎖または分枝鎖アルキル基、置換または非置換で、必要ならば 1 個または複数のヘテロ原子を含むアリール基を表す) ; アシル基 ; $-CH_2-NR^{30}R^{31}$ メチレンアミノ基 (ここで R^{30} および R^{31} は前記の意味を有する) ; ベンゼン環が必要ならば 1 個または複数のヘテロ原子を有するベンジル基 ; 必要ならば 1 個または複数のヘテロ原子を有する、炭素原子 3 から 7 個を有するメチレンシクロアルキル基 ; アミドとしての、窒素原子に結合した生理的アミノ酸基 ; グリコシドが単糖または二糖から選択される O -グリコシドまたは N -グリコシド ; あるいはメチレンスルホネート基を表し ; 同じか異なるってよい R^{21} 、 R^{22} 、 R^{23} 、 R^{24} 、 R^{26} 、 R^{27} 、 R^{28} および R^{29} は水素原子 ; ハロゲン ; ヒドロキシ基 ; ニトロソ基 ; ニトロ基 ; アルコキシ基 ; 必要ならば 1 個または複数のヒドロキシおよび/またはアミノ基で置換されている直鎖または分枝鎖の $C_1 \sim C_{18}$ アルキル基 ; 必要ならば 1 個または複数のヘテロ原子を有する置換または非置換のアリール基 ; 必要ならば 1 個または複数のヘテロ原子を有する置換または非置換アラルキル基 ; 必要ならば 1 個または複数のヘテロ原子を有する置換または非置換アリールオキシ基 ; 必要ならば 1 個または複数のヘテロ原子を有する置換または非置換メチレンアリールオキシ基 ; 必要ならば 1 個または複数のヘテロ原子を含む、3 から 7 個の炭素原子を有するシクロアルキル基 ; 必要ならば 1 個または複数のヘテロ原子を含む、3 から 7 個の炭素原子を有するメチレンシクロアルキル基 ; トリフルオロメチル基 ; $-COM$; $-COOM$; または CH_2COOM 基 (ここで M は水素原子、必要ならばヒドロキシおよび/またはアミノ基 1 個または複数で付加的に置換された直鎖または分枝鎖の $C_1 \sim C_{18}$ -アルキル基、または必要ならば 1 個または複数のヘテロ原子を有し、1 個または複数のハロゲン原子、アルキル基またはアルコキシ基で置換されていてよいアリール基を表す) ; $-NR^{30}R^{31}$ 基 (ここで同じか異なるってよい R^{30} および R^{31} は水素原子、必要ならば付加的に 1 個または複数のヒドロキシおよび/またはアミノ基で置換されている直鎖または分枝鎖 $C_1 \sim C_{18}$ アルキル基、置換または非置換で、必要ならば 1 個または複数のヘテロ原子を含むアリール基、アシル基を表すか、窒素原子が、必要ならば 1

個または複数のヘテロ原子を含む、炭素原子3から7個を有するシクロアルキルの一部を形成する)；-CONR³⁰R³¹基(ここでR³⁰およびR³¹は前記の意味を有する)；ヒドロキシリルアミノ基；ホスフェート基；ホスホネート基；スルフェート基；スルホネート基；スルホンアミド基；-SO₂NR³⁰R³¹基(ここでR³⁰およびR³¹は前記の意味を有する)；-N=N-R³²アゾ基(ここでR³²は必要ならば1個または複数のカルボキシル、ホスホリルまたはスルホネート基で置換された芳香族あるいはグリコシドが単糖または二糖から選択されているO-グリコシドまたはN-グリコシド基を表す)を表すか；R²⁰およびR²⁴ならびにR²⁵およびR²⁹はそれぞれ一緒に、互いに独立に必要ならば置換された1から4個のCH₂基を有する環を形成し；同じか異なってよいYおよびZは酸素；イオウ；セレン；テルルの原子；NR³³基(ここでR³³は水素原子、必要ならば1個または複数のカルボキシル、ホスホリルまたはスルホネート基で置換された直鎖または分枝鎖C₁～C₁₈アルキル基、必要ならば1個または複数のヘテロ原子を含む置換または非置換のアリール基、アラルキル基またはスルホネート基を表す)；あるいは-NOR³³(ここでR³³基は前記の意味を有する)を表す]で表される化合物またはそれらの薬理学的に許容される塩である請求項20記載のニューロン新生促進剤。

34. GSK-3を阻害する物質が、インジルピン、5-ヨード-インジルピン、5-プロモ-インジルピン、5-クロロ-インジルピン、5-フルオロー-インジルピン、5-メチル-インジルピン、5-ニトロ-インジルピン、5-SO₃H-インジルピン、5'-プロモ-インジルピン、5-5'-ジプロモ-インジルピンおよび5'-プロモ-インジルピン5-スルホン酸からなる群より選ばれる化合物またはその薬理学的に許容される塩である請求項20記載のニューロン新生促進剤。

35. GSK-3を阻害する物質が、インジルピン-3'-モノオキシム、5-ヨード-インジルピン-3'-モノオキシムおよび5-SO₃Na-インジルピン-3'-モノオキシムからなる群より選ばれる化合物またはその薬理学的に許容される塩である請求項20記載のニューロン新生促進剤。

36. GSK-3を阻害する物質が、インジルピン-3'-モノオキシムまたはその薬理学的に許容される塩である請求項20記載のニューロン新生促進剤。

37. 請求項20～36のいずれか1項に記載のニューロン新生促進剤の存在下、

神経幹細胞を培養して得られるニューロン。

38. 請求項 20～36 のいずれか 1 項に記載のニューロン新生促進剤の存在下、神経幹細胞を培養してニューロンを新生させ、培養物中よりニューロンを採取することを特徴とするニューロンの製造方法。
- 5 39. GSK-3 を阻害する物質を投与することを特徴とする神経再生方法。
40. 神経再生薬の製造のための GSK-3 を阻害する物質の使用。
41. 神経幹細胞のニューロン新生促進剤の製造のための GSK-3 を阻害する物質の使用。

SEQUENCE LISTING

<110> KYOWA HAKKO KOGYO CO., LTD.

<120>

5

<130> 11562W01

<140>

<141>

10

<150> JP2003-114579

<151> 2003-04-18

<160> 17

15

<170> PatentIn Ver. 2.1

<210> 1

<211> 420

20 <212> PRT

<213> Homo sapiens

<400> 1

Met Ser Gly Arg Pro Arg Thr Thr Ser Phe Ala Glu Ser Cys Lys Pro

25 1 5 10 15

Val Gln Gln Pro Ser Ala Phe Gly Ser Met Lys Val Ser Arg Asp Lys

20 25 30

Asp Gly Ser Lys Val Thr Thr Val Val Ala Thr Pro Gly Gln Gly Pro

35 40 45

Asp Arg Pro Gln Glu Val Ser Tyr Thr Asp Thr Lys Val Ile Gly Asn

5 50 55 60

Gly Ser Phe Gly Val Val Tyr Gln Ala Lys Leu Cys Asp Ser Gly Glu

65 70 75 80

10 Leu Val Ala Ile Lys Lys Val Leu Gln Asp Lys Arg Phe Lys Asn Arg

85 90 95

Glu Leu Gln Ile Met Arg Lys Leu Asp His Cys Asn Ile Val Arg Leu

100 105 110

15

Arg Tyr Phe Phe Tyr Ser Ser Gly Glu Lys Lys Asp Glu Val Tyr Leu

115 120 125

Asn Leu Val Leu Asp Tyr Val Pro Glu Thr Val Tyr Arg Val Ala Arg

20 130 135 140

His Tyr Ser Arg Ala Lys Gln Thr Leu Pro Val Ile Tyr Val Lys Leu

145 150 155 160

25 Tyr Met Tyr Gln Leu Phe Arg Ser Leu Ala Tyr Ile His Ser Phe Gly

165 170 175

Ile Cys His Arg Asp Ile Lys Pro Gln Asn Leu Leu Asp Pro Asp

180 185 190

Thr Ala Val Leu Lys Leu Cys Asp Phe Gly Ser Ala Lys Gln Leu Val
195 200 205

5 Arg Gly Glu Pro Asn Val Ser Tyr Ile Cys Ser Arg Tyr Tyr Arg Ala
210 215 220

Pro Glu Leu Ile Phe Gly Ala Thr Asp Tyr Thr Ser Ser Ile Asp Val
225 230 235 240

10 Trp Ser Ala Gly Cys Val Leu Ala Glu Leu Leu Gly Gln Pro Ile
245 250 255

Phe Pro Gly Asp Ser Gly Val Asp Gln Leu Val Glu Ile Ile Lys Val
15 260 265 270

Leu Gly Thr Pro Thr Arg Glu Gln Ile Arg Glu Met Asn Pro Asn Tyr
275 280 285

20 Thr Glu Phe Lys Phe Pro Gln Ile Lys Ala His Pro Trp Thr Lys Val
290 295 300

Phe Arg Pro Arg Thr Pro Pro Glu Ala Ile Ala Leu Cys Ser Arg Leu
305 310 315 320

25 Leu Glu Tyr Thr Pro Thr Ala Arg Leu Thr Pro Leu Glu Ala Cys Ala
325 330 335

His Ser Phe Phe Asp Glu Leu Arg Asp Pro Asn Val Lys His Pro Asn

340 345 350

Gly Arg Asp Thr Pro Ala Leu Phe Asn Phe Thr Thr Gln Glu Leu Ser

355 360 365

5

Ser Asn Pro Pro Leu Ala Thr Ile Leu Ile Pro Pro His Ala Arg Ile

370 375 380

Gln Ala Ala Ala Ser Thr Pro Thr Asn Ala Thr Ala Ala Ser Asp Ala

10 385 390 395 400

Asn Thr Gly Asp Arg Gly Gln Thr Asn Asn Ala Ala Ser Ala Ser Ala

405 410 415

15 Ser Asn Ser Thr

420

<210> 2

<211> 1260

20 <212> DNA

<213> Homo sapiens

<400> 2

atg tca ggg cgg ccc aga acc acc tcc ttt gcg gag agc tgc aag ccg 48

25 Met Ser Gly Arg Pro Arg Thr Thr Ser Phe Ala Glu Ser Cys Lys Pro

1 5 10 15

gtg çag cag cct tca gct ttt ggc agc atg aaa gtt agc aga gac aag 96

Val Gln Gln Pro Ser Ala Phe Gly Ser Met Lys Val Ser Arg Asp Lys

	20	25	30	
	gac ggc agc aag gtg aca aca gtg gig gca act cct ggg cag ggt cca			144
	Asp Gly Ser Lys Val Thr Thr Val Val Ala Thr Pro Gly Gln Gly Pro			
5	35	40	45	
	gac agg cca caa gaa gtc agc tat aca gac act aaa gtg att gga aat			192
	Asp Arg Pro Gln Glu Val Ser Tyr Thr Asp Thr Lys Val Ile Gly Asn.			
	50	55	60	
10	gga tca ttt ggt gtg gta tat caa gcc aaa ctt tgt gat tca gga gaa			240
	Gly Ser Phe Gly Val Val Tyr Gln Ala Lys Leu Cys Asp Ser Gly Glu			
	65	70	75	80
15	ctg gtc gcc atc aag aaa gta ttg cag gac aag aga ttt aag aat cga			288
	Leu Val Ala Ile Lys Lys Val Leu Gln Asp Lys Arg Phe Lys Asn Arg			
	85	90	95	
	gag ctc cag atc atg aga aag cta gat cac tgt aac ata gtc cga ttg			336
20	Glu Leu Gln Ile Met Arg Lys Leu Asp His Cys Asn Ile Val Arg Leu			
	100	105	110	
	cgt tat ttc ttc tac tcc agt ggt gag aag aaa gat gag gtc tat ctt			384
	Arg Tyr Phe Phe Tyr Ser Ser Gly Glu Lys Lys Asp Glu Val Tyr Leu			
25	115	120	125	
	aat ctg gtg ctg gac tat gtt ccg gaa aca gta tac aga gtt gcc aga			432
	Asn Leu Val Leu Asp Tyr Val Pro Glu Thr Val Tyr Arg Val Ala Arg			
	130	135	140	

145 150 155 160

5

165 170 175

10 180 185 190

195 200 205

15 210 215 220

20 225 230 235 240

25 245 250 255

cac tat agt cga gcc aaa cag acg ctc cct gtg att tat gtc aag ttg 480
His Tyr Ser Arg Ala Lys Gln Thr Leu Pro Val Ile Tyr Val Lys Leu

act gct gta tta aaa ctc tgt gac ttt gga agt gca aag cag ctg gtc 528
Tyr Met Tyr Gln Leu Phe Arg Ser Leu Ala Tyr Ile His Ser Phe Gly

atc tgc cat cgg gat att aaa ccg cag aac ctc ttg ttg gat cct gat 576
Ile Cys His Arg Asp Ile Lys Pro Gln Asn Leu Leu Asp Pro Asp

cga gga gaa ccc aat gtt tcg tat atc tgt tct cgg tac tat agg gca 624
Arg Gly Glu Pro Asn Val Ser Tyr Ile Cys Ser Arg Tyr Tyr Arg Ala

cca gag ttg atc ttt gga gcc act gat tat acc tct agt ata gat gta 672
Pro Glu Leu Ile Phe Gly Ala Thr Asp Tyr Thr Ser Ser Ile Asp Val

tgg tct gct ggc tgt gtg ttg gct gag ctg tta cta gga caa cca ata 768
Trp Ser Ala Gly Cys Val Leu Ala Glu Leu Leu Gly Gln Pro Ile

ttt cca ggg gat agt ggt gtg gat cag ttg gta gaa ata atc aag gtc	816		
Phe Pro Gly Asp Ser Gly Val Asp Gln Leu Val Glu Ile Ile Lys Val			
260	265	270	
5 ctg gga act cca aca agg gag caa atc aga gaa atg aac cca aac tac	864		
Leu Gly Thr Pro Thr Arg Glu Gln Ile Arg Glu Met Asn Pro Asn Tyr			
275	280	285	
aca gaa ttt aaa ttc cct caa att aag gca cat cct tgg act aag gtc	912		
10 Thr Glu Phe Lys Phe Pro Gln Ile Lys Ala His Pro Trp Thr Lys Val			
290	295	300	
ttc cga ccc cga act cca ccg gag gca att gca ctg tgt agc cgt ctg	960		
Phe Arg Pro Arg Thr Pro Pro Glu Ala Ile Ala Leu Cys Ser Arg Leu			
15 305	310	315	320
ctg gag tat aca cca act gcc cga cta aca cca ctg gaa gct tgt gca	1008		
Leu Glu Tyr Thr Pro Thr Ala Arg Leu Thr Pro Leu Glu Ala Cys Ala			
325	330	335	
20 cat tca ttt ttt gat gaa tta cgg gac cca aat gtc aaa cat cca aat	1056		
His Ser Phe Phe Asp Glu Leu Arg Asp Pro Asn Val Lys His Pro Asn			
340	345	350	
25 ggg cga gac aca cct gca ctc ttc aac ttc acc act caa gaa ctg tca	1104		
Gly Arg Asp Thr Pro Ala Leu Phe Asn Phe Thr Thr Gln Glu Leu Ser			
355	360	365	
agt aat cca cct ctg gct acc atc ctt att cct cct cat gct cggtt att	1152		

Ser Asn Pro Pro Leu Ala Thr Ile Leu Ile Pro Pro His Ala Arg Ile

370 375 380

caa gca gct gct tca acc ccc aca aat gcc aca gca gcg tca gat gct 1200

5 Gln Ala Ala Ala Ser Thr Pro Thr Asn Ala Thr Ala Ala Ser Asp Ala

385 390 395 400

aat act gga gac cgt gga cag acc aat aat gct gct tct gca tca gct 1248

Asn Thr Gly Asp Arg Gly Gln Thr Asn Asn Ala Ala Ser Ala Ser Ala

10 405 410 415

tcc aac tcc acc 1260

Ser Asn Ser Thr

420

15

<210> 3

<211> 737

<212> PRT

<213> Homo sapiens

20

<400> 3

Met Pro Leu Asn Arg Thr Leu Ser Met Ser Ser Leu Pro Gly Leu Glu

1 5 10 15

25 Asp Trp Glu Asp Glu Phe Asp Leu Glu Asn Ala Val Leu Phe Glu Val

20 25 30

Ala Trp Glu Val Ala Asn Lys Val Gly Gly Ile Tyr Thr Val Leu Gln

35 40 45

Thr Lys Ala Lys Val Thr Gly Asp Glu Trp Gly Asp Asn Tyr Phe Leu

50 55 60

5 Val Gly Pro Tyr Thr Glu Gln Gly Val Arg Thr Gln Val Glu Leu Leu

65 70 75 80

Glu Ala Pro Thr Pro Ala Leu Lys Arg Thr Leu Asp Ser Met Asn Ser

85 90 95

10

Lys Gly Cys Lys Val Tyr Phe Gly Arg Trp Leu Ile Glu Gly Gly Pro

100 105 110

Leu Val Val Leu Leu Asp Val Gly Ala Ser Ala Trp Ala Leu Glu Arg

15 115 120 125

Trp Lys Gly Glu Leu Trp Asp Ile Cys Asn Ile Gly Val Pro Trp Tyr

130 135 140

20 Asp Arg Glu Ala Asn Asp Ala Val Leu Phe Gly Phe Leu Thr Thr Trp

145 150 155 160

Phe Leu Gly Glu Phe Leu Ala Gln Ser Glu Glu Lys Pro His Val Val

165 170 175

25

Ala His Phe His Glu Trp Leu Ala Gly Val Gly Leu Cys Leu Cys Arg

180 185 190

Ala Arg Arg Leu Pro Val Ala Thr Ile Phe Thr Thr His Ala Thr Leu

195 200 205

Leu Gly Arg Tyr Leu Cys Ala Gly Ala Val Asp Phe Tyr Asn Asn Leu

210 215 220

5

Glu Asn Phe Asn Val Asp Lys Glu Ala Gly Glu Arg Gln Ile Tyr His

225 230 235 240

Arg Tyr Cys Met Glu Arg Ala Ala Ala His Cys Ala His Val Phe Thr

10 245 250 255

Thr Val Ser Gln Ile Thr Ala Ile Glu Ala Gln His Leu Leu Lys Arg

260 265 270

15 Lys Pro Asp Ile Val Thr Pro Asn Gly Leu Asn Val Lys Lys Phe Ser

275 280 285

Ala Met His Glu Phe Gln Asn Leu His Ala Gln Ser Lys Ala Arg Ile

290 295 300

20

Gln Glu Phe Val Arg Gly His Phe Tyr Gly His Leu Asp Phe Asn Leu

305 310 315 320

Asp Lys Thr Leu Tyr Phe Phe Ile Ala Gly Arg Tyr Glu Phe Ser Asn

25 325 330 335

Lys Gly Ala Asp Val Phe Leu Glu Ala Leu Ala Arg Leu Asn Tyr Leu

340 345 350

Leu Arg Val Asn Gly Ser Glu Gln Thr Val Val Ala Phe Phe Ile Met

355 360 365

Pro Ala Arg Thr Asn Asn Phe Asn Val Glu Thr Leu Lys Gly Gln Ala

5 370 375 380

Val Arg Lys Gln Leu Trp Asp Thr Ala Asn Thr Val Lys Glu Lys Phe

385 390 395 400

10 Gly Arg Lys Leu Tyr Glu Ser Leu Leu Val Gly Ser Leu Pro Asp Met

405 410 415

Asn Lys Met Leu Asp Lys Glu Asp Phe Thr Met Met Lys Arg Ala Ile

420 425 430

15

Phe Ala Thr Gln Arg Gln Ser Phe Pro Pro Val Cys Thr His Asn Met

435 440 445

Leu Asp Asp Ser Ser Asp Pro Ile Leu Thr Thr Ile Arg Arg Ile Gly

20 450 455 460

Leu Phe Asn Ser Ser Ala Asp Arg Val Lys Val Ile Phe His Pro Glu

465 470 475 480

25 Phe Leu Ser Ser Thr Ser Pro Leu Leu Pro Val Asp Tyr Glu Glu Phe

485 490 495

Val Arg Gly Cys His Leu Gly Val Phe Pro Ser Tyr Tyr Glu Pro Trp

500 505 510

Gly Tyr Thr Pro Ala Glu Cys Thr Val Met Gly Ile Pro Ser Ile Ser

515 520 525

5 Thr Asn Leu Ser Gly Phe Gly Cys Phe Met Glu Glu His Ile Ala Asp

530 535 540

Pro Ser Ala Tyr Gly Ile Tyr Ile Leu Asp Arg Arg Phe Arg Ser Leu

545 550 555 560

10

Asp Asp Ser Cys Ser Gln Leu Thr Ser Phe Leu Tyr Ser Phe Cys Gln

565 570 575

Gln Ser Arg Arg Gln Arg Ile Ile Gln Arg Asn Arg Thr Glu Arg Leu

15 580 585 590

Ser Asp Leu Leu Asp Trp Lys Tyr Leu Gly Arg Tyr Tyr Met Ser Ala

595 600 605

20 Arg His Met Ala Leu Ser Lys Ala Phe Pro Glu His Phe Thr Tyr Glu

610 615 620

Pro Asn Glu Ala Asp Ala Ala Gln Gly Tyr Arg Tyr Pro Arg Pro Ala

625 630 635 640

25

Ser Val Pro Pro Ser Pro Ser Leu Ser Arg His Ser Ser Pro His Gln

645 650 655

Ser Glu Asp Glu Glu Asp Pro Arg Asn Gly Pro Leu Glu Glu Asp Gly

660

665

670

Glu Arg Tyr Asp Glu Asp Glu Glu Ala Ala Lys Asp Arg Arg Asn Ile

675

680

685

5

Arg Ala Pro Glu Trp Pro Arg Arg Ala Ser Cys Thr Ser Ser Thr Ser

690

695

700

Gly Arg Lys Arg Asn Ser Val Asp Thr Ala Thr Ser Ser Ser Leu Ser

10 705

710

715

720

Thr Pro Ser Glu Pro Leu Ser Pro Thr Ser Ser Leu Gly Glu Glu Arg

725

730

735

15 Asn

<210> 4

<211> 2211

<212> DNA

20 <213> Homo sapiens

<400> 4

atg cct tta aac cgc act ttg tcc atg tcc tca ctg cca gga ctg gag 48

Met Pro Leu Asn Arg Thr Leu Ser Met Ser Ser Leu Pro Gly Leu Glu

25 1

5

10

15

gac tgg gag gat gaa ttc gac ctg gag aac gca gtg ctc ttc gaa gtg 96

Asp Trp Glu Asp Glu Phe Asp Leu Glu Asn Ala Val Leu Phe Glu Val

20

25

30

gcc tgg gag gtg gct aac aag gtg ggt ggc atc tac acg gtg ctg cag 144

Ala Trp Glu Val Ala Asn Lys Val Gly Gly Ile Tyr Thr Val Leu Gln

35

40

45

5

acg aag gcg aag gtg aca ggg gac gaa tgg ggc gac aac tac ttc ctg 192

Thr Lys Ala Lys Val Thr Gly Asp Glu Trp Gly Asp Asn Tyr Phe Leu

50

55

60

10 gtg ggg ccg tac acg gag cag ggc gtc agg acc cag gtg gaa ctg ctg 240

Val Gly Pro Tyr Thr Glu Gln Gly Val Arg Thr Gln Val Glu Leu Leu

65

70

75

80

gag gcc ccc acc ccg gcc ctg aag agg aca ctg gat tcc atg aac agc 288

15 Glu Ala Pro Thr Pro Ala Leu Lys Arg Thr Leu Asp Ser Met Asn Ser

85

90

95

aag ggc tgc aag gtg tat ttc ggg cgc tgg ctg atc gag gga ggc cct 336

Lys Gly Cys Lys Val Tyr Phe Gly Arg Trp Leu Ile Glu Gly Pro

20

100

105

110

ctg gtg gtg ctc ctg gac gtg ggt gcc tca gct tgg gcc ctg gag cgc 384

Leu Val Val Leu Leu Asp Val Gly Ala Ser Ala Trp Ala Leu Glu Arg

115

120

125

25

tgg aag gga gag ctc tgg gat atc tgc aac atc gga gtg ccg tgg tac 432

Trp Lys Gly Glu Leu Trp Asp Ile Cys Asn Ile Gly Val Pro Trp Tyr

130

135

140

gac cgc gag gcc aac gac gct gtc ctc ttt ggc ttt ctg acc acc acc tgg 480
 Asp Arg Glu Ala Asn Asp Ala Val Leu Phe Gly Phe Leu Thr Thr Trp
 145 150 155 160

5 ttc ctg ggt gag ttc ctg gca cag agt gag gag aag cca cat gtg gtt 528
 Phe Leu Gly Glu Phe Leu Ala Gln Ser Glu Glu Lys Pro His Val Val
 165 170 175

gct cac ttc cat gag tgg ttg gca ggc gtt gga ctc tgc ctg tgt cgt 576
 10 Ala His Phe His Glu Trp Leu Ala Gly Val Gly Leu Cys Leu Cys Arg
 180 185 190

gcc cgg cga ctg cct gta gca acc atc ttc acc acc cat gcc acg ctg 624
 Ala Arg Arg Leu Pro Val Ala Thr Ile Phe Thr Thr His Ala Thr Leu
 15 195 200 205

ctg ggg cgc tac ctg tgt gcc ggt gcc gtg gac ttc tac aac aac ctg 672
 Leu Gly Arg Tyr Leu Cys Ala Gly Ala Val Asp Phe Tyr Asn Asn Leu
 210 215 220

20 gag aac ttc aac gtg gac aag gaa gca ggg gag agg cag atc tac cac 720
 Glu Asn Phe Asn Val Asp Lys Glu Ala Gly Glu Arg Gln Ile Tyr His
 225 230 235 240

25 cga tac tgc atg gaa agg gcg gca gcc cac tgc gct cac gtc ttc act 768
 Arg Tyr Cys Met Glu Arg Ala Ala His Cys Ala His Val Phe Thr
 245 250 255

act gtg tcc cag atc acc gcc atc gag gca cag cac ttg ctc aag agg 816

Thr Val Ser Gln Ile Thr Ala Ile Glu Ala Gln His Leu Leu Lys Arg

260

265

270

aaa cca gat att gtg acc ccc aat ggg ctg aat gtg aag aag ttt tct 864

5 Lys Pro Asp Ile Val Thr Pro Asn Gly Leu Asn Val Lys Lys Phe Ser

275

280

285

gcc atg cat gag ttc cag aac ctc cat gct cag agc aag gct cga atc 912

Ala Met His Glu Phe Gln Asn Leu His Ala Gln Ser Lys Ala Arg Ile

10 290

295

300

cag gag ttt gtg cgg ggc cat ttt tat ggg cat ctg gac ttc aac ttg 960

Gln Glu Phe Val Arg Gly His Phe Tyr Gly His Leu Asp Phe Asn Leu

305

310

315

320

15

gac aag acc tta tac ttc ttt atc gcc ggc cgc tat gag ttc tcc aac 1008

Asp Lys Thr Leu Tyr Phe Phe Ile Ala Gly Arg Tyr Glu Phe Ser Asn

325

330

335

20 aag ggt gct gac gtc ttt ctg gag gca ttg gct cgg ctc aac tat ctg 1056

Lys Gly Ala Asp Val Phe Leu Glu Ala Leu Ala Arg Leu Asn Tyr Leu

340

345

350

ctc aga gtg aac ggc agc gag cag aca gtg gtt gcc ttc ttc atc atg 1104

25 Leu Arg Val Asn Gly Ser Glu Gln Thr Val Val Ala Phe Phe Ile Met

355

360

365

cca gcg cgg acc aac aat ttc aac gtg gaa acc ctc aaa ggc caa gct 1152

Pro Ala Arg Thr Asn Asn Phe Asn Val Glu Thr Leu Lys Gly Gln Ala

	370	375	380	
	gtg cgc aaa cag ctt tgg gac acg gcc aac acg gtg aag gaa aag ttc			1200
	Val Arg Lys Gln Leu Trp Asp Thr Ala Asn Thr Val Lys Glu Lys Phe			
5	385	390	395	400
	ggg agg aag ctt tat gaa tcc tta ctg gtt ggg agc ctt ccc gac atg			1248
	Gly Arg Lys Leu Tyr Glu Ser Leu Leu Val Gly Ser Leu Pro Asp Met			
	405	410	415	
10				
	aac aag atg ctg gat aag gaa gac ttc act atg atg aag aga gcc atc			1296
	Asn Lys Met Leu Asp Lys Glu Asp Phe Thr Met Met Lys Arg Ala Ile			
	420	425	430	
15	ttt gca acg cag cgg cag tct ttc ccc cct gtg tgc acc cac aat atg			1344
	Phe Ala Thr Gln Arg Gln Ser Phe Pro Pro Val Cys Thr His Asn Met			
	435	440	445	
20	ctg gat gac tcc tca gac ccc atc ctg acc acc atc cgc cga atc ggc			1392
	Leu Asp Asp Ser Ser Asp Pro Ile Leu Thr Thr Ile Arg Arg Ile Gly			
	450	455	460	
25	ctc ttc aat agc agt gcc gac agg gtg aag gtg att ttc cac ccg gag			1440
	Leu Phe Asn Ser Ser Ala Asp Arg Val Lys Val Ile Phe His Pro Glu			
	465	470	475	480
	ttc ctc tcc tcc aca agc ccc ctg ctc cct gtg gac tat gag gag ttt			1488
	Phe Leu Ser Ser Thr Ser Pro Leu Leu Pro Val Asp Tyr Glu Glu Phe			
	485	490	495	

gtc cgt ggc tgt cac ctt gga gtc ttc ccc tcc tac tat gag cct tgg 1536
 Val Arg Gly Cys His Leu Gly Val Phe Pro Ser Tyr Tyr Glu Pro Trp

500 505 510

5

ggc tac aca ccg gct gag tgc acg gtt atg gga atc ccc agt atc tcc 1584
 Gly Tyr Thr Pro Ala Glu Cys Thr Val Met Gly Ile Pro Ser Ile Ser

515 520 525

10 acc aat ctc tcc ggc ttc ggc tgc ttc atg gag gaa cac atc gca gac 1632
 Thr Asn Leu Ser Gly Phe Gly Cys Phe Met Glu Glu His Ile Ala Asp

530 535 540

15 ccc tca gct tac ggt atc tac att ctt gac cgg cgg ttc cgc agc ctg 1680
 Pro Ser Ala Tyr Gly Ile Tyr Ile Leu Asp Arg Arg Phe Arg Ser Leu
 545 550 555 560

20 gat gat tcc tgc tcg cag ctc acc tcc ttc ctc tac agt ttc tgt cag 1728
 Asp Asp Ser Cys Ser Gln Leu Thr Ser Phe Leu Tyr Ser Phe Cys Gln
 565 570 575

cag agc cgg cgg cag cgt atc atc cag cgg aac cgc acg gag cgc ctc 1776
 Gln Ser Arg Arg Gln Arg Ile Ile Gln Arg Asn Arg Thr Glu Arg Leu
 580 585 590

25

tcc gac ctt ctg gac tgg aaa tac cta ggc cgg tac tat atg tct gcg 1824
 Ser Asp Leu Leu Asp Trp Lys Tyr Leu Gly Arg Tyr Tyr Met Ser Ala
 595 600 605

cgc cac atg gcg ctg tcc aag gcc ttt cca gag cac ttc acc tac gag 1872
 Arg His Met Ala Leu Ser Lys Ala Phe Pro Glu His Phe Thr Tyr Glu
 610 615 620

5 ccc aac gag gcg gat gcg gcc cag ggg tac cgc tac cca cgg cca gcc 1920
 Pro Asn Glu Ala Asp Ala Ala Gln Gly Tyr Arg Tyr Pro Arg Pro Ala
 625 630 635 640

tcg gtg cca ccg tcg ccc tcg ctg tca cga cac tcc agc ccg cac cag 1968
 10 Ser Val Pro Pro Ser Pro Ser Leu Ser Arg His Ser Ser Pro His Gln
 645 650 655

agt gag gac gag gag gat ccc cgg aac ggg ccg ctg gag gaa gac ggc 2016
 Ser Glu Asp Glu Glu Asp Pro Arg Asn Gly Pro Leu Glu Glu Asp Gly
 15 660 665 670

gag cgc tac gat gag gac gag gag gcc aag gac cgg cgc aac atc 2064
 Glu Arg Tyr Asp Glu Asp Glu Ala Ala Lys Asp Arg Arg Asn Ile
 675 680 685

20 cgt gca cca gag tgg ccg cgc cga gcg tcc tgc acc tcc tcc acc agc 2112
 Arg Ala Pro Glu Trp Pro Arg Arg Ala Ser Cys Thr Ser Ser Thr Ser
 690 695 700

25 ggc cgc aag cgc aac tct gtg gac acg gcc acc tcc agc tca ctc agc 2160
 Gly Arg Lys Arg Asn Ser Val Asp Thr Ala Thr Ser Ser Ser Leu Ser
 705 710 715 720

acc ccg agc gag ccc ctc agc ccc acc agc tcc ctg ggc gag gag cgt 2208

Thr Pro Ser Glu Pro Leu Ser Pro Thr Ser Ser Leu Gly Glu Glu Arg

725

730

735

aac

2211

5 Asn

<210> 5

<211> 60

<212> PRT

10 <213> Artificial Sequence

<223> Description of Artificial Sequence: Synthetic PRT

<400> 5

15 Tyr Arg Arg Ala Ala Val Pro Pro Ser Pro Ser Leu Ser Arg His Ser

1

5

10

15

Ser Pro His Gln Ser Glu Asp Glu Glu Glu

20

25

20

<210> 6

<211> 24

<212> DNA

<213> Artificial Sequence

25

<223> Description of Artificial Sequence: synthetic DNA

<400> 6

agggtatgtat aaccggggaga tcgt

24

<210> 7

<211> 24

<212> DNA

5 <213> Artificial Sequence

<223> Description of Artificial Sequence: synthetic DNA

<400> 7

10 gggccatata gttccacaaa ggca 24

<210> 8

<211> 24

<212> DNA

15 <213> Artificial Sequence

<223> Description of Artificial Sequence: synthetic DNA

<400> 8

20 caaaaaggcac tggaactcgca aatg 24

<210> 9

<211> 24

<212> DNA

25 <213> Artificial Sequence

<223> Description of Artificial Sequence: synthetic DNA

<400> 9

ttcttggcaa cggcaacaaa ccac

24

<210> 10

<211> 24

5 <212> DNA

<213> Artificial Sequence

<223> Description of Artificial Sequence: synthetic DNA

10 <400> 10

ggtaatcga gaagagccat catg

24

<210> 11

<211> 24

15 <212> DNA

<213> Artificial Sequence

<223> Description of Artificial Sequence: synthetic DNA

20 <400> 11

ttcaggtaga gttggaggct gatg

24

<210> 12

<211> 25

25 <212> DNA

<213> Artificial Sequence

<223> Description of Artificial Sequence: synthetic DNA

<400> 12

gaagaacttt cctgatggcc accag

25

<210> 13

5 <211> 25

<212> DNA

<213> Artificial Sequence

<223> Description of Artificial Sequence: synthetic DNA

10

<400> 13

ctggtggcca tcaggaaagt tcttc

25

<210> 14

15 <211> 21

<212> RNA

<213> Artificial Sequence

<223> Description of Artificial Sequence: synthetic RNA

20

<400> 14

gucaguuaca cagacacuat t

21

<210> 15

25 <211> 21

<212> RNA

<213> Artificial Sequence

<223> Description of Artificial Sequence: synthetic RNA

<400> 15

uagugucugu guaacugact t

21

5 <210> 16

<211> 21

<212> RNA

<213> Artificial Sequence

10 <223> Description of Artificial Sequence: synthetic RNA

<400> 16

gucuagccua uauccauuct t

21

15 <210> 17

<211> 21

<212> RNA

<213> Artificial Sequence

20 <223> Description of Artificial Sequence: synthetic RNA

<400> 17

gaauggauau aggcuagact t

21

INTERNATIONAL SEARCH REPORT

International application No.

PCT/JP2004/005503

A. CLASSIFICATION OF SUBJECT MATTER

Int.Cl⁷ A61K45/00, 31/404, 31/405, 31/407, 31/553, C07D403/04, 403/14, 498/22, A61P25/28, 25/08, 25/22, 25/18, 25/24, C07D487/14

According to International Patent Classification (IPC) or to both national classification and IPC

B. FIELDS SEARCHED

Minimum documentation searched (classification system followed by classification symbols)

Int.Cl⁷ A61K45/00, 31/404, 31/405, 31/407, 31/553, C07D403/04, 403/14, 498/22, A61P25/28, 25/08, 25/22, 25/18, 25/24, C07D487/14

Documentation searched other than minimum documentation to the extent that such documents are included in the fields searched

Jitsuyo Shinan Koho	1922-1996	Toroku Jitsuyo Shinan Koho	1994-2004
Kokai Jitsuyo Shinan Koho	1971-2004	Jitsuyo Shinan Toroku Koho	1996-2004

Electronic data base consulted during the international search (name of data base and, where practicable, search terms used)
CAPLUS (STN), BIOSIS (STN), REGISTRY (STN), EMBASE (STN), MEDLINE (STN)

C. DOCUMENTS CONSIDERED TO BE RELEVANT

Category*	Citation of document, with indication, where appropriate, of the relevant passages	Relevant to claim No.
X	WO 02/062387 A1 (SMITHKLINE BEECHAM P.L.C.), 15 August, 2002 (15.08.02),	1-3, 20, 37, 38, 40, 41
Y	Full text; particularly, Claims 1 to 12 (Family: none)	4-19, 21-36
X	WO 99/42100 A1 (Sagami Chemical Research Center), 26 August, 1999 (26.08.99), Full text; particularly, Claims 1 to 19; compound No.13 & EP 1057484 A1	1-3, 5-7, 20, 22-24, 37, 38, 40, 41
X	JP 2-306974 A (Goedecke AG.), 20 December, 1990 (20.12.90), Full text; particularly, Claims 1 to 7 & EP 397060 A3	1-3, 5-7, 20, 22-24, 37, 38, 40, 41

 Further documents are listed in the continuation of Box C. See patent family annex.

* Special categories of cited documents:	
"A"	document defining the general state of the art which is not considered to be of particular relevance
"E"	earlier application or patent but published on or after the international filing date
"L"	document which may throw doubts on priority claim(s) or which is cited to establish the publication date of another citation or other special reason (as specified)
"O"	document referring to an oral disclosure, use, exhibition or other means
"P"	document published prior to the international filing date but later than the priority date claimed
"T"	later document published after the international filing date or priority date and not in conflict with the application but cited to understand the principle or theory underlying the invention
"X"	document of particular relevance; the claimed invention cannot be considered novel or cannot be considered to involve an inventive step when the document is taken alone
"Y"	document of particular relevance; the claimed invention cannot be considered to involve an inventive step when the document is combined with one or more other such documents, such combination being obvious to a person skilled in the art
"&"	document member of the same patent family

Date of the actual completion of the international search
09 June, 2004 (09.06.04)Date of mailing of the international search report
29 June, 2004 (29.06.04)Name and mailing address of the ISA/
Japanese Patent Office

Authorized officer

Facsimile No.

Telephone No.

INTERNATIONAL SEARCH REPORT

International application No.

PCT/JP2004/005503

C (Continuation). DOCUMENTS CONSIDERED TO BE RELEVANT

Category*	Citation of document, with indication, where appropriate, of the relevant passages	Relevant to claim No.
X	WO 01/13916 A1 (Sagami Chemical Research Center), 01 March, 2001 (01.03.01), Full text; particularly, Claims 1 to 17; compound Nos. 15, 16 & EP 1224932 A1	1-3, 5, 6, 8, 10, 20, 22, 23, 25, 27, 37, 38, 40, 41
X	JP 7-508268 A (Goedecke AG.), 14 September, 1995 (14.09.95), Full text; particularly, Claims 1 to 15 & US 5883114 A	1-3, 5, 6, 20, 22, 23, 37, 38, 40, 41
X	WO 00/38675 A1 (SMITHKLINE BEECHM P.L.C.), 06 July, 2000 (06.07.00), Full text; particularly, Claims 1 to 11; examples & EP 1140070 A1	1-3, 5, 9, 10, 20, 22, 26, 27, 37, 38, 40, 41
X	LOAST, Maryse et al., Paullones are potent inhibitors of glycogen synthase kinase-3 β and cyclin-dependent kinase 5/p25, Eur. J. Biochem., 2000, Vol.267, pages 5983 to 5994; full text, particularly, page 5983; Fig. 2	1-3, 5, 11-15, 20, 22, 28-32, 37, 38, 40, 41
X	WO 01/37819 A2 (CENTRE NATIONAL DE LA RECHERCHE SCIENTIFIQUE), 31 May, 2001 (31.05.01), Full text; particularly, Claims 1 to 15 & JP 2003-514850 A	1-3, 16-20, 33-38, 40, 41
X	CHEN, Guang et al., Enhancement of hippocampal neurogenesis by lithium, Journal of Neurochemistry, 2000, Vol.75, pages 1729 to 1734; full text; particularly, page 1729, abstract	1-4, 20, 21, 37, 38, 40, 41
Y		5-19, 22-36

INTERNATIONAL SEARCH REPORT

International application No.

PCT/JP2004/005503

Box No. I Nucleotide and/or amino acid sequence(s) (Continuation of item 1.b of the first sheet)

1. With regard to any nucleotide and/or amino acid sequence disclosed in the international application and necessary to the claimed invention, the international search was carried out on the basis of:
 - a. type of material
 - a sequence listing
 - table(s) related to the sequence listing
 - b. format of material
 - in written format
 - in computer readable form
 - c. time of filing/furnishing
 - contained in the international application as filed
 - filed together with the international application in computer readable form
 - furnished subsequently to this Authority for the purposes of search
2. In addition, in the case that more than one version or copy of a sequence listing and/or table relating thereto has been filed or furnished, the required statements that the information in the subsequent or additional copies is identical to that in the application as filed or does not go beyond the application as filed, as appropriate, were furnished.
3. Additional comments:

INTERNATIONAL SEARCH REPORT

International application No.
PCT/JP2004/005503

Box No. II Observations where certain claims were found unsearchable (Continuation of item 2 of first sheet)

This international search report has not been established in respect of certain claims under Article 17(2)(a) for the following reasons:

1. Claims Nos.: 39
because they relate to subject matter not required to be searched by this Authority, namely:
Claim 39 pertains to methods for treatment of the human body by therapy.
2. Claims Nos.:
because they relate to parts of the international application that do not comply with the prescribed requirements to such an extent that no meaningful international search can be carried out, specifically:
3. Claims Nos.:
because they are dependent claims and are not drafted in accordance with the second and third sentences of Rule 6.4(a).

Box No. III Observations where unity of invention is lacking (Continuation of item 3 of first sheet)

This International Searching Authority found multiple inventions in this international application, as follows:
(See extra sheet.)

1. As all required additional search fees were timely paid by the applicant, this international search report covers all searchable claims.
2. As all searchable claims could be searched without effort justifying an additional fee, this Authority did not invite payment of any additional fee.
3. As only some of the required additional search fees were timely paid by the applicant, this international search report covers only those claims for which fees were paid, specifically claims Nos.:
4. No required additional search fees were timely paid by the applicant. Consequently, this international search report is restricted to the invention first mentioned in the claims; it is covered by claims Nos.:

Remark on Protest

The additional search fees were accompanied by the applicant's protest.
 No protest accompanied the payment of additional search fees.

INTERNATIONAL SEARCH REPORT

International application No.

PCT/JP2004/005503

Continuation of Box No.III of continuation of first sheet(2)

It appears that the matter common to nerve degeneration drugs containing as the active ingredient the compounds having specific structures represented by the formulae (I) to (V) as set forth in claims 1 to 41 resides in "a nerve degeneration drug containing as the active ingredient a substance inhibiting the activity of a glycogen synthase kinase-3".

On the other hand, a nerve degeneration drug containing a substance inhibiting the activity of a glycogen synthase kinase-3 as the active ingredient is reported in the following document. Thus, the constitution of the above common matter cannot be considered as being novel and, therefore, cannot be regarded as the gist of the invention.

Such being the case, the nerve degeneration drugs containing as the active ingredient the compounds represented by the five different formulae as set forth in claims 1 to 41 cannot be regarded as a group of inventions so linked as to form a single general inventive concept.

Document: WO 02/062387 A1 (SMKTHKLINE BEECHAM P.L.C.) 2002.08.15

A. 発明の属する分野の分類 (国際特許分類 (IPC))

Int. Cl' A61K45/00, 31/404, 31/4045, 31/405, 31/407, 31/553, C07D403/04, 403/14, 498/22, A61P25/28, 25/08, 25/22, 25/18, 25/24, C07D487/14

B. 調査を行った分野

調査を行った最小限資料 (国際特許分類 (IPC))

Int. Cl' A61K45/00, 31/404, 31/4045, 31/405, 31/407, 31/553, C07D403/04, 403/14, 498/22, A61P25/28, 25/08, 25/22, 25/18, 25/24, C07D487/14

最小限資料以外の資料で調査を行った分野に含まれるもの

日本国実用新案公報	1922-1996年
日本国公開実用新案公報	1971-2004年
日本国登録実用新案公報	1994-2004年
日本国実用新案登録公報	1996-2004年

国際調査で使用した電子データベース (データベースの名称、調査に使用した用語)

CAPLUS (STN)	BIOSIS (STN)
REGISTRY (STN)	EMBASE (STN)
MEDLINE (STN)	

C. 関連すると認められる文献

引用文献の カテゴリー*	引用文献名 及び一部の箇所が関連するときは、その関連する箇所の表示	関連する 請求の範囲の番号
X	WO 02/062387 A1 (SMITHKLINE BEECHAM P. L. C.) 2002. 08. 15, 全文, 特に請求項1-12 (ファミリーなし)	1-3, 20, 37, 38, 40, 41 4-19, 21-36
Y		
X	WO 99/42100 A1 (財団法人相模中央化学研究所) 1999. 08. 26, 全文, 特に請求項1-19, 化合物13等 & EP 1057484 A1	1-3, 5-7, 20, 22-24, 37, 38 40, 41

C欄の続きにも文献が列挙されている。

パテントファミリーに関する別紙を参照。

* 引用文献のカテゴリー

「A」特に関連のある文献ではなく、一般的技術水準を示すもの
 「E」国際出願日前の出願または特許であるが、国際出願日以後に公表されたもの
 「L」優先権主張に疑義を提起する文献又は他の文献の発行日若しくは他の特別な理由を確立するために引用する文献 (理由を付す)
 「O」口頭による開示、使用、展示等に言及する文献
 「P」国際出願日前で、かつ優先権の主張の基礎となる出願

の日の後に公表された文献

「T」国際出願日又は優先日後に公表された文献であって出願と矛盾するものではなく、発明の原理又は理論の理解のために引用するもの
 「X」特に関連のある文献であって、当該文献のみで発明の新規性又は進歩性がないと考えられるもの
 「Y」特に関連のある文献であって、当該文献と他の1以上の文献との、当業者にとって自明である組合せによって進歩性がないと考えられるもの
 「&」同一パテントファミリー文献

国際調査を完了した日 09. 06. 2004	国際調査報告の発送日 29. 6. 2004
国際調査機関の名称及びあて先 ・日本国特許庁 (ISA/JP) 郵便番号100-8915 東京都千代田区霞が関三丁目4番3号	特許庁審査官 (権限のある職員) 小堀 麻子 電話番号 03-3581-1101 内線 3451 4 C 2938

C (続き) 関連すると認められる文献		関連する 請求の範囲の番号
引用文献の カテゴリー*	引用文献名 及び一部の箇所が関連するときは、その関連する箇所の表示	
X	JP 2-306974 A(ゲデック・アクチエングゼルシャフト)1990.12.20, 全文, 特に請求項1-7 & EP 397060 A3	1-3, 5-7, 20, 22-24, 37, 38, 40, 41
X	WO 01/13916 A1(財団法人相模中央化学研究所)2001.03.01, 全文, 特に請求項1-17, 化合物15, 16 & EP 1224932 A1	1-3, 5, 6, 8, 10 20, 22, 23, 25, 27, 37, 38, 40, 41
X	JP 7-508268 A(ゲデック・アクチエングゼルシャフト)1995.09.14 全文, 特に請求項1-15 & US 5883114 A	1-3, 5, 6, 20, 22, 23, 37, 38, 40, 41
X	WO 00/38675 A1(SMITHKLINE BEECHM P. L. C)2000.07.06, 全文, 特 に請求項1-11, EXAMPLE & EP 1140070 A1	1-3, 5, 9, 10, 20, 22, 26, 27, 37, 38, 40, 41
X	LOAST, Maryse <i>et al</i> , Paullones are potent inhibitors of glycogen synthase kinase-3 β and cyclin-dependent kinase 5/p25, Eur. J. Biochem., 2000, Vol. 267, pp5983-5994, 全文, 特に第5983頁, Fig. 2	1-3, 5, 11-15, 20, 22, 28-32, 37, 38, 40, 41
X	WO 01/37819 A2(CENTRE NATIONAL DE LA RECHERCHE SCIENTIFIQUE)2001.05.31, 全文, 特に請求項1-15 & JP 2003-514850 A	1-3, 16-20, 33-38, 40, 41
X	CHEN, Guang <i>et al</i> , Enhancement of hippocampal neurogenesis by lithium, Journal of Neurochemistry, 2000, Vol. 75, pp1729- 1734, 全文, 特に第1729頁Abstract	1-4, 20, 21, 37, 38, 40, 41
Y		5-19, 22-36

第1欄 ヌクレオチド又はアミノ酸配列（第1ページの1. bの続き）

1. この国際出願で開示されかつ請求の範囲に係る発明に必要なヌクレオチド又はアミノ酸配列に関して、以下に基づき国際調査を行った。

a. タイプ 配列表
 配列表に関連するテーブル

b. フォーマット 書面
 コンピュータ読み取り可能な形式

c. 提出時期 出願時の国際出願に含まれる
 この国際出願と共にコンピュータ読み取り可能な形式により提出された
 出願後に、調査のために、この国際調査機関に提出された

2. さらに、配列表又は配列表に関連するテーブルを提出した場合に、出願後に提出した配列若しくは追加して提出した配列が出願時に提出した配列と同一である旨、又は、出願時の開示を超える事項を含まない旨の陳述書の提出があった。

3. 拡足意見：

第II欄 請求の範囲の一部の調査ができないときの意見 (第1ページの2の続き)

法第8条第3項 (PCT17条(2)(a)) の規定により、この国際調査報告は次の理由により請求の範囲の一部について作成しなかった。

1. 請求の範囲 39 は、この国際調査機関が調査をすることを要しない対象に係るものである。
つまり、
請求の範囲39は治療による人体の処置方法に関するものである。
2. 請求の範囲 は、有意義な国際調査をできる程度まで所定の要件を満たしていない国際出願の部分に係るものである。つまり、
3. 請求の範囲 は、従属請求の範囲であってPCT規則6.4(a)の第2文及び第3文の規定に従って記載されていない。

第III欄 発明の単一性が欠如しているときの意見 (第1ページの3の続き)

次に述べるようにこの国際出願に二以上の発明があるとこの国際調査機関は認めた。

特別ページ参照

1. 出願人が必要な追加調査手数料をすべて期間内に納付したので、この国際調査報告は、すべての調査可能な請求の範囲について作成した。
2. 追加調査手数料を要求するまでもなく、すべての調査可能な請求の範囲について調査することができたので、追加調査手数料の納付を求めなかった。
3. 出願人が必要な追加調査手数料を一部のみしか期間内に納付しなかったので、この国際調査報告は、手数料の納付のあった次の請求の範囲のみについて作成した。
4. 出願人が必要な追加調査手数料を期間内に納付しなかったので、この国際調査報告は、請求の範囲の最初に記載されている発明に係る次の請求の範囲について作成した。

追加調査手数料の異議の申立てに関する注意

追加調査手数料の納付と共に出願人から異議申立てがあった。
 追加調査手数料の納付と共に出願人から異議申立てがなかった。

(第III欄の続き)

本願の請求の範囲1-41に係る、式(I)-(V)で表される特定の構造を有する化合物を有効成分とする神経再生薬の共通部は「グリコーゲンシンターゼキナーゼ-3の活性を阻害する物質を有効成分として含有してなる神経再生薬」であると認められる。

一方、下記文献には、グリコーゲンシンターゼキナーゼ-3の活性を阻害する物質を有効成分として含有する神経再生薬が記載されているため、上記共通部の構成は新規な事項であると認められず、発明の主要部とみることができない。

してみれば、本願の請求の範囲1-41に係る、5つの異なる式で表される化合物を有効成分とする神経再生薬の発明は、互いに单一の一般的発明概念を形成するように連関している一群の発明には該当しない。

文献：WO 02/062387 A1 (SMITHKLINE BEECHAM P. L. C.) 2002. 08. 15